【引用・参考文献】
大野薫　1989　「匙形土製品小考」『大阪文化財論集』（財）大阪文化財センター
河口貞徳　1963　「鹿児島県高橋貝塚発掘概報」『九州考古学』第18号　九州考古学会
小林康男　1981　「縄文・弥生の匙形土製品」『信濃』第33巻第７号　信濃史学会
佐原真　1996　『食の考古学』東京大学出版会
新里貴之　2004　「沖縄諸島の土器」『考古資料大観』第12巻　小学館
角南聡一郎　2001　「四国の匙・杓子形土製品」『旧練兵場遺跡』善通寺市・（財）元興寺文化財研究所
出口浩　1978　「（７）小結」『萩原遺跡』姶良町理蔵文化財発掘調査報告書
中尾佐助　1972　『料理の起源』日本放送出版協会
長野眞一　1994　「第３章　調査の概要」『保養院遺跡』鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書（11）鹿児島県立理蔵文化財センター
中村直子　2005　「古墳時代の遺物について」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』19　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
西園勝彦　2005　「第Ⅵ章　発掘調査のまとめ」『山下堀頭遺跡』鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書（92）鹿児島県立理蔵文化財センター
東和幸　1992　「第Ⅳ章２．掘り込み」『島ノ巣遺跡（他６遺跡）』大根占町埋蔵文化財発掘調査報告書（５）大根占町教育委員会

（黒川忠広）

（２）古墳時代の棒状礫について

当遺跡からは，Ⅲa′層中及び竪穴住居跡内から棒状礫が集中して検出されている。このような遺構あるいは状態に関して，南九州においてわずかではあるが確認されており，ここでまとめてみたい。

鹿児島県下で確認されている遺跡を表27に示した。古くは，辻堂原遺跡の48号住居で，「河原石として６点余りがまとまっている」と記述され写真が掲載されている柔当遺跡の上流に位置する川辺町古市遺跡では，３号竪穴住居跡の埋土中から20点余り棒状礫が出土している。また，宮崎県においても都城市坂元Ｂ遺跡や延岡市吉野第２遺跡などにおいても出土している。都城市坂元Ｂ遺跡を報告した柔畑光博氏は，「特別な加工痕の認められない自然礫が10点ほど出土」し，「これらはすべて重さ1.4～2kgの中に収まる」とデータ分析を実施している（畑2006）。吉野第２遺跡を報告した日高広人氏は，「10～15cm規模の棒状の砂岩礫が10数点認められる。そのうちの１点については，敲打痕が認められるが，他のものには使用痕や加工痕等は認められなかった」と述べている（日高2007）。また，中村直子氏は「住居跡床面に，ほぼ同じ大きさの河原石を複数個まとめて置いている遺構も確認されている」と注意を払っている（中村2006）。

表27　棒状礫出土遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	遺構名称等
1	上水流遺跡	南さつま市金峰町花瀬	６号住 ８号住 包含層集積
2	古市遺跡	南九州市川辺町	３号住
3	堂園遺跡８地点	南九州市川辺町神殿	住居内
4	辻堂原遺跡	日置市吹上町花熟里	48号住
5	鹿大構内遺跡	鹿児島市郡元町	
6	永野原遺跡	肝付町（高山町）後田永野原	１号住 ２号住 ５号住 包含層集積２基
7	保養院遺跡	姶良郡姶良町平松	
8	軍宮下遺跡	鹿屋市吾平町上名	13T包含層集積

はじめに，当遺跡の棒状礫の概要を述べておきたい。上水流遺跡出土の棒状礫は，周辺で比較的容易に獲得できる頁岩系の石材が大半を占め，その名称の通り棒状を呈する。その長さと重量は，表１・２の通りである。これで見ると，長さは13～15cm，重さは400～500ｇに分布が集中する。また，感覚的に握り易く両端に敲打痕が認められる資料もある。だが，その数は総出土点数に対して25％と決して多くはない。このことから，厳密に全てが敲打具であるとは言い切れない部分もある。このような状況であるが，敲打を有する資料について，敲打の角度は，敲打痕を有する部分が比較的平面を形成しているため，振り下ろす敲打と言うよりは，むしろ，上から潰すような敲きが多かったという可能性も考えられる。また，敲打面がわずかながら赤化しており，高温の状態のものを対象物としていた可能性もある。

ここで，川辺町古市遺跡資料を参照したい。表28は，長さと重さについて示したものである。この表から当遺跡の傾向と近似していることがわかる。残念ながら他の遺跡資料についてデータを作成するには至らなかったが，棒状礫の集中には目的があった点を指摘することが出来よう。加えて，これらの棒状礫は全体的にトロッとして光沢を持つものが多い。これは，直接手握ると言うよりは，むしろ手袋や革などを介して握り敲打を行っていたとは考えられないだろうか。

さて，棒状礫の用途について述べるにあたり，先述した敲打面の赤化現象に注目したい。礫素材のもので赤化現象が見られるのは，他に，７号住出土の台石があり，その中央部分には赤化現象が看取される。このような事例としては，高山町永野原遺跡が挙げられよう。ここでは，鉄砧石としての台石や鉄滓あるいは高坏転用羽口などが出土し，「鍛造による小規模な鉄器生産」が指摘され，「敲石・台石などを鍛冶具として使用する弥生時代的鉄器生産形態」であるとしている（角南2000）。当遺跡では，肝心の鉄滓などの資料は出土していない。これは，調査段階での視点の欠如であり，竪穴住居跡内埋土のふるいがけは実施しているが，磁石等によるサンプ

表28　古市遺跡２号住居内出土礫

番号	重量(kg)	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
1	0.22	13.1	5.7	2.9	
2	0.46	13.1	7.0	4.5	
3	0.27	14.5	4.2	3.6	
4	0.56	16.8	6.7	5.2	
5	0.42	14.2	6.0	3.9	
6	0.44	15.2	5.8	4.2	
7	0.34	13.2	6.2	3.3	
8	0.30	13.6	5.0	3.4	
9	0.38	14.2	5.5	3.9	
10	0.44	13.7	6.8	4.3	
11	0.48	13.0	7.0	4.0	
12	0.40	13.3	5.6	3.6	
13	0.64	15.8	5.8	5.2	
14	0.22	13.2	3.4	3.3	
15	0.40	13.7	4.0	2.9	
16	0.42	14.7	4.7	2.5	
17	0.20	10.3	4.5	2.4	
18	0.56	13.9	6.5	6.1	
19	0.30	16.5	5.1	2.2	
20	0.70	19.5	6.1	3.4	

リングを実施していないという点に尽きる。今後，調査の視点として留意して行かなくてはならない。事実，５号住からは擦鎌も出土しており，古墳時代における鉄器生産の視点も視野に入れながら棒状礫を捉えて行かなくてはならないであろう。また，各住居跡には焼土が検出されている。屋内炉の可能性を想定しながら調査・報告を行ってきたが，２号では２箇所に，４号では著しい赤化現象が確認できている。これらの現象についても，１つの可能性に限定せずに幅広く捉える必要があるのかも知れない。

鹿児島県内における古墳時代の製鉄遺跡というと，先に挙げた高山町永野原遺跡や指宿市尾長谷迫遺跡が著名であるが，検出例は極めて少ない。さらに，尾長谷迫遺跡は笹貫段階に属し６世紀代が想定されている。当遺跡の資料は，笹貫段階を含んではいるものの笹貫段階でも比較的古い様相が残っている。幸いなことに須恵器が伴っており，これらの資料から見ると５世紀後半代であると思われ，製鉄や鉄器などを中心に考察を行う上では極めて重要な資料になると思われる。これらの点に関しては，川辺町堂園遺跡でも類似する事例が確認されており，類例の増加が期待出来る。

さて，ここで注目したい遺物がある。８号住出土の砥石である。横軸断面観が台形状を呈し，各面に長軸方向への擦痕が認められ，素材中央部分に向かって薄くなる点は，鉄を対象とした砥石である可能性が考えられる。この石材は，いわゆる天草砥石であり，近隣では吹上町辻堂原遺跡で出土例がある。報告の中で池畑耕一氏は，「砥石は荒砥，中砥，仕上げ砥と三種みられ鋼鉄の可能性や原産地との交流関係にも注目」が必要と指摘している（池畑1977）。時期は下るが，金峰町小中原遺跡では古代の出土例があり，薩摩川内市周辺では，計志加里遺跡や大島遺跡など古代から中世にかけての遺跡で出土している。このように，天草砥石及びその可能性のある資料は，薩摩半島に多い傾向がうかがえ，時期的な問題も含めて今後検討して行かなくてはならない資料と考えられる。

表29　天草砥石出土遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	時代			
			古墳	古代	中世	近世
1	上水流遺跡	南さつま市金峰町	●			
2	持躰松遺跡	南さつま市金峰町			●	
3	小中原遺跡	南さつま市金峰町		●		
4	辻堂原遺跡	日置市吹上町	●			
5	下永迫Ａ遺跡	日置市伊集院町			●	
6	城下遺跡	薩摩川内市百次町城下				●
7	上野城跡	薩摩川内市百次町上野				
8	計志加里遺跡	薩摩川内市中郷町			●	
9	大島遺跡	薩摩川内市東大小路町		●		
10	成岡遺跡	薩摩川内市中福良町	●			
11	大坪遺跡	出水市黄金町・美原町			●	
12	小山遺跡	鹿児島市吉田町			●	

以上，当遺跡資料を基に類例を検討し，極小規模な製鉄に関連する遺物の可能性を指摘することが出来た。このような棒状礫は，意外にも鉄期の竪穴住居跡内から出土しているようである。明確な使用痕などの確認が困難であるなどの理由からその位置付けについては不明の状態が続いていた。今回，１つの可能性を指摘することが出来たが，これを検証するためにも，小鉄片の採取法など調査中に取り組むべき課題も示すことが出来た。今後，その他の可能性も視野に入れながら検討を重ねていきたい。

最後に，村上恭通氏には遺跡の性格付けを左右する重要な御教示を得ることが出来た。末筆ながら感謝したい。

【引用・参考文献】

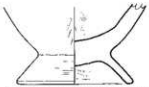
池畑耕一　1977　「第５章遺物」『辻堂原遺跡』吹上中学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
柔畑光博　2006　「坂元Ａ遺跡ほか」都城市文化財調査報告書第71集
角南聡一郎　2000　「Ⅳ小結」『永野原遺跡』高山町埋蔵文化財発掘調査報告書（７）
日高広人　2007　「第３節古墳時代」『吉野第２遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書（155）
中村直子　2005　「古墳時代の遺物について」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』19　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
中村直子　2006　「第４章　古墳時代」『先史・古代の鹿児島遺跡解説（通史編）』鹿児島県教育委員会
鹿児島県立埋蔵文化財センター　2005　『古市遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（89）

（黒川忠広）

第３節　上水流遺跡における種子圧痕

今回の整理作業において，籾や種子の圧痕を有する土器が５点確認された。そのうち２点は第３章で紹介している住居内遺物である。その他の３点は本報告書では図化していない。ここで写真とともに紹介したい。写真は圧痕のレプリカを作成し，電子顕微鏡で撮影した。レプリカ作成，顕微鏡写真撮影には永濱功治氏の協力を得た。

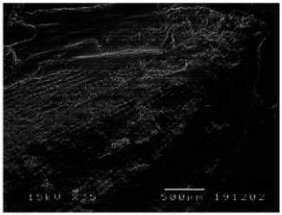
１　10号住居内遺物（第51図 14）



第203図　14の土器実測図

甕形土器の脚部内面に長さ約８㎜の籾痕を有する。顕微鏡写真では籾特有の顆粒状の粒が観察できる。

図版44　14の圧痕部分拡大写真

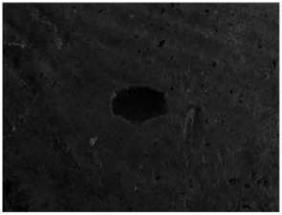


図版45　14のレプリカ電子顕微鏡写真

２　2号住居内遺物（第13図 4）

第204図　4の土器実測図

甕形土器の胴部外面に長さ５㎜程度の籾痕を有する。顆粒状の粒と、先端部分がよく観察できる。写真は先端部を拡大したものである。



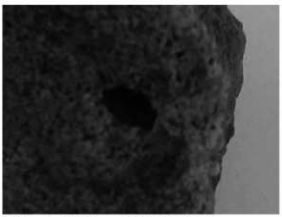
図版46　4の圧痕部分拡大写真

図版47　4のレプリカ電子顕微鏡写真

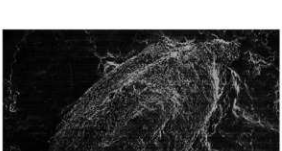
３　その他の資料

（１）圧痕資料１

Ⅱ層出土の成川式土器である。脚を有する甕形土器の底部であると考えられる。内面に長さ６㎜程度の圧痕が認められる。レプリカの顕微鏡写真による全体的な形状や表面の起伏の状況からみて籾痕であると考えられる。



図版48　圧痕資料１の圧痕部分拡大写真

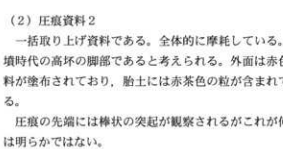


図版49　圧痕資料１のレプリカ電子顕微鏡写真

（２）圧痕資料２

一括取り上げ資料である。全体的に摩耗している。古墳時代の高坏の脚部であると考えられる。外面は赤色顔料が塗布されており，胎土には赤茶色の粒が含まれている。

圧痕の先端には棒状の突起が観察されるがこれが何かは明らかではない。

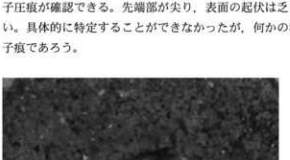


図版50　圧痕資料２の圧痕部分拡大写真

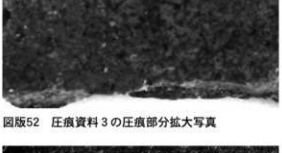
図版51　圧痕資料２のレプリカ電子顕微鏡写真

（３）圧痕資料３

Ⅳ層出土の成川式土器である。外面に長さ約７㎜の種子圧痕が確認できる。先端部が尖り，表面の起伏は乏しい。具体的に特定することができなかったが，何かの種子痕であろう。



図版52　圧痕資料３の圧痕部分拡大写真



図版53　圧痕資料３のレプリカ電子顕微鏡写真

第４節　籾圧痕から見た南九州における初期農耕の様相

（１）はじめに

本遺跡において古墳時代の遺物中に籾圧痕を有すると考えられる土器が３点認められた。万之瀬川流域においては本遺跡下流にある持躰松遺跡において弥生時代後期～終末期にかけての甕型土器に籾圧痕と思われる圧痕が２点確認された。本節では籾痕を有する土器の出土状況から南九州の初期農耕の様相を考察したい。

（２）籾痕を有する土器について

土器の製作過程で何らかの原因で焼成前に籾が付着し，その圧痕が残ったものと思われる。籾痕は口縁部，胴部，底部など土器のあらゆる部位に付着している。戦前からその存在は知られており，弥生時代農耕開始論を補強する資料として取り上げられてきた。しかし発掘調査の増加に伴い，籾痕を有する縄文時代の遺物も見られるよう

になった。イネは本来から日本にあった訳ではなく，このような籾痕が土器に存在するということは，その土器が製作される以前までにイネが伝播しているということがいえる。このような圧痕資料はイネの伝播ルート，農耕の開始時期，農耕の伝播の様相などを解明するうえでの格好の資料となりうる。

（3）南九州における籾痕資料

籾痕の資料は全国的に存在するが，南九州における籾痕の出土報告を調査した（表30）。調査は南九州地域の発掘調査報告書に基づいて行った。実測図，拓影，図版，観察表等の記述から，籾痕と報告されているものを取り上げた（註1）。報告書には籾痕の記述がなくとも拓影，図版等から籾痕を有する可能性がある遺物も見られたが，遺物を実見できなかったため今回は取り上げなかった。表示した遺物以外にも籾痕の資料が存在する可能性を指摘するにとどめたい（註2）。

籾痕は圧倒的に古墳時代に多い。今後縄文時代晩期から弥生時代にかけての資料が増加することによって南九州における初期農耕の様相を解明することが期待できる。現在までの資料からいえることの傾向について若干の所見を述べる。

都城市の遺跡を除いていずれの遺跡も標高60～130mの台地状に立地する。また，水田遺構等は確認されていないことなどから，これらの遺跡では陸稲農耕が行われていたと推測する。南九州内の水田遺構が発見された遺跡としては鹿児島市の鹿児島大学構内遺跡や薩摩川内市の京田遺跡などがあるが，いずれも標高が低く湿地である。このような一部の水田に適した場所以外は陸稲農耕が営まれていたのではなかろうか。水田を営むには水路や畦が十分に確保できることなどの条件が整っていることが設営などの大規模な共同作業が必要であることと用水必要である。しかしながら，南九州ではこれらの条件は整えにくかったのであろう。そしておそらくは水の確保がもっとも難しかったのではなかろうか。本遺跡においても10軒以上の住居跡が存在する集落遺跡にもかかわらず当時の水田耕作をうかがわせる遺構が検出されなかったことは，労働力不足以上に水の確保が難しかったことが推測できる。

また籾痕の分布状況を図１に示した。この図を見る限りでは地域的な極端な偏りは見られない。古墳時代までには南九州全域で営まれていたことが伺える。しかし弥生時代の籾痕となると薩摩半島と都城盆地周辺に限られている。資料数が少ないため現時点での即断は避けるが，今後の資料の増加にともない弥生時代の稲作の様相，稲作の伝播ルートが解明できることを期待したい。

分布状況に関してもう１点あげると，南九州本土においてはほぼ全域に分布すると考えられるが，南西諸島の遺跡からは籾痕が確認されなかった。しかし，報告書の図版等に種子痕らしきものが数点見られる。現時点では南西諸島における初期稲作農耕を伺わせる資料は確認できなかったが，これらの資料を精査することにより南西諸島の農耕の様相あるいはイネの伝播ルートについて重要な手がかりが得られる可能性もあることを指摘しておきたい。

（4）　圧痕の観察について

土器を観察し籾圧痕の有無を確認することは，ウォー

表30　籾痕出土報告書一覧

番号	遺跡名	市町村名(現)	時代	文献
1	坂本 A・B	都城市	弥　生	註3
2	黒　　土	都城市	縄文晩期	註4
3	上　中　段	曽於市	縄文晩期	註5
4	麦之浦貝塚	薩摩川内市	古　墳	註6
5	市　ノ　原	日置市	縄文晩期～古墳	註7
6	高 橋 貝 塚	南さつま市	弥生前期	註8
7	下　　原	南さつま市	縄文晩期	註9
8	持 躰 松	南さつま市	弥生後期	註9
9	上　水　流	南さつま市	古　墳	註10
10	上 加 世 田	南さつま市	弥生・古墳	註11
11	山 下 堀 頭	鹿児島市	弥生終末	註12
12	鹿 大 構 内	鹿児島市	弥　生	註13
13	中　　原	鹿屋市	古　墳	註14

図203　南九州籾痕分布状況

ターフローテーション法による遺存体の検出や植物珪酸体分析によるイネのプラントオパール検出より容易にイネの存在を確認できる手法であると考える。ただ筆者は籾痕を判断する際は肉眼だけに頼らず，レプリカを電子顕微鏡で観察した。かつて肉眼で籾痕と判断していたが実は籾痕どころか種子の圧痕でもなかったという経験があったからである。籾痕あるいは種子痕らしい資料については，今後レプリカを顕微鏡で観察した結果をふまえて報告することが望ましいと考える。これらの資料の蓄積から当時の生活環境や文化の伝播について多くの情報を得ることができると期待したい。

【註】

1　旧東郷町（現薩摩川内市）坂ノ下遺跡の報告書では籾痕を有する古代遺物が掲載されている。また旧下甑村（現薩摩川内市）大原・宮園遺跡の報告書では時代不明であるが籾痕の図版が掲載されている。今回は　縄文時代～古墳時代の遺物を対象とし，古代あるいは時代不明のこれらの遺跡は取り上げなかった。また，計志加里遺跡（薩摩川内市）や上水流遺跡（南さつま市）では縄文時代晩期の土器片に種子圧痕が確認されたが籾痕と判断できなかった。
2　大口市大中田遺跡報告書で縄文時代後期土器（西平式土器）の口縁部に種子圧痕らしきものを図版で確認した。
3　宮崎県都城市教育委員会2006『坂元A遺跡　坂元B遺跡』都城市文化財調査報告書第71集
4　宮崎県都城市教育委員会1994『黒土遺跡』都城市文化財調査報告書第28集
5　末吉町教育委員会1985『上中段遺跡』末吉町理蔵文化財発掘調査報告書（4）
6　川内市土地開発公社1997『麦之浦貝塚』
7　鹿児島県立理蔵文化財センター2006『市ノ原遺跡（第５地点）』鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書(105)
8　河口貞徳1963『鹿児島県高橋貝塚発掘概報』『九州考古学』18　九州考古学会（後に『河口貞徳先生古希記念著作集』上巻　198l に再録）
9　鹿児島県立理蔵文化財センター2007『持躰松遺跡』鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書（120）
10　本報告書
11　加世田市教育委員会1985『上加世田遺跡１』加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書（３）　加世田市教育委員会1987『上加世田遺跡２』加世田市埋蔵　文化財発掘調査報告書（4）
12　鹿児島県立理蔵文化財センター2005『山下堀頃遺跡』鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書（92）
13　第一次北熱里遺跡調査報告（『鹿児島考古』第５号）に「かつて鹿児島大学法文学部構内から発見された弥生式後期の土器に印るされた圧痕は籾痕である」という記述がある。
14　鹿児島県肝属郡吾平町教育委員会1985『大牟礼遺跡ほか３遺跡』吾平 町理蔵文化財発掘調査報告書（1）

【参考・引用文献】

1　鹿児島県大口市教育委員会2005『大牟田遺跡』大口市埋蔵文化財発掘調査報告書（24）
2　鹿児島県薩摩郡東郷町教育委員会2002『坂ノ下遺跡』東郷町埋蔵文化財発掘調査報告書（6）
3　金関恕＋大阪府立弥生文化博物館編1995『弥生文化の成立』角川選書
4　鹿児島県立理蔵文化財センター2002『計志加里遺跡』鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書（38）
5　川口雅之2004「南九州における稲作文化と木製品」『月刊文化財』11月号
6　桑畑光博2004『照葉樹林地帯・シラス地帯の水田－南部九州－』『考古学ジャーナル』518号　ニュー・サイエンス社
7　下甑村教育委員会1974『大原・宮園遺跡』1974下甑村教育委員会発掘調査報告書（1）
8　中沢道彦・壮野毅2003「レプリカ法による鹿児島県末吉町上中段遺跡出土籾痕土器の観察」『鹿児島考古』第37号　鹿児島県考古学会
9　広瀬和雄編2007『弥生時代はどう変わるか』学生社
10　河口貞徳・出口浩1972『第一次花塾里遺跡発掘調査報告』『鹿児島考古』第５号　鹿児島県考古学会

（富山孝一）

第５節　上水流遺跡の中世・近世の出土遺物について

上水流遺跡から出土した中世・近世の遺物は種類が多く特徴的な遺物が多い。ここでは，それらの全てについて述べることは不可能であるが，特徴的な資料について取りあげ，遺跡の特徴を浮き彫りとしたい。

本遺跡からは多くの輸入陶磁器が出土している。ここでは，おおまかな流れを示したい。

万之瀬川の中世遺跡として著名な持躰松遺跡はD期（13世紀前半）が主力であるが（第214図・第216図），本遺跡はC期・D期が少数でE期（13世紀中頃）以降が主力となり，特に陶磁器の量ではE・F期がメインとなる。F期の龍泉窯系青磁は，地方においては多い方である。G期（註１）も比較的多く，福建産の（泉州窯タイプ）粗製青磁椀・森田C類白磁・粗製白磁椀（無釉高台のもの）などのセット関係もみられる（註２）。

以下に時期ごとの様相をまとめる。

C期：白磁皿Ⅳ・Ⅵ類（少数）

D期：白磁椀Ⅶ類・皿Ⅲ－１類，青磁同安窯・龍泉窯椀Ⅰ類（少数）

E期：青磁龍泉窯系椀Ⅱb・Ⅱa，陶器Ⅰ・Ⅲ類，鉢Ⅵ・Ⅰ－２類（施釉）

F期：青磁龍泉窯系椀Ⅲ類・坏Ⅰ－１a，白磁Ⅸ－１・２類椀・皿

G期：白磁森田C類，青磁泉州タイプ・Ⅳ類大椀・小椀・皿

H期（15世紀）：白磁森田D類，青磁上田Ⅱ類・BⅡ・CⅡ・DⅡ・EⅡ（倣龍泉系青磁【土龍泉】）・倣建窯天目茶碗

16世紀：青磁上田Ⅲ・Ⅳ類，白磁森田E類，青花景德鎮及び漳州窯椀・皿（，朝鮮産陶器？）

※　他に白磁壺Ⅲ類がC～F期のいずれかの時期のものである。

17世紀（16世紀末～18世紀初頭含む）：徳化窯系白磁

次に，国産のものをみてみたい。それらは，在地土器・東播磨系須恵器片口鉢（以下，東播系鉢）・備前の擂鉢（15・16世紀）・備前の大甕・備前を模した在地の瓦質土器擂鉢・瓦質土器羽釜・フライパン形土器（焙烙・炒り具）・初期薩摩焼（主は堂平窯産）・肥前系陶磁器（染付・陶器など）などがあり，多種多様である。

東播系鉢については，兵庫県の神出（神戸市）および魚住（明石市）の窯跡出土資料と実際に比較したところ，形態は13世紀代のものとほぼ同じであるが，粘土と釉薬

のかかり具合が全く異なるもので，神出・魚住のどちらのものでもないことが明らかになった。また，同様に甕についても同様にタタキとナデが全く異なることが明らかになった。この事実によって，本遺跡出土の東播系とされるものは産地不明であり，広義の「東播系」であるものの厳密な「東播磨産」ではないことがほぼ明らかとなった。今後，県内各地のものや西播磨・北播磨のものなどについても実見を行って再検討する必要があろう。

伝飯器も出土している。上田耕氏によれば，伝飯器は1999年の時点で県内では少なくとも9箇所以上の遺跡から出土しており，それのいずれもが寺院・城館もしくは墓地からのものであるという（上田1999）。上田氏による集成後にも寿国寺（鹿児島市）などでの出土例がみられる。この事実から，伝飯器が出土するというのは，遺跡が寺院に関連する可能性が高いことを示すということになろう。

ベトナム産の焼締長胴壺（瓶）も出土した。ベトナム中部「ミースエン・フックティク産」のものである。もともとは，何らかの容器として輸入されたものであるが，その後茶道具の一つとして国内で再利用されたものである（註3）。

金属製品の出土も目立った。刃物のほかに，穿孔を有する短冊形鉄製品も出土した。この短冊形製品は，刃物などの明確な利器とは考えにくいものである。可能性のひとつとしては，原料鉄があげられるが（註4），今後成分分析などの科学分析等を行い明らかにしていく必要があろう。

茶臼・臼をはじめとして，石鉢，石塔（五輪塔か）の空風輪，石製紡錘車，石製硯，滑石製品（石鍋および石鍋転用品・鐘耳と鍔耳の両方あり）などの石製品が出土した。この中で石臼については表31にまとめた。県内では現在のところ25遺跡で出土していることが確認された。多くは城跡であるが，中世後半には一般集落の調査例が少ないので注意が必要である。

遺構内出土遺物の割合については第207図に示した。中世と近世の遺物の他に弥生・古墳時代の遺物が以外に多いことが理解される。

中世については，青磁・白磁・輸入陶器などの輸入陶磁器の割合が三分の一を占める。次に土師器の割合が四分の一程度である。青花は中世後半から近世初頭のものであるが，ここでは便宜上中世に含んだ。中世の中での割合は多くはないが，数は250点と多く出土している。

青磁はD期（12世紀後半～）からみられる。最も多いのはH期（15世紀）以降のもので四分の一を占める。

白磁は各時期のものが少量ずつ出土している。強いていうならば，器種としては皿が多い。

輸入陶器は華南産とみられる中世後半の時期のものが多い。ただし，華南産といわれるものは中世前半のものと区別がつきにくいものもあるので，混同してしまった可能性もある。

国産陶器については須恵器としたものが最も多い。特徴がないため，産地も不明であるが，樺万丈や未詳須恵器などとしたものも含まれる可能性がある。

他は備前焼・東播磨系須恵器なども割合としては多い。

近世は半分が薩摩焼であるが，肥前焼も多い。その中で染付は最も多い。

【註】

1　G期に属するこれらは沖縄・東南アジアに多いものである。H期まで下る可能性も若干含む。

2　山本信夫氏（早稲田大客員准教授）の御教示による。アルファベットのついた時期区分も彼による太宰府分類のものである。なお，泉州窯タイプについては亀井明徳氏と手塚直樹氏が指摘するものという。

3　森村健一氏（大阪府堺市教育委員会）の御教示による。

4　桃崎佑輔氏（福岡大学准教授）の御教示による。

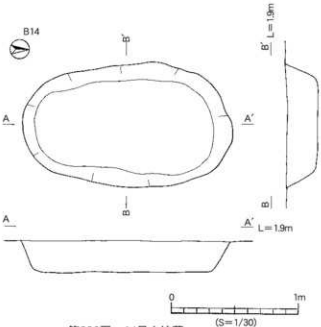
参考文献

新田栄治1997「知覧・豊玉姫神社所蔵のクリスと薩摩の東南アジア貿易」『ミュージアム知覧紀要』第3号
上田耕1999「各県の出土仏具　鹿児島県」『考古学論究』第5号（特集　出土仏具の世界）　立正大学考古学会

（上床　真）

表31　鹿児島県内出土の石臼

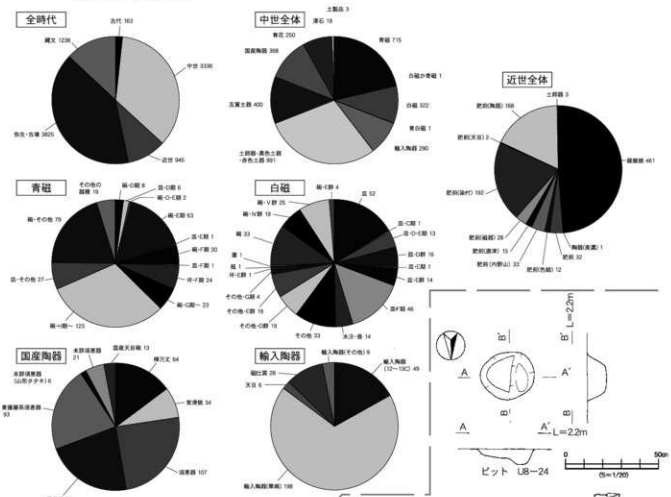
No.	遺跡名	所在地	備考
1	加冶屋山	鹿児島市川上町	カマド遺構・羽釜出土
2	馬場A	大口市平出水馬場	カマド遺構・羽釜出土
3	下伊倉城跡	東串良町新川西下伊倉	
4	森	姶良町高森森	凝灰岩製
5	日輪城（恒吉城）跡	曽於市大隅町恒吉字麓	表面採集・庄内の乱の頃か
6	大隅運跡	鹿児島市大竜町法か	
7	谷山弓場城跡	鹿児島市上竜天町本城	包含層・集積　9から出土
8	川上城跡	鹿児島市川上町字弓場	
9	鶴見館跡	鹿児島市小川町	
10	平山城跡（川辺城跡）	南九州市川辺町平山	
11	知覧城跡	南九州市知覧町永里字城内	石臼(凝灰岩製)・石鉢
12	別府城跡	南さつま市加世田武田字城ノ山	石臼(凝灰岩製)・石鉢
13	柳ノ上	南さつま市加世田高山字柳ノ上	石臼・火鉢様石製品
14	年丸ヶ城跡	南さつま市金峰町池辺向江	二階堂氏居城・応永13（1406）年落城
15	一宇治城跡	日置市伊集院町大田	石臼（花崗岩製）
16	平之城跡	いちき串木野市東字平之城	小型の石臼（茶臼か？）直径20
17	鶴ヶ岡城跡	薩摩川内市東郷町泊出三ヶ嶽	砂岩製石鉢・ピット内から発見
18	松尾城及び宮功寺跡	さつま町虎居字松尾	
19	平見城跡	大口市山野字出水字城	
20	馬場A	大口市平出水字馬場	
21	城山山頂遺跡	霧島市国分上小川字新城	
22	横川城跡	霧島市横川町中ノ字城山	石鉢か？安山岩製・口縁部のみ
23	鶴丸城跡	姶良町西餅谷字鶴丸城	5個実測
24	高山城跡周辺地	肝付町高山字新富	高日の丁目の受け部分
25	上水流	（本報告）	



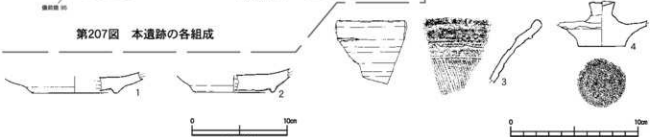
第206図　14号土坑墓

表32　土坑墓一覧

No.	グリッド	遺構番号	計測値(cm) 長径	短径	深さ	備考
B1	A－5	394	64	50	22	
B2	B－4	65	176	84	14	
B3	C－6	―	90	10	―	
B4	D－5	土坑墓5号	90	80	190	墓か
B5	E－2	土坑墓1号	187	104	30	
B6	F－3	墓	130	100	199	墓か
B7	F－3	墓墓1号	98	90	72	墓か
B8	G－7	268	100	94	160	墓か
B9	H－3	土坑墓（墓墓）4号	95	83	104	墓か
B10	H－6	616	118	86	16	
B11	K－8	2108	154	94	44	
B12	K－9	2883	214	138	10	
B13	M－9	2895	56	44	―	底部のみ残存
B14	M－9	2893	168	96	25	
B15①	M－9	3110-1	160	84	42	B15②と切合
B15②	M－9	3110-2	168	―	32	B15①と切合
B16	N－8	1197	84	80	60	墓か
B17	O－7	1038	162	90	40	
B18	O－9	1323	160	88	40	



第207図　本遺跡の各組成



第208図　各遺構出土の重要遺構・遺物

第6節　炉状遺構に関する若干の考察

(1)　本遺跡の炉状遺構の特徴

調査で検出された炉状遺構は23基であった。本節では現在までに鹿児島県内で報告されている主な類例と比較・検討しながら炉状遺構の用途や調査法について考察を行っていきたい。

本遺跡の炉状遺構で挙げられる特徴は以下の通りである。

① 使用年代がはっきり限定できない。検出層位と遺構内遺物より考えると，概ね中世～近世前半の可能性が高い。

② 建物内に配置された痕跡がない

③ 連続で並んでいるものがない

④ 数基が比較的集中しているグリッドがある。（O・P-6区，I～L-7・8区）

⑤ 燃焼部に付随するとみられる煙道については，はっきり確認できるもの，それと思われる形状を呈しているもの，確認できないものとがある。

⑥ 削平または崩落により燃焼部の上部が残っているものがなく，上部構造をうかがうことができない。

⑦ 炉壁構成は粘土のみで作られてあるもの，礫で形作られ粘土で目地されているもの，焚き口に袖石を使っているものなどが見られる。

炉壁に使用する礫は特定の種類のものが使われるのではなく，適当な大きさで耐熱性のあるものを周辺から探してきて利用しているようである。軽石などを多用している類例も他の遺跡では見られる。

炉壁の形状は12・18・19号炉状遺構を除き，その形状はC字(あるいはU字)形の燃焼部とそれに続く掻き出し部の掘り込みが一連の構造となっており鍵穴形を呈するものである。

燃焼部の床面は被熱により赤色硬化しているものが見られたが，粘土等を貼ったのもはなかった。また燃焼部の上部構造は，トンネル状の部分が崩落したり，削平されて消失した状態で検出されるものが殆どであるため，形状を知ることは困難であるが，比較的残存状況のよい一部の遺構の断面図で明らかなように，炉壁はわずかに内湾しながらたちあがっている。さらにその上部の形状については，上加世田遺跡のカマド跡2号と同じような形状をしていると考えられる。鍛冶炉の可能性が考えられる12・19号炉状遺構のような円形を呈する遺構の類例は数は多くないが金丸城跡の焼土を伴う土坑19号と類似しているといえよう。また同じ場所で切り合う形で検出されたものとして3-1・3-2号，7-1・7-2号，16-1・16-2・16-3号が挙げられる。これは炉状遺構を設置するのに都合のよい場所であるからと考えられる。このなかで3-1号と3-2号炉状遺構は近世の大溝遺構の底面に作られいる。炉壁は礫をC字状に並べて組んでおり，なおかつ隙間を粘土で目地を充填しており，検出した23基の中で一番ていねいな作りである。これは長期の使用を考えてのものであり，一過性の短期廃絶型の施設ではないことを窺わせる。同様に一カ所に切り合うかたちで検出された類例としては，金丸城跡（大崎町）の焼土を伴う土坑4号や上ノ城遺跡（南さつま市）の7号炉8号炉等がある。

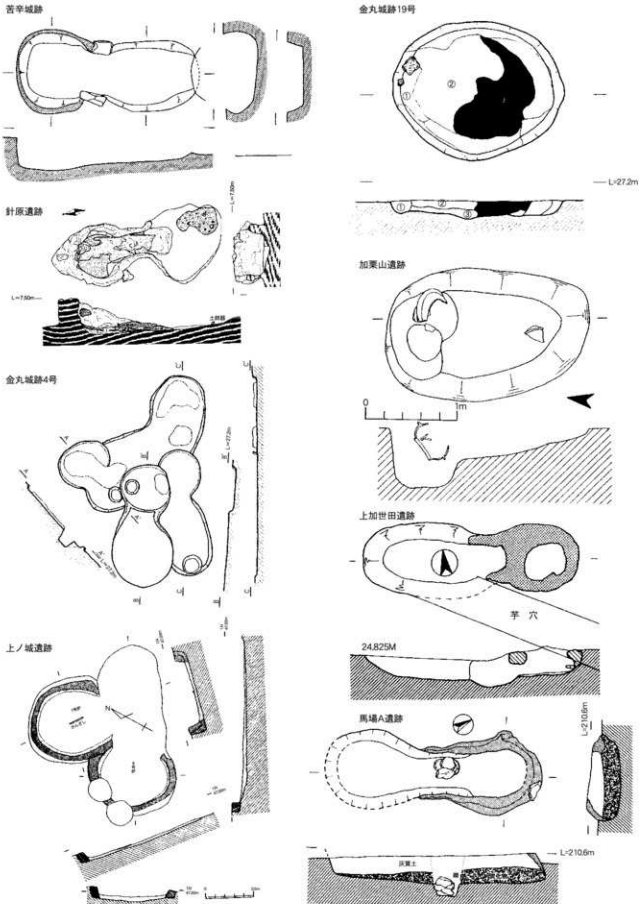
全国的にこのような礫を組んで燃焼部を作ったものは16世紀以降の城郭や都市部によくみられるという（合田2002）。本遺跡では，この溝状遺構内から18世紀のある時期（おそらくは前半代）以降の陶磁器は出土していない。つまり，利用されなくなり埋まり始めたのではないかと考えられる。このことが3－1号炉状遺構と3－2号炉状遺構の使用時期を考えるうえでおおきな手がかりになるといえよう。

(2)　県内の炉状遺構の出土例

鹿児島県内で検出された炉状遺構の立地傾向を見ると，中世山城の郭内からのものが目立つようである。ただし，これはこれまでの鹿児島県の中世（特に中世後半期）の調査が城郭に集中する傾向をそのまま反映している可能性がある。

鍛冶炉・炉状遺構として報告されているものとしては主なものに日輪城跡5基（曽於市），松尾城・宋功寺跡8基（さつま町），上加世田遺跡5基（南さつま市），持躰松遺跡1基（南さつま市，下山田Ⅲ遺跡2基（笠利町）等がある。このほかに，明確な機能を表す遺物等が出土せず，溟然と竈や炉として報告されているものに主なものに西ノ平遺跡3基（薩摩川内市），上ノ城遺跡8基（南さつま市），馬場A・辻町遺跡3基（大口市），横川城3基（霧島市），谷山弓場城跡4基（鹿児島市），一宇治城跡1基（日置市），松尾城跡1基（出水市），加栗山遺跡・川上城跡4基（鹿児島市），平泉城跡11基（大口市），苦辛城跡1基（鹿児島市），金丸城跡19基（大崎町），雪山遺跡（日置市）などがある。

この他にも未報告であるが，向椎城跡（日置市）で33基程度，椎城跡（いちき串木野市）で27基程度の炉状遺構が検出されている。これらは，中世の山城に付随する遺構である可能性が考えられる。このような中で，本遺跡のように河川沿いの遺跡で23基の炉状遺構が確認されたことはこれまでにないことである。このことはこれまでの城郭での立地を中心に据えた研究から一歩さらに広げて，中世～近世の平野部や集落での使用も併せて考えていかなければならないことを意味する。同じく未報告であるが，本遺跡より約1㎞下流に位置する芝原遺跡でも20基以上の炉状遺構が出土している。この中には中世の製鉄・鍛冶工房の中の施設と考えられる遺構も確認されている。また，本遺跡の東側に隣接する針原遺跡でも



第209図　各遺跡の炉状遺構

2トレンチ内で17世紀代とされる炉状遺構1基が報告されている。形状はC字(あるいはU字)形の燃焼部とそれに続く掻き出し部の掘り込みが一連の構造となっており上面観が鍵穴形を呈するもので本遺跡で一番多いタイプとほぼ同じである。

（3）中世絵巻物資料に見られる竈の使用目的と設置場所

本遺跡の炉状遺構の使用目的について考察していきたい。中世の絵巻物資料(註1)の中に見られる民衆が日常生活で使用する竈は五徳も含めては殆どが上に釜や羽釜が据えられているようである(註2)。その使用目的は,

Ⅰ　煮る，炊く

Ⅱ　煎る，蒸す

Ⅲ　生活に使う湯の供給

Ⅳ　蒸風呂への湯気供給

Ⅴ　風呂への湯の供給

等が主なものであり，その設置場所は

a　土間

b　釜屋（母屋の周囲にある竈が設かれている簡素な建物）

c　電部屋（母屋にある板敷きの部屋）

d　湯殿の外側簡素な屋根付きの場所

等で殆どが建物内である。

これより見ると竈は民衆の生活空間に密着しており，なおかつ雨に濡れて熱効率が下がる場所を避けて設置されているようである。

本遺跡は，溝状遺構・大型土坑・不定形土坑など，様々な礫や鉄滓・鞴の羽口を伴う遺構が存在するが，これらの中に鉄滓は陶磁器片と同じ様に投棄されたようであり，製鉄炉や鍛冶があるいは工房とはっきり想定される遺構は確認されていない。しかし，平成7年に金峰町（現南さつま市）が行った本遺跡の埋蔵文化財確認調査では7トレンチから17世紀から18世紀初頭にかけて操業していたと考えられる溶解炉が確認されている(註3)。また，製鉄操業に伴う廃棄物が投棄されたと考えられる集石遺構も隣接して検出されている。このことから，本遺跡の炉状遺構の性格は，

A　製鉄や鍛冶に伴う施設

B　上記の絵巻物の中に見られるような目的で作られた施設

C　その他の目的で作られた施設

の三つが考えられる。特徴として全て建物の中でなく屋外に作られていることが挙げられよう（ただし，炉状遺構周辺の建物跡が調査中に認識できなかった可能性は排除できない）。建物との距離は2～3mと近いもの（16-1，16-2号炉状遺構）から，周囲に建物のない場所に設置されているもの（4号炉状遺構，7-2号炉状遺構）がある。ただし，これらの炉状遺構と建物が同時代のものであったかは不明である。

このほか短期間の使用で廃絶した印象を持つ炉状遺構もあれば，前述したように3-1，3-2号が状遺構のように大溝の底面に長期の使用を考えてていねいに作られていると考えられるものもある。しかし溝の底は一般的には水分や湿気が溜まりやすいところである。このような場所で使うと，燃焼部内の温度が上がり，水蒸気爆発等がおこる危険性もある。このような条件の悪いところになぜ長期使用を考えた竈を作る必要があったのかという疑問も残る。これらのことについては，同様の出土状況にある類例の増加を待ちたいところである。

（4）炉状遺構の調査手順の再確認

最後に本遺跡の調査方法で反省点とすべきことを挙げていきたい。いずれの炉状遺構も周辺に鉄滓等が出土しなかったため，製鉄や鍛冶に関する遺構を調査する際に行う，磁気探査や鍛造剥片・粒状滓の存在の確認を磁石等を使わずに肉眼のみで確認したことである。これらのことをふまえて，炉状遺構の調査で必要な事項を今一度確認して，今後の調査の参考としたい。

ア　検出時における周囲の地形の確認。

イ　燃焼部や掻き出し部内より出土した炭化物のサンプリング→年代測定

ウ　鍛造剥片・粒状滓の確認　肉眼分類→ふるい・磁石・特殊金属探知器等の使用

エ　メッシュを切っての周辺土壌の取り上げ→水洗い・選別等

オ　焼土域の遺構周辺への拡がりの確認

カ　遺構内遺物の出土状況の確認

キ　周辺に建物跡等の遺構があるかの確認

ク　調査区周辺に集落又は製鉄や鍛冶に伴う施設があったかの検討

【註】

1　本稿で使用する『慕帰絵詞』は1351年成立，『一遍絵詞』は1331年頃成立，『信貴山縁起』は1180年頃成立，『春日権現験記』は1309年頃成立した史料である。

2　加栗山遺跡の炉址Ⅱは炉内より羽釜が出土している。

3　遺構内遺物として焼礫，鉄滓，羽口，スサまじりの粘土塊，カーボン等がある。

【引用・参考文献】

稲田孝司1978「忌の竈と王権」『考古学研究』25－1　考古学研究会

大崎町教育委員会2005『金丸城跡』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書（4）

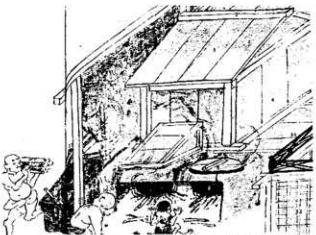
大隅町教育委員会・(財)元興寺文化財研究所2000『日輪城（恒吉城）跡』大隅町埋蔵文化財発掘調査報告書（20）

鹿児島県立埋蔵文化財センター2003『雪山遺跡・猿引遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（53）

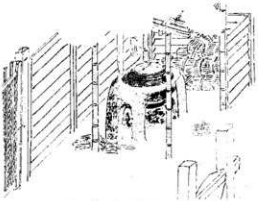
加世田市教育委員会1985『上加世田遺跡-1（第Ⅰ地点・第Ⅱ地点）』加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書（3）

金峰町教育委員会　1998『上水流遺跡(第1次調査)』金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書（9）

金峰町教育委員会　2003『鮎受遺跡・弥十山遺跡・針原遺跡・



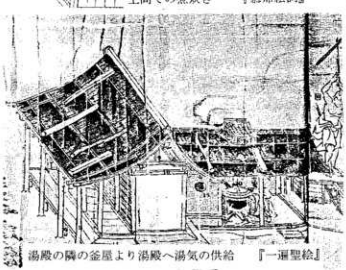
湯殿の外より湯殿へ湯気の供給　『喜婦絵詞』



釜屋で荏胡麻を蒸す　『信貴山縁起』

土間での煮炊き　『喜婦絵詞』

釜屋での煮炊き　『春日権現験記』



湯殿の隣の釜屋より湯殿へ湯気の供給　『一遍聖絵』

板敷き竈部屋での煮炊き　『春日権現験記』

（上記は藤澤敬三ほか編1984より引用）

第210図　絵巻にみる炉状遺構

上水流C・D遺跡・大迫田遺跡』　金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書（14）

合田幸美2002「大阪城跡の竈跡について」『大阪城跡発掘調査報告Ⅰ』（財）大阪府文化財センター発掘調査報告　第78集

藤澤敬三・神奈川大学日本常民文化研究所編198

名古屋市博物館2003『台所の考古学　食をめぐる知恵の歴史』名古屋市博物館特別展示図録

（抜水茂樹）

第７節　上水流遺跡出土の薩摩焼について

（１）はじめに

薩摩焼は，のちに「焼物戦争・茶碗戦争」とも呼ばれた豊臣秀吉による朝鮮出兵（文禄・慶長の役：1592～1598年）の際，島津義弘が連れ帰った朝鮮人陶工により始まる。鹿児島に上陸した朝鮮人陶工は，串木野に串木野窯（いちき串木野市下名），帖佐に宇都窯（姶良町帖佐鍋倉字宇都），加治木に御里窯（加治木町仮屋町）などを開窯し，薩摩藩の庇護を受けるなどしながら陶器を生産した。朝鮮人陶工等により伝えられた製陶技術は，現在でも苗代川地域（現日置市東市来町美山）や龍門地域（加治木町小山田）などで受け継がれている。

上水流遺跡出土の薩摩焼には，その製陶技術，灰褐色系や赤褐色系の色調で緻密な胎土，褐色系に発色する鉄釉や緑褐色系に発色する灰釉を掛けている釉の特徴から，堂平窯で生産されたと考えられるものが含まれる。これらは，本文中において器種ごとにその特徴の説明を行ったが，ここでは出土した薩摩焼について，堂平窯跡報告書（埋文センター2006）を基に，時期や器種等について再度検討を加えていきたい。時期については，堂平窯跡報告書に基づき下記の通りとする。

Ⅰ期（17世紀前半）

Ⅰa期（1620～1630年代）

Ⅰb期（1630～1650年代）

Ⅱ期（17世紀後半）

（２）各器種について

甕

大溝31・32は，Ⅰa期のものである。口縁部は，先端を外側に折り，さらに内側に折り返して肥厚させ丸くおさめ，「T」字状の形状をつくる。口唇部は，内側を高くし外側を溝縁状にするものである。器壁は極めて薄い。朝鮮の製陶技術が色濃いものである。

大溝33～38は，ⅠbからⅡ期への過渡期のものであると考えられる。口縁部は，先端を外側に折り，さらに内側に折り返して肥厚させ丸くおさめ，「T」字状の形状をつくる。口唇部は，内側を高くし外側を溝縁状にするものである。内面にタタキ成形による同心円状のあて具痕が残る。器壁はⅠa期のものよりやや厚い。

壺

大溝64は，Ⅰa期のものである。内面にタタキ成形による同心円状のあて具痕が残り，器壁は極めて薄い。釉をはじいているところがある。

大溝62・63・66・67は，Ⅱ期のものである。口縁部を外側に折りさらに内側に折り返して肥厚させたのち端部を丸くおさめるものと，口縁部を内側に折り返して丸くおさめ口唇部に蓋受け部を有するものがある。内面には，タタキ成形による同心円状のあて具痕がのこる。口唇部に貝目が残るものがある。器壁はⅠ期より厚くなる。

大溝61・68は，Ⅱ期のものである。内面にタタキ成形による同心円状のあて具痕が残り，器壁はⅠ期より厚くなる。

底部

甕あるいは壺と思われるもので，大溝49～57・大溝59・大型土坑17・81・溝12・47はⅡ期のものである。内面にタタキ成形によるあて具痕が残り，外底面に貝目が残るものが多い。器壁はⅠ期より厚くなっている。

片口

大溝70・71・73・74・大型土坑18は，Ⅱ期のものである。タタキ成形でつくられており，内面に同心円状のあて具痕が残る。口縁部は端部で外側に折り，さらに内側に折り返して丸くおさめる。

水注

大溝69は，Ⅱ期のものである。注口は巻口で，注口に向かって左側の端が上になるように巻かれている。

擂鉢

大溝85～91・溝48は，Ⅱ期のものである。器形として「逆ハ」の字にひらき，口縁部は外側に折り返して肥厚させ，２・３条の突帯をつくる。口唇部が幅広く平坦なものと，口縁部が外反するものがある。

蓋

大溝75～78・大型土坑70・土坑８・溝９は，Ⅱ期のものである。器形は浅鉢形のもの，平坦な円盤状のもの，円盤状の体部の下面に輪状の粘土紐を貼り付け身受け部をつくるものがある。浅鉢形のものは，口縁部を外反させ，さらに内側に折り返して肥厚させ，内側を丸くおさめている。平坦な円盤状のもの・円盤状で見受け部をもつものは，端部をヘラ状工具でケズリ調整した痕が残る。

徳利

大溝79～81・大型土坑83～85は，Ⅱ期のものである。タタキ成形しており，内面には同心円状のあて具痕が残る。「舟徳利」型と呼ばれる胴部下半部に最大径を有する形状を呈するもの，「鶴首」型と呼ばれる頸部が細長く肩部がなで肩の形のものがある。頸部内面あるいは外面に，胴部と接合した痕が残る。

サヤ鉢

大溝82は，Ⅱ期のものである。内底面に砂目と胎土が残り，外底面には貝目が残っている。また，口唇部に粘土と思われる目土が残り，外底面には貝目が残っている。

器種について

上水流遺跡の包含層や大溝などの遺構から出土した堂平窯製の土器（器種が分かるもの）は，表33のとおりである。甕・壺・擂鉢などの日用品が多い。特筆されることとして，数は極めて少ないが，Ⅱ期と考えられる薩摩で「白薩摩」と呼ばれる一般的に上手の碗・徳利が出土

している。また，Ⅰ期としているが器壁が極めて薄く口縁部の作りがシャープなものの中には，串木野窯あるいは朝鮮製の可能性のあるものもあり，今後検討の余地がある。

器種の用途別に見てみると，甕・壺・徳利などの貯蔵・運搬具が多く，次いで，擂鉢のような調理具，片口・水注・碗の食膳具となっている。また，皿や碗などを中に入れて焼くときに使うサヤ鉢も１点出土している。これらのことから，17世紀から堂平窯との交易・交流があり，堂平窯製の薩摩焼が上水流遺跡のある南薩方面に流通していたことを示している。17世紀は「鹿児島県地域にとって特に在地の製品といえる薩摩焼が増加していくという，九州島内における，より限定した範囲（薩摩藩内とその規模の視点で見た場合）での，出土陶磁の在地産化が進み始める時期でもあるとも言える。」（橋口2002）としていることとも一致している。

（3）まとめ

堂平窯のあった日置市東市来町美山は，上水流遺跡のある南さつま市金峰町花瀬のほぼ真北に位置し，陸路での直線距離にして約25㎞である。江戸時代には美山から南薩への街道として，美山から宮田・海辺の神之川を経由して，海岸沿いに日置・吉利・金峰と陸路があった。また，美山の近くを流れる神之川の河口から上水流遺跡の前を流れる万之瀬川の河口までは，海路での直線距離にして約20㎞である。神之川の河口にある神之川港は，島津義弘が朝鮮出兵した文禄の役・慶長の役のとき，食料・武器などを運び出した港でもある。このように，堂平窯のあった美山と上水流遺跡のある南さつま市金峰町花瀬とは，近距離であり，ともに海・河川の交通の利便性がよいことが，両者の交易・交流（堂平窯製薩摩焼の流通）に影響しているのではないかと考えられる。また，両遺跡が近距離であることや海・河川の交通の利便性を背景とした交易を想定すると，上水流遺跡をはじめとする万之瀬川流域や近隣の地域には，堂平窯製薩摩焼が多く流通しているのではないかと考えられ，今後検討していく余地がある。

このように上水流遺跡には，17世紀代に美山の堂平窯の製品を用いるなどして，人々が生活を営んでいたことが分かる。

表33　本遺跡出土の薩摩焼の出土傾向

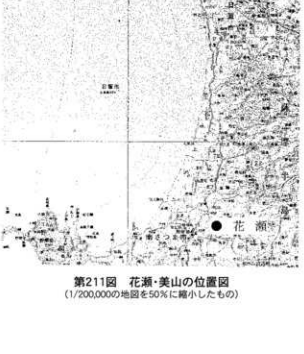
器種	大溝	大型土坑	土坑	集石	溝	計	割合(%)
甕	51	2	—	4	49	106	23.3
壺	11	—	—	—	—	11	2.4
甕壺底部	12	1	—	—	—	13	2.9
徳利	35	3	—	—	—	38	8.4
擂鉢	13	1	—	—	1	15	3.3
片口	8	1	1	—	—	10	2.2
水注	1	—	—	—	—	1	0.2
碗	—	1	—	—	3	4	0.9
蓋	12	1	1	—	1	15	3.3
土瓶	1	—	—	—	—	1	0.2
サヤ鉢	1	—	—	—	—	1	0.2
その他	55	61	11	11	101	239	52.7
						454	100

※ 器種が分かるもの（接合したもの・陶器片）を，一つとして数えてある。

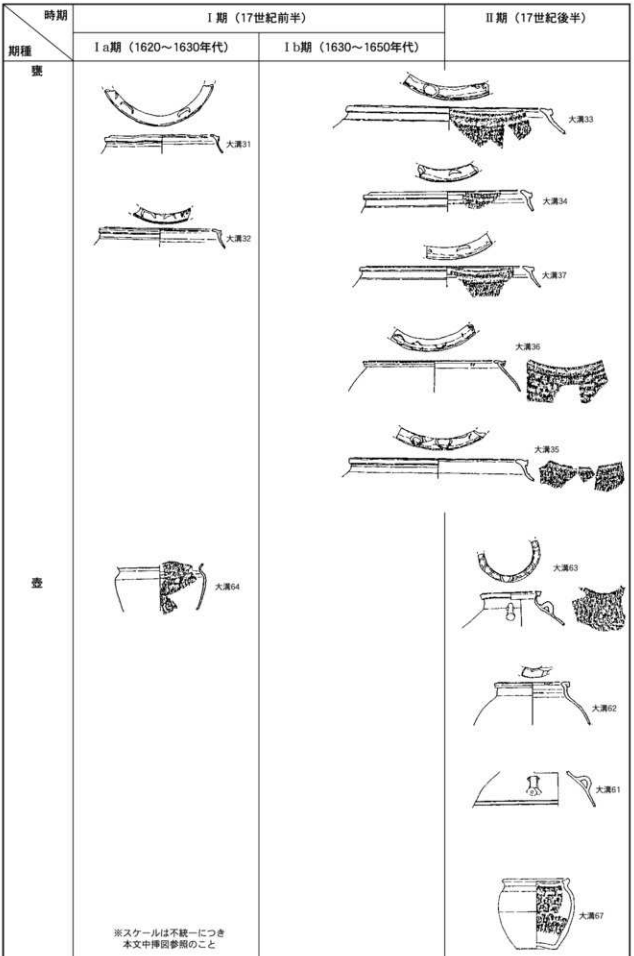
【引用・参考文献】

東市来町誌編纂委員会2005『東市来町誌』
鹿児島県立埋蔵文化財センター2006『堂平窯跡』
鹿児島県立埋蔵文化財センター2003『雪山遺跡・猿引遺跡』
加治木町教育委員会1995『山元古窯跡』
姶良町町教育委員会1995『元立院窯跡』
加治木町教育委員会2003『御里窯跡』
鹿児島県教育委員会1978『竪野（冷水）窯跡』
橋口　亘2006「両録　鹿児島県地域における16～19世紀の陶磁器の出土様相－鹿児島県地域の近世陶磁器流通－」『南日本文化財研究』№2　南日本文化財研究刊行会

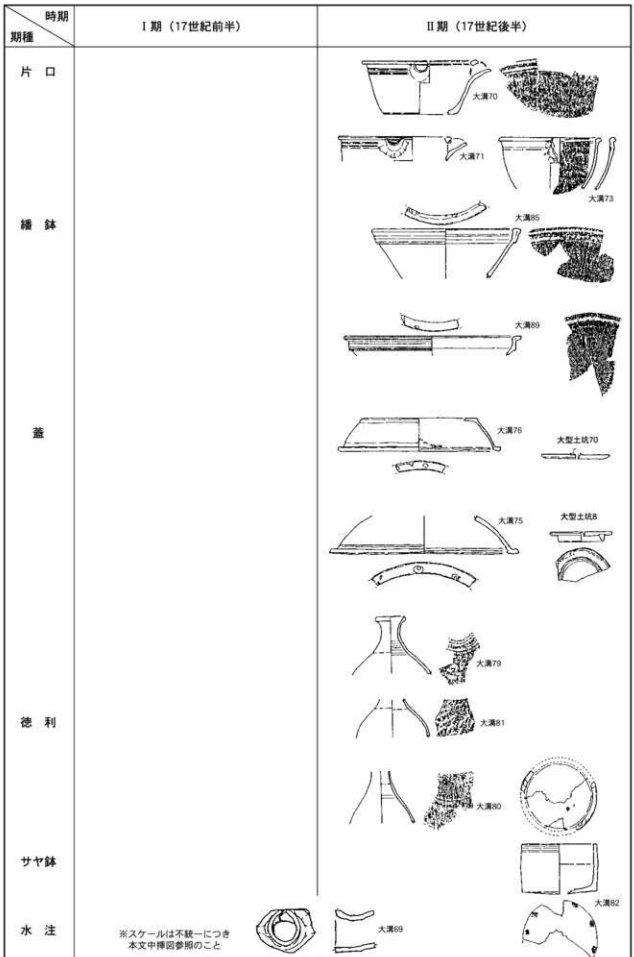
（溝口学）



第211図　花瀬・美山の位置図
（1/200,000の地図を50%に縮小したもの）



第212図　本遺跡出土の薩摩焼の分類①



第213図　本遺跡出土の薩摩焼の分類②

第8節　上水流遺跡出土のモモを中心とする種子炭化物

（1）はじめに

上水流遺跡では，古墳時代の竪穴住居跡や，中近世の炉状遺構・土坑墓から，モモの果実の中にある堅い核が出土している。これは，一般には「モモのタネ」と呼ばれる。ただし，この堅い部分は，種子を包んでいる果実の最も内側の皮にあたるところで，これを内果皮という。厳密な意味での「種子」である「胚乳」は内果皮の中にあり，アーモンド形をしている。これを「仁（じん）」と呼ぶ。モモの「仁」は，乾燥させて解熱・婦人病薬として煎服し，杏仁の代用品ともなる漢薬である。ここでは，遺跡から発見されるモモの核のことを「桃核」として論を進める。

太田三喜氏によれば，現在の日本人が食べているモモは，その大部分が明治８（1875）年に中国から移入された上海水蜜桃・天津水蜜桃などの系統のものであるという（太田1986）。つまり，遺跡で発見されるモモとは異なる系統のものである。

モモは，弥生時代以降に日本に広まったものとされているが，長崎県の伊木力遺跡では，日本最古である縄文時代前期の小柄なモモが見つかっている。古墳時代から古代にいては，祭祀が行われた場所で木簡や人形とともに出土する例，井戸の中から出土する例などがあるというが，これも地鎮など祭祀に関係する。モモは人の魂が宿るとか，魔除けになるなどと考えられ，古くから様々な伝承がある。モモの持つ力について述べられたものとしては，古事記や桃太郎の話が著名であろう。

和銅５（712）年に成立した「古事記」には，黄泉の国（冥界・あの世）へ妻の伊耶那美命（イザナミノミコト）に会いに行った伊耶那岐命（イザナギノミコト）が，黄泉の軍勢に追われて逃げ帰ってくる場面で，黄泉比良坂の麓に生えていたモモが登場する。そして，伊耶那岐命がモモの実を３つ採って投げつけるとモモの力によって追っ手はことごとく退散する。

桃太郎は，流れてきたモモを割ると中に桃太郎が入っているというものが有名であるが，オリジナルは，流れてきた桃を食べた老夫婦が若返って桃太郎を生んだというものである。

桃の原産国・中国では，古くから桃には不老長寿や魔よけの力があると信じられ，「仙果」「仙桃」の別名を持つ。「桃源郷」の伝説もモモに関するものである。

いずれも，モモが超常的な力（強い呪力・霊力）を持つと考えられていたことを証拠となろう。また，この思想は日本独自のものではなく，中国からの借り物である。

⑵　遺跡でのありかた

県内では，筆者が確認した範囲では，13遺跡20箇所で発見されていることが確認された。詳細は表34に示した。基本的には，東和幸氏の集成（東2000）を参考としたが，これに中原一成氏の集成（中原2003）と，近年の新出資料を加えて作成した。

概説などでは，桃核は竪穴住居跡から出土する例が多いとされている（小清水1963など）。本県では4遺跡5箇所の竪穴住居内から出土している。他には，竪穴遺構１・井戸２・炉状遺構２・土坑墓１となっているので確かに割合としては竪穴住居内からの出土例が多いことになろう。ただし，井戸と土坑墓については祭祀的な側面が強いので，竪穴住居・炉状遺構からの出土についても，遺構の廃棄などに際する祭祀などの可能性も考慮すべきであろう。

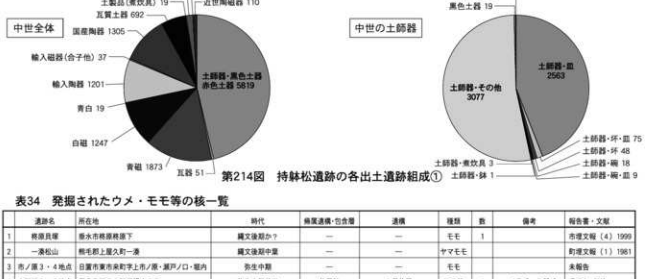
なお，10号炉状遺構中のものが，2.5×1.6cmで厚さ1.2cm，17号土坑墓中のものが2×1.3cmで厚さ1cmである。10号炉状遺構モモ核は通常サイズであるが，それ以外のものは17号土坑墓中のものとほぼ同サイズでありやや小ぶりである。これは本遺跡の特徴である可能性がある。

また，本遺跡では炉状遺構内から桃核のほかにオオムギ・コムギの炭化物が発見されている。これらは食用の可能性が高いが，桃核については食料と祭祀の両面から検討が必要であろう。ところで，古代以降の遺跡からは，栽培植物とともに食用可能な他の植物遺体も出土することから，食料資源が「栽培」という方法でのみ成立するものでないことが明らかにされている（山田1995）。本県のモモの出土状況についても栽培か否かそれとも他の要因かについて検討すべきであろう。

【参考文献】

小清水卓二1963「古代日本の住居跡から出土する桃核について」『近畿古文化論巧』　橿原考古学研究所
寺沢薫・寺沢知子1981「弥生時代植物質食料の基礎的研究」『橿原考古学研究所紀要　考古学論巧』第５冊　奈良県立橿原考古学研究所
大田三喜1986「古代遺跡出土の桃核について」『考古学と自然科学』第19号　日本文化財科学会
米田文孝1991「副葬品の種類と編年　その他自然遺物」『古墳時代の研究』８　雄山閣
山田昌久1995「日本における13～19世紀の気候変化と野生植物利用の関係」『植生史研究』３-１　植生史研究会
金原正明1996「古代モモの形態と品種」『月刊考古学ジャーナル』№409　ニューサイエンス社
東和幸2000「東アジア先史時代植物遺存体集成：鹿児島」　甲元眞之編『環東中国海沿岸地域の先史文化』　第３編　考古学研究成果報告書11
中原一成2003「鹿児島県における植物遺体の研究の現状」『九州・極東地域における植物種子の現状と課題』発表要旨集　熊本大学文学部考古学研究室・熊本大学埋蔵文化財調査室
大山真充1994「桃」　森浩一編　同志社大学考古学シリーズVI『考古学と信仰』　同志社大学考古学シリーズ刊行会
奈良国立文化財研究所1995『平城京左京二条二坊・三条二坊（長屋王・藤原麻呂邸）発掘調査報告』奈良国立文化財研究所学報第54冊

（上床　真）



第214図　持躰松遺跡の各出土遺跡組成①

表34　発掘されたウメ・モモ等の核一覧

	遺跡名	所在地	時代	検鶏遺構・包含層	遺構	種類	数	備考	報告書・文献
1	修徳見塚	垂水市桜原鶴原下	縄文後期か？	—	—	モモ	1		市埋文報（4）1999
2	一条松山	熊毛郡上屋久町一湊	縄文後期中葉	—	—	ヤマモモ			町埋文報（1）1981
3	市ノ原3・4地点	日置市東市来町字上市ノ原・瀬戸ノ口・堀内	弥生中期	—	—	モモ			未報告
4	上野原2～7地点	鹿島市笠沙上野原縄文の森	弥生中期前半	住居跡	1号住居	モモ核	1	一ノ宮式・北關式	県埋文（52）
5	上野原2～7地点	鹿島市笠沙上野原縄文の森	弥生中期中頃	住居跡	2号住居	モモ核	1	山ノ口・高堅・須玖式	県埋文（52）
6	橋年礼川	指宿市十二町下堂	古墳（笠貫か）	住居跡床面	—	モモ核	2	笠貫か・米	市埋文報（12）1993
7	大島	薩摩川内市中郷町東大小路町	晩期～中世（～近代？）	—	—	モモ核	2	突形と半分	県埋文（80）2005
8	小瀬戸	姶良郡姶良町西餅田	平安	井戸跡	井戸1	ウメ種実	1	須恵器・木器	県埋文報（19）
9	小瀬戸	姶良郡姶良町西餅田	平安	井戸跡	井戸1	モモ種実	3	須恵器・木器	県埋文報（19）
10	犬ヶ原	いちき串木野市市来町伊崎田犬ヶ原	平安	土坑(竪穴遺構)	土坑1（竪穴遺構）	モモ核	9		県埋文（50）
11	筆付	南さつま市金峰町尾下字筆付	古代～中世	—	—	モモ核	2		町埋文報（17）2004
12	仁田尾寺跡	鹿児島市石谷町仁田尾寺	平安	配石炉	2号配石炉	モモ核	2	籠形土器・土師器	県埋セ（110）2007
13	上水流	南さつま市金峰町花瀬	古墳（笠貫）	住居跡	6号住居	モモ核	1		本報告
14	上水流	南さつま市金峰町花瀬	中世後半～近世初頭	炉状遺構	10号炉状遺構	モモ核	1		本報告
15	上水流	南さつま市金峰町花瀬	中世後半～近世初頭	土坑墓	17号土坑墓	モモ核	1	古銭	本報告
16	芝原	南さつま市金峰町宮崎	古代か	溝状遺構	イコウ1391	モモ核	1		未報告
17	芝原	南さつま市金峰町宮崎	古墳～古代		イコウ7401	モモ核	1		未報告
18	芝原	南さつま市金峰町宮崎	古墳～古代		イコウ9874	モモ核	1		未報告
19	宮園B	南九州市川辺町神殿	弥生末～古墳初頭（中津野）	住居跡	2号住居	モモ核	数個	床面ではない	今年度報告
20	下ノ原B	大口市下殿	古墳	住居跡		モモ核	数個	床面ではない	未報告
21	狩俣	曽於郡大隅町岩川	古代か	—	—	モモ核	数個		未報告
22	南下	南さつま市土倉峰町尾下	古墳～古代	—	—	モモ核	数個	包含層	未報告

東和幸2000「東アジア先史時代植物遺存体集成：鹿児島」甲元眞之編『環東中国海沿岸地域の先史文化』第３編　考古学研究成果報告書１１中旋一成2003「鹿児島県における植物遺体の研究の現状」　『九州・極東地域における植物種子の現状と課題』発表要旨集
※　初島住彦氏の鑑定・教示によると，観賞用の花木であるハナモモの可能性も考えられるという（指宿市教委）。

表35　発掘されたモイデシ一覧

遺跡名	通称	所在地	備考	文献
松原遺跡	お田の森	南種子町茎永（嶺ノ小田）	宝満神社御新田（赤米栽培地）の隣接地・小野重朗氏が御新田を「モイデン」とした	小野重朗1970
津曲遺跡	津曲の森神社	肝属郡肝付町野崎字津曲	平成16・17年鹿児島大・琉球大発掘	小野重朗1966
山外森遺跡	山外森のモイヤマ	鹿屋市上組川町字山外森	狐ったとの伝承あり	小野重朗1966
北麓遺跡	森山	鹿児島市上福元町北麓	かつて「森山」と呼ばれた伝承あり	出口2003『からから』No.15・市埋文報（21）
森遺跡	森	姶良町西餅田森	地名から類推した	埋セ埋文報（55）
上水流遺跡	内野門のモイヤマドン	南さつま市花瀬字森山・上水流	上水流遺跡・「森河神」として祀っている。	指宿高校1957
芝原・渡畑遺跡	森山	南さつま市宮崎字芝原・渡畑	「森山」と呼ばれるところが「渡（わたり）」の近く（渡畑付近）にあったという。	「阿多地区伝承文化」（金峰町阿多地区公民館　編2000）
嶋神	嶋神	曽於市大隅町岩川城ヶ丘	遺跡は発掘せず。周辺を嶋神遺跡として調査	町教委埋文報告（1）・(2)・(4)

表36発掘された「塚」

遺跡名	所在地	備考	文献
放光寺	出水市高尾野町下高尾野字放光寺	鐘楼塚１基・集石墓６基・土坑13基	県教委埋文報（2）
山崎B	湧水町山崎	塚状遺構	県教委埋文報（1８）
東馬場	曽於市大隅町岩川東馬場	塚状遺構	大隅町埋文報（3２）
小園	南さつま市金峰町湯之名	石積みの塚	金峰町埋文報（1１）
川ノ上	鹿屋市大潮町字川ノ上	塚状遺構（供養塔）・頂上に石碑（墨書）	県教委埋文報（4８）
熊別府城跡	知覧町熊別府字城山・穴口	塚の下に方形土坑１・長方形土坑２・墓石・寛永通宝	知覧町埋文報（4）・上田1995『ミュージアム知覧紀要』第１号
北方遺跡	さつま町中津川北方町	塚状遺構	薩摩町埋文報（4）
下伊倉城跡	東串良町新川西下伊倉	県仁古墳群139号墳指定外７号墳の標注。中近世の塚の可能性あり	県教委埋文報（5０）
岡崎遺跡	鹿屋市串良町有里・岡崎	鹿児島大橋本助教授調査。岡崎２１号墳のとなり	
鎌石遺跡	志布志市志布志町鎌石	円形２基・寛永通貨・塚状を呈する	

第9節　モイドンに関する考察

（1）はじめに

日本全国で「森山」とよばれるものがある。多くは，大樹が少し茂る林状の森が小山となったものであるが，既に森ではなくなっていることも少なくない。また，そこでは「森神」を祀っていることが多い。

この「森神」についてはこれまでの研究を要約すると，一叢の森のなかで祭る神。その森のなかの1本の樹を神木とすることが多い。モイドンとかモリサンと呼称されるのは森に敬称の殿や様をつけたからである。森神は森の木を切られたり，森を汚されたりすると強く祟る神として恐れられることが特徴で，森荒神という名もしばしば聞かれる。祖霊の祭場であるのが森で，祖神を祭るのが森神とされてきたし，また農耕神であるとも説かれてきたという。しかし近年になってそれらの通説に対する批判的な研究もでてきている。

ところで，上記の中の「モイドン」とよばれるものは鹿児島に存在する。県内各地において，「モイドンさあ」「モイサマ」「森山」「森神社」などと呼ばれているものは，そのほとんどがいわゆる「モイドン」である。この「モイドン」については，これまで小野重朗氏と下野敏見氏らが研究している。次節では両氏の研究成果について整理したい。

（2）小野重郎氏と下野敏見氏の研究について

両者とも多くの論考があるが，ここではおおまかな問題だけあげる。まず，小野氏の研究からみていく。

小野氏は，モイドンを祖霊祭祀の場であったとして（小野1957ほか），精力的に鹿児島県内各地のモイドンの資料を収集し，研究を進めていた。

指宿地方の調査成果によれば，「社もなく神体も見当らないものが多」く，「神体らしい石や祠が見当らない」もの，「近くにある木が神体ではないかと思われる」ものなども存在するという（小野1955）。また，神体または神体らしき自然石を地上に置くもの，石の祠・石祠に似た石碑，木造の社をもつもの，五輪塔の頭部を神体するものなども存在することが明らかになっている。

しかしながら，1982年になって「森神自体が祖霊祭祀の場ではない」という趣旨の批判的研究に影響されたのか，自説を撤回してしまう（小野1982）。この問題について整理した下野氏によれば，「モイドンの問題は振り出しに戻った」（下野2004）ということになる。

次に，下野氏の研究についてみていくことにする。下野氏は「モイドンには石塔や五輪塔片をしばしば伴うが，それは森の精霊をはじめ山野にみちている精霊を寄せ集めて祭り込めてあることを裏書きするものであろう」（下野1984・2004）としている。具体的には，①「開拓に伴う開拓地の諸霊供養の場」②「開拓によって迫われた樹霊の鎮まる依り代であり，また供養の標識である樹木の存在する場」③「霜月の収穫後の門の講中の新嘗儀礼の場」という3要素によって成立した聖地とする（下野1984・2004）。また，モイドンを含めた「森山」の成立については，その地の開拓を行った「本家の創設時代であって，大方は近世に属し，古くても中世の中～末頃のことであろう（下野1999・2004）」とした。

このように，現在のところ小野氏の調査成果については，先駆的なものがあることは間違いないが，こと研究の面では小野氏が自説を撤回したこともあるので，下野氏の方がまとまっているということになろう。上記の理由から，ここでは下野氏の説を支持することにしたい。

（3）花瀬の森河神について

かつて，上水流遺跡内には「モイドン」があったとされている（指宿高校1957）。それは，「内野門のモイヤマドン」で別名「花瀬の森河神」（こちらで刻銘あり）であるが，現在までに2度遷座（移設）されている。

「モイドン新事例集」（指宿高校1957）によれば，「万之瀬川の土手のすぐ内側の田の中にあり，15坪ほどの砂地に，槙の木や蘇鉄などを植えて，その中央に木製トタン屋根の高さ60cmほどの家を作り，中には人頭大の砂岩が地上におかれ，白紙を被せて緒でくくってある。このほか，この祠には，黒い祠型の60cmほどの高さの石碑があって『森河神』ときざんである。又このあたりに木の根などには小五輪塔がばらばらになって少くとも6基分が散らばっている。」とある。確かに，筆者が平成12年度に上水流遺跡の調査に携わっていた頃には，上記の状況が残っていた。しかし，実はこの状況は過去に河川改修のために一度遷座された後のことらしい。

続けて引用すると，「大正の頃にはもっと川の上流の方によった所にあり，この森山にはおそろしい位に大きい木が」存在しているとあるが，筆者が地元の方々に聞き取りを行った結果によれば「上流」という部分は誤りで，実際はこの時点の場所よりも下流にあったことがわかっている。その場所は，まさに本遺跡であり，遺跡範囲の北側の字が「森山」であることからも，もともとの「モイドン」は今回の調査範囲の中に存在していた可能性が強い。

ところで，N－9・10区では，周溝とみられる溝状遺構を伴う「塚」状の遺構が発見されている。この塚状遺構の頂上付近には，T－1とT－2の2基の土坑があるが，性格不明である。実はこの「塚」状遺構が，かつて「モイドン」が存在したといわれる場所に近いことから，筆者はこの「塚」状遺構こそかつて「モイドン」だったものではないかと考える。これまで，「モイドン」についての発掘調査はあまり行われてこなかった。それは，

モイドンが「祟る」といわれていることによるものが大であろう。また，たまたま調査される場合が少ないのかもしれない。表35に掲げたが，「モイドン」の調査を主目的とした発掘調査はこれまでないようである。ただし，結果として「森山」「森」などの地名のつく遺跡や，「モイドン」とされる場所を調査していたことは若干みられる。

また，表36には，塚状遺構の発掘例についても掲げた。上水流遺跡の「塚」状遺構と「モイドン」との関係について類例をみるためである。類例を探すと，肝付町野崎の津曲の森神社などは，塚状の様相を呈している。また，「モイドン」とは若干異なるが，南種子町中之下真所の「森山（ガロー山）」も，一見すると古墳のようにもみえるものである。これをもって，上水流遺跡の「塚」状遺構が「モイドン」であるとは言い切れない部分もあるが，可能性は十分にあるのではないだろうか。

再び遷座について話を移すが，２度目の遷座は，河川改修によるもので，平成12年度の上水流遺跡の調査後の平成14年頃に行われた。筆者が平成16年の４月末に調査した時点では，既に現在の場所に遷座した後だった。現在は，祠と３基の五輪塔の一部（空風輪）が，セメントに半分埋められた状態で固定され祀られている。

ところで，五輪塔からは寺院や墓地との関係が想起される。周辺の寺院についても関係がありそうである。『金峰町郷土史』によれば，花瀬には曹洞宗の「大年寺（花瀬字内田迫・上之馬場）」と「皇徳寺（花瀬字今城原）」さらに，「今城」があったという（金峰町1987・1989）。

大年寺跡には，相州島津家三代（友久・運久・忠良）の石塔１基ずつと，代々住僧の無縫塔が22基残っている。なお，余談であるが，大年寺墓地のすぐ眼前には阿多用水路が流れている。

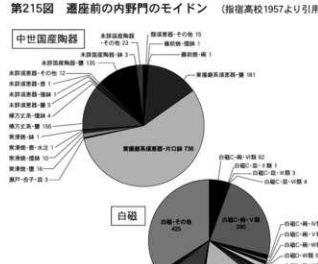
皇徳寺跡には，完全な形の逆修五輪塔１基と残欠数個がある。この寺は，南北朝の頃に後醍醐天皇の皇子懐良親王が５年間滞在されたと伝えられ，城館ではないが「今城」と呼ばれている。また，この場所には「男塚」「女塚」「諏訪神社（天和元年【1684年】再興の棟札あり）」も存在する。

この２つの寺院は，明らかでないがおそらくは中世中頃～近世初頭に開基されたと考えられるので，下野氏がモイドンの創設期とした時期とも合致する。今後，寺院や集落などとの関係も加味しながら上水流遺跡のモイドンについても検討する必要がある。

引用・参考文献

下野敏見1984「森山信仰の研究　－モイドンとガローヤマの成立について－」『鹿児島大学人文学科論集』第19号
下野敏見1999「日本の森山信仰の研究」『鹿児島純心女子大学国際言語文化研究』第５号
下野敏見2004『隼人の国の民俗誌Ⅰ　田の神と森山の神』岩田書院
徳丸亞木1999『森の信仰　－森や樹木にやどる神々－』　尚古集成館講座・講演集№40　尚古集成館
徳丸亞木2002『「森神信仰」の歴史民俗学的研究』東京堂出版
指宿高校郷土研究部1956「指宿地方のモイドンの調査」　『薩南民俗』８号　指宿高校郷土研究部
指宿高校郷土研究部1957「モイドン新事例集」『薩南民俗』10号　指宿高校郷土研究部
小野重朗1955「モイドン雑記」『鹿児島民俗』８号　鹿児島民俗学会
小野重朗1957「モイドン概説」『薩南民俗』10号　指宿高校郷土研究部
小野重朗1958「指宿神社の母胎　－モイドンをめぐって」『鹿児島民俗』19号
小野重朗1963「ガローとモリの二元性」『種子島民俗』16号　中種子高校地歴研究部
小野重朗1966「大隅のモイドン」『民俗研究』３号　鹿児島民俗学会
小野重朗1968「鹿児島のモイドン」『鹿児島県文化財調査報告書』13　鹿児島県教育委員会
小野重朗1970「森山の分布構造」『民俗研究』５号　鹿児島民俗学会
小野重朗1972『南九州の民俗神』南日本出版文化協会
小野重朗1982『奄美民俗文化の研究』法政大学出版局
小野重朗1992『南日本の民俗文化』第２巻神々と信仰　小野重朗著作集　第一書房
谷川健一編1995日本民俗文化資料集成第21巻『森の神の民俗誌』三一書房
福原敏男1996「森神信仰としての里神」『国立歴史民俗博物館研究報告』第69集　国立歴史民俗博物館
北園博1985「肝属東南部における祠堂」『大隅』第27号　大隅史談会
野田千尋1959「大隅半島高山町森神社のツナマキ祭り」『日本民俗学』第9号　日本民俗学会
金峰町郷土史編さん委員会1987・1989『金峰町郷土史』上・下巻

第215図　遷座前の内野門のモイドン　（指宿高校1957より引用）



第216図　持躰松遺跡の各出土遺物組成②

第10節　上水流遺跡とその周辺について

（1）　はじめに

阿多新田川は，地元では御新田川用水路と呼ばれる用水路で，川辺町田部田の轟堰から万之瀬川の水を引くものである（現在は，その途中である南さつま市金峰町白川からも引いている）。そこからは，万之瀬川右岸沿いに南さつま市金峰町宮崎まで引き，堀川に落とす灌漑用水路である。現在の総延長は，10,819㎞で灌漑面積が200haに及ぶ。

この用水路は，島津伊織久近が領有していた阿多の一部の半月ヶ原の荒地（中岳の西麓，宮崎のシラス台地）を開拓して禄不足を補うために開削させたといわれる。『鹿児島県維新前土木史』（県土木部1933）には明治年間に（江戸期の石碑が劣化したため）作り直された新田川工事記念碑の内容が掲載されている。それによれば，「川辺町大字田部田字越ヶ原に於いて万之瀬川に堰堤を築く。その位置は，轟瀬の上にして，右岸に取入口を設け幅十四尺，水深五尺の水路を穿ち，川に沿うて北行十町にして右折し，渓澗に入ること五町，左折隧道を穿って阿多村大字白川に入り西北に向い，又北流し字樋渡の下に達し，白川の渓流を横断し大迂回して西南に転行し，丘阜の麓に沿うて蜿蜒環流阿多の平野に出て堀川に注ぐ。水路亘長二里十二町，此間隧道三十箇所在り。灌漑面積二百七拾町歩，落成は享保十二年なり，起工の年は確かならざれども左に記する所に拠り享保九年ならむかと思われる。（中略）新田川開墾に伴うて原野を開墾し或は畑地を七百石に増加せしめたり」とある。

（2）　島津久近について

島津久近は，『金峰町史』などによれば今和泉島津家とされている。ただし，これには疑問が残る。阿多御新田川が完成したのは，享保10（1725）年とされており，今和泉家の再興された延享２（1745）年よりもさかのぼることとなってしまう。

そこで，島津久近について調べてみることとした。まず，今和泉家を調べてみると，島津久近という人物はどこにも出てこなかった。どうやら，今和泉とは関係ないようである。『薩陽武鑑』（尚古集成館1990）によれば，薩州家の島津用久を元祖とする「薩州家准次男家」の，藤原忠榮（薩州家六代義虎の四男）を祖とした５代目に「久近（伊織　織部　権太夫　常山）」がある。

しかし，これだけでは年代が明らかではないので，『鹿児島県史料　旧記雑録拾遺　諸氏系譜三』も併せて参照した。それによれば，「『久近』菊千代　彌市郎　伊織」とあった。①誕生は延宝３（1675）年で，母は島津久守の娘　②元禄９（1696）年に薩州中郷の地頭に補任される　③正徳元年（1711）年太守吉貴公から，次男以下に「岩越」の姓を賜う　⑤同年，太守吉貴公から，嫡子は代々「久」の字を使ってよいことが許され，次男以下には「用」の字を賜る。　ということが明らかとなった。

また，『鹿児島県史』第２巻（鹿児島県1940）には，日置家島津久健・宮之城家島津久方・都城家島津久龍と並んで島津久近が大身分とされたとある。

いずれにしても，島津一族である薩州家とはいえ准次男家としては格別の扱いを受けていることが上記の資料から窺える。しかしながら，「今和泉」との関係は明らかではない。今後，この問題については詳細な検討が必要であろう。

（3）　阿多郷と花瀬村

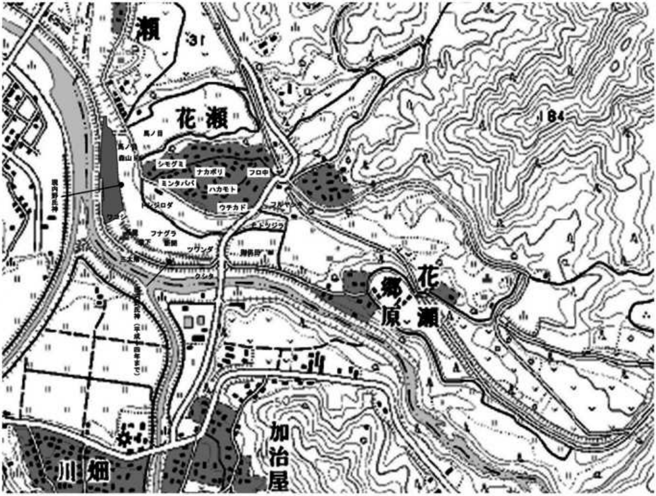
花瀬村は，『鹿児島県の地名　日本歴史地名大系第47巻』（芳即正・五味克夫編1998）によれば，「当村の北西部は阿多郷とよばれ，中世の山城鶴之城（別名阿多城・花瀬城）跡付近に地頭仮屋が置かれ，阿多郷の行政の中心であった。」とある。

阿多についての絵図としては，『阿多郡郷図』（天保８【1837】年作成・東京大学史料編纂所所蔵）がある。この中には，上水流遺跡付近とみられる場所に「享保13【1728】年より御新田開　御新田　鮎受原」とある（柳原2005）。また，直前の川の中には「山中渕立神高さ十八尋（約27～33m程度）」および「岩瀬戸中須」の記述がある。

まず，前者（御新田）についてだが，通常この地域で「御新田」といえば，持躰松・渡畑・芝原遺跡が存在する宮崎の水田を指す。これと対照的に，上水流遺跡周辺は現在「御新田」とは呼ばれていない。ただし，「鮎受原」という地名は小字に残っており，少なくとも享保年間に開発された「新田」という意味で「御新田」と記述されたのであろう。近世以前の集落が現在水田である東側にも広がっていたことが上水流Ｃ・Ｄ遺跡の調査で明らかである（金峰町2003）。また，調査区域の北東側（Ｔ・Ｕ－６区）や中央部（Ｊ・Ｋ・Ｌ－７・８区）が人為的に造成された可能性が高いということも考慮すると，遺跡廃絶後に「新田」となったことが想定されよう。

後者については，上水流遺跡から上流約１㎞の「古勢（こせ）の滝」の河岸の崖に「立神」が存在することを知り（下野1994を参考とした），実際にその場所に男根状に屹立する巨岩を確認した。この事実から，「山中渕立神」と「岩瀬戸中須」については本来よりも下流にずれて書かれた可能性があることが判明した。ただし，万之瀬川の流路については非常に正確に書かれているのでこの「ずれ」については検討を要するといえよう。

なお，前者の「鮎受原」については上水流遺跡の隣接地であるので，ずれなどの問題はないようである。



第217図　本遺跡周辺の孫字

参考文献

柳原敏昭2005「中世万之瀬川下流地域の様相について　－近世絵図を手がかりとして－」羽下徳彦編『中世の地域と宗教』吉川弘文館

芳　即正・五味克夫編1998『鹿児島県の地名　日本歴史地名大系第47巻』平凡社

鹿児島県歴史資料センター黎明館1992　『鹿児島県史料　旧記雑録拾遺　諸氏系譜三』　鹿児島県

尚古集成館1990『薩陽武鑑』

鹿児島県土木部1933　『鹿児島県維新前土木史』

下野敏見1991「南薩心象風景スケッチ」『加世田市の民俗』鹿児島大学基層文化研究室・加世田市教育委員会

榮喜久元1994『かごしま・川紀行』かごしま文庫⑮　春苑堂

（上床　真）

第11節　上水流遺跡出土の鉄関係遺物について

(1)　はじめに

上水流遺跡で出土した鉄関係遺物には，明らかな利器のほか，本来の形状や用途がわからない棒状や板状，短冊状の不定形の破片がある。今回，それらについて桃崎祐輔氏（福岡大学准教授）に御教示を得ることができた。以下にその時の御教示内容を含めた本遺跡の鉄関連遺物の概要を述べる。

(2)　鉄関連の遺構・遺物について

本遺跡出土の鉄関連遺物については，理化学的分析を行っていないので，それらが銑鉄・鋼塊のいずれか判然としないが，曲面をなすものは鉄鍋のような鋳鉄（銑鉄）片ではないかと考えられる。また棒状や板状，短冊状の鋼質のものが10点以上あり，長いものは10cm以上あるが，釘・杭・馬鍬などではない。本遺跡では，多量の鉄滓（椀形鉄滓・流状滓），金床石や槌の可能性のある敲打痕の

ある河原石，炉跡の可能性のある土坑（土坑A－2・3・4）などがある。このような状況を総合すると，鉄鍋もしくは板状・短冊状の銑鉄素材を搬入し，大鍛冶で鉄素材を生産し，小鍛冶で鉄製品を制作するような環境が考えられる。これらの鉄関係遺物については，今後は理化学的分析を踏まえた検討が必要であろう。

新田栄治氏の研究によれば，中国では宋代のエネルギー革命により鉄生産量が急増し，大量の鉄が輸出商品として東南アジアに輸出された。鉄鍋や鉄鼎の形で輸出されたものもかなりの量に上ったことは宮崎市定氏により指摘されている（宮崎1957）。また，『島夷誌略』（註1）に紹介された鉄及び鉄製品は，このような事情を反映している。東南アジア諸国が大量生産による良質安価な中国鉄を大量に輸入するようになっていたことが窺われる。生産量と品質で東南アジア鉄が中国鉄に劣っていたか，あるいは東南アジア鉄の安定的供給が困難であったことが要因であろう。クメール時代の全盛期が終わる頃（13～14世紀頃），東南アジアへ中国で大量生産された安価良質な鉄の大量輸入があった。輸入鉄は様々な鉄製品に加工されたが，製塩用鉄釜は従来製塩が行われていなかった地方にまで普及した。その結果，燃料と塩水がある限り容易に製塩が可能になった。そのことが東北タイに代表される内陸部の在来製塩の市場を壊滅させることになった（新田栄治2006・2007）。

こうした東南アジアの状況を踏まえれば，九州地方でも古代に数多くあった砂鉄原料の製鉄遺跡が中世になって消滅し，また製塩遺跡の消長についても未解明の部分があり，さらに多くの中世遺跡から鉄滓が出土するにもかかわらず，その量は非常に少なく，多くてもせいぜい大鍛冶に伴うもので，製鉄規模のものが見当たらない。という状況を説明できる可能性がある。つまり，宋からの安価な輸入鉄が在来鉄を駆逐し，地域社会は中国からの輸入銑鉄素材を棒状鋼に加工し，流通させる体制へと移行していったことを推測させる。

これまでにも，国産の鉄材料のみで鉄生産がなされていないであろうことは指摘されてきた(廣井1996)が，東アジアを視野においた指摘は近年になってのものである。

(3) むすびにかえて

本遺跡と類似する資料が金丸城跡（大崎町）にある。長さ20cmの釘状製品がそれである。

桃崎氏は「銑鉄は4％程度の炭素を含むのに対し，釘状品は0.2％の低炭素鋼で，類例との比較から，棒状鉄素材とみられ，半製品の素材鋼として流通したと考えられる。ひとつの遺跡から銑鉄・鋼の半製品があわせて確認され，一貫工程が推定できることは極めて稀である」（桃崎2007）と述べている。

本遺跡で出土した短冊状の鉄製品には穿孔がみられる（5・7）。これは流通単位や流通形態を示す可能性がある。

また，金丸城跡では，炉状遺構が19基発見され，遺物も16・17世紀を中心として古くは13・14世紀からみられるので，本遺跡と共通する部分が多い。今後，本遺跡についてさらに掘り下げる場合に参考となるであろう。

本稿は，桃崎氏の御教示がなければあり得なかった。桃崎祐輔氏に深く感謝してこの稿を閉じたい。

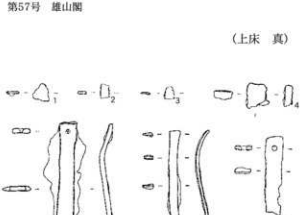
註

1　1350年に元の汪大淵が東南アジアで実際に見聞したことについて編纂した史書。14世紀中頃の東南アジア各地の地理や特産物，支配者，人々の風俗習慣，中国との関係などを国や島ごとに紹介している。

参考文献

新田栄治2006「南海貿易史料にみる南宋―元の東南アジアと塩鉄」小野正敏編『前近代の東アジア海域における唐物と南蛮物の交易とその意義』（科研報告書）国立歴史民族博物館
新田栄治2007「6.東南アジアの鉄文化-タイを中心として-」『第1回　東アジア鉄文化研究会　東アジアにおける鉄文化の起源と伝播に関する国際シンポジウム』（資料集）　東アジアにおける鉄文化の起源と伝播に関する国際シンポジウム実行委員会　北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）　pp.119-140.
宮崎市定1957「シナの鉄について」『史林』40－6
桃崎祐輔2007「中世遺跡出土資料からみた鉄精錬工程とその意義－福岡県二丈町森田遺跡・鹿児島県大崎町金丸城資料を中心に－」『福岡大学金属遺物談話会　第23回例会レジュメ』
廣井雄一1996「中世における刀鍛冶の居住地」『季刊　考古学』第57号　雄山閣

（上床　真）



第218図　上水流遺跡出土の鉄関連遺物

付編１　東アジア世界を見た龍顔・薩摩における茶の湯文化
－上水流遺跡を定点として－

１　上水流遺跡の性格

（１）立地と遺構から見て

当遺跡は，龍門すなわち河津(港)である。そのすぐ下流には12・13世紀代の中国陶磁器を多量に出土した持躰松遺跡が存在する。これらの港は，河口から約5kmの内陸部に位置することを考えると私貿易港と推定出来る。

（２）出土陶磁器に見る画期と茶の湯関係品

出土した陶磁器を質・量から判断して，４期の画期を設定した。そこからは，断続的な隆盛が想定出来る。

第Ⅰ期：12世紀第４四半期～13世紀第１四半期
第Ⅱ期：14世紀第3･4四半期
第Ⅲ期：15世紀第3･4四半期
第Ⅳ期：16世紀第４四半期後半～17世紀初頭

特に，茶の湯関係品に注目したい。第Ⅲで倣建窯系天目茶碗，瀬戸美濃窯系天目茶碗，Ⅳ期で志野唐津茶碗，黄天目唐津茶碗，15世紀後半代の在地系瓦質茶釜３個体，16世紀前半代の在地系土師質茶釜1個体，15～17世紀の8個体で3種の地元産石材で製作された茶臼が人為的に欠損され，建物群付近の8遺構に廃棄されて出土した。

２　禅林・禅僧・茶人の動向

（１）国際情報蒐集基地の禅寺

禅寺は，港に隣接して建立されていることが多い。それは，禅寺が東アジア貿易に深く関与していた証明である。そこはいうまでもなく誰もが出入り自由な国際情報基地であり，下克上を許さない禅院茶礼の発進地である。

（２）外交官としての禅僧

彼等は中国と日本の貿易商人を仲介し，茶の湯文化の発進者である。博多の聖福寺を建立した臨済宗栄西禅師は，黒之瀬戸で防御された出水市野田町に1194年島津忠久が創建した感応禅寺を開山し米ノ津を管理した。元臨済宗南禅寺の法嗣で1450年に渡海して琉球国王尚泰久の茶頭となった芥隠承琥禅師は，本遺跡の上流である南九州市川辺町清水の宝福寺から渡海した。川辺町には，福建・広東の民間信仰である石敢当が4ヶ所残る。1467年遣明船大内船で雪舟と渡明した臨済宗禅師桂庵玄樹は，1473年帰国するものの応仁の乱を避けて島津忠昌の招聘を受けて1478年日置市東市来町竜雲寺に入り，後に島津忠昌が開山した桂樹院(島陰寺)に移った人物である。伊藤幸司氏は，桂庵玄樹とその孫の文之玄昌は，島津氏の外交文書起草や外交政策に深く関与していたと論じている。金峰町には，禅寺である島津友久の菩提寺の太平山常珠寺正春庵や報恩寺，水泉庵，南源庵，梅春庵，太俊庵，1535年移築して来た金蔵寺，吸江和尚開山の（曹洞宗）大年寺が存在した。なお，多夫施神社は，養老年間に唐僧道慈師が建立したとされる。鹿児島市曹洞宗福昌寺を1394年島津元久が建立したように県下には，44の禅寺が現存する。尚，本遺跡に隣接する阿多と白川地域が薩摩における12世紀からの茶業発祥地という一説は，茶都・福建省安渓と同じく茶の栽培に適した霧によるのだろうか。

（３）堺茶人関氏喜安入道蕃元が琉球国へ

千利休の系統を継承し島津義久の許可を得て慶長五年(1600)琉球国尚寧王の茶頭となるが，慶長14年(1609)島津氏の琉球国侵攻により尚寧王と共に捕虜となり薩摩に戻ると『喜安日記』(筑波大学附属図書館蔵)は伝える。15世紀後半代以降の禅林関係から茶の湯が島津氏に定着していたからこそ彼は受け入られと考えられる。

３　歴史資料に見る港

（１）『海東諸国紀』(朝鮮成宗２・1471年編)の情報力「三隅浦津」には2本の河川が記されており，「川内川」と「万之瀬川」の存在を意図的に描写している。『同上』に「薩摩州　硫黄を産出す」とあることから明，朝鮮王朝，琉球王国への軍事物資港として注目されていた。1591～1598年描写年代の『河盛家所蔵日本地図屏風』も同じく河川を記す。上水流遺跡の主たる輸出物は硫黄であり，硫黄を輸出するためにつくられたと考える。その硫黄は，上流や近辺の温泉地帯から採集されたのだろうか。

（２）堺の『河盛家所蔵世界地図屏風』がもつ歴史性

この屏風は，文禄元年(1592)豊臣秀吉が長崎・京都・堺の貿易商に対する朱印船貿易の許可を権威付ける屏風である。秀吉が堺から移行しようとした外港は，その屏風に見る出発港の長崎である。交証からは，「黒砂糖・蜜・胡椒・金」を輸入している。本遺跡からは，16世紀末葉～17世紀初頭の中部ベトナム・ミースエン・フックティク窯系長胴壺片が2個体分出土した。この長胴壺は交証からの上記の輸入容器であり，茶の湯の切溜花入に再利用されたものである。また，同時代出土の福建省漳州窯系青花碗・皿は，この屏風に「漳州　…白砂糖黒砂糖皿茶碗手之悪物出」との記載から頷ける。万之瀬川河口の南さつま市加世田寺園家には，福建海商の海神・媽祖像と共に奉納された16世紀第3四半期の華南三彩クンディーと果実型水注がある。出土した福建省閩南沿海窯系白磁Ⅳ類碗や同安窯系青磁碗(13世紀第1四半期)，漳州窯系青花と媽祖像の存在は，福建海商との深い関係を意味している。

４　島津氏と堺商人との連携

特に，遣明船貿易に関与していた堺市臨済宗海会禅寺

に帰依していた堺貿易商達は1469年遣明船堺初入港を機に東中国海太平洋貿易路を再構築した。文明3年(1471)「右衛門尉行頼奉書」(島津文書)は，島津氏に幕府印判のない船が堺から琉球国へ向う船を拒否するように依頼している。文明6年(1474)「室町幕府奉行人連署奉書」(島津文書)は，幕府が琉球国への渡海船と遣明船の中国渡海で島津氏に取り計らいを命令した。それは，1476年堺貿易商湯川宣阿らが請負った遣明船を出帆するための根回しをした文書である。両資料は，島津氏を幕府の東アジア貿易や外交政策の代理人としての位置付けを意味する。さらに，天文22年(1551)「陶晴賢書状案」(大願寺蔵)は，堺の濱より薩摩への頻繁な商業目的の往来を物語る。そして，禅の精神を堅持した大茶人であり堺の政商山上宗二は，屋号が薩摩屋とその茶会記に記するように本店を薩摩に置きながら堺に進出して貿易システムを構築していた。他に，島津氏との関係を補強するものがある。島津氏の家紋である「丸に十文字」と同じ紋が堺市臨済宗大徳寺派南宗禅寺本源院の紋である。その寺には，中国禅僧が伝えたとされる位牌の風習に従い高さ約60cmの二柱の島津氏の黒漆製位牌が安置されている。幼年に京都・臨済宗相国寺に入った冷泉為純の子で近世朱子学の祖とされ，朝鮮朱子学者姜沆の弟子，藤原惺窩(1561～1619)の日記では，1596年内之浦に来ていた明船の船主呉我洲が泉州人と記す。また，肝付町波見(志布志湾)の役人である山下宗安の居館で「…十器一陶之茶具盤灯…」と茶道具を見たとある。島津氏と堺とは，貿易や茶の湯禅林において極めて密接な関係にあった。

5　まとめ

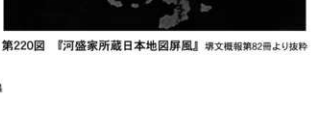
本遺跡出土の陶磁器や茶の湯関係品は，混乱と安定が交錯する日本歴史や島津氏の歴史と無関係ではない。第Ⅰ期には，平安末葉～鎌倉幕府成立過程における混乱期の1186年摂関家近衛家の惟宗忠久が島津荘の惣地頭に任命された。薩摩・大隅・日向の守護となるのが1197年のことである。第Ⅱ期は，南北朝動乱期の1333・1363年島津貞久とその子が薩摩・大隅・日向の守護職となる安定期である。第Ⅲ期は応仁の乱前後で，島津氏分家の自立と一族の連合が見られる中で禅僧芥隠承琥・桂庵玄樹が島津氏の外交政策に重要な役割を果たした。第Ⅳ期は1574年大隅を支配したが，近世萌芽期の1587年島津義久が博多や堺商人の後方支援を受けた豊臣秀吉に降伏した。以上から，日本の東アジア・東南アジア貿易の要であった薩摩における禅僧の動向，京都や堺茶の湯文化の伝播を示す本遺跡は，島津氏の東アジア外交を支えた歴史的に重要な貿易港である。そして，一片の陶磁器の光には歴史的な意味がある。本文作成にあたり，新東晃一，池畑耕一，中村耕治，上床真氏をはじめとする鹿児島県立埋蔵文化財センターの方々の御教授を賜った。

引用・参考文献

谷川健一編1981『海東諸国記』「宮安日記」『日本庶民生活史料集成 第27巻 三国交流誌』三一書房
伊藤幸司2002「島津氏の外交文書起草と禅僧」『中世日本の外交と禅宗』吉川弘文館
上東克彦2004「鹿児島県薩摩半島に伝世された華南三彩 －クンディと果実形水注－」『貿易陶磁研究』№24 日本貿易陶磁研究会
森村健一2007「福建・琉球・堺における禅林と海商 15世紀後半における東中国海太平洋禅林ネットワーク」『南島考古』第26号 多和田真淳先生生誕百年記念特集号 沖縄考古学会
高柳光壽1930「藤原惺窩傳補遺」『国史学』第3号 国史学会

(森村健一)

第219図 『海東諸国記』(日本庶民生活資料集より抜粋)



第220図 『河盛家所蔵日本地図屏風』堺文機報第82冊より抜粋

付編２　鹿児島県南さつま市上水流遺跡出土人骨

１　はじめに

上水流遺跡からは，中世後半以降の土坑墓が数基発見されている。その中には人骨が残っているものもあった。以下にその特徴をあげる。

２　各人骨について

・18号土坑墓出土人骨

右の側頭部（右頭頂骨・右側頭骨）が遺存する。性別は不明である。観察できる頭蓋縫合は内板外板とも癒合していない。年齢もはっきりしないが，少なくとも12歳よりも若いことはない。

・17号土坑墓出土人骨

右上下顎の小臼歯以降の歯冠が，すべて遊離歯の状態で遺存しているだけである。歯式は以下の通りである。

⑧７６　４
⑧７６５４

上下顎の第三大臼歯は咬耗していないことから未萌出の状態であったことがわかる。他の遺存している歯の咬耗はMartinの１度であり，年齢は12～14歳の若年と推測される。性別は不明である。遺存する上顎の大臼歯3本にカラベリ結節は認められない。下顎右第二大臼歯は5咬頭である。

・10号土坑墓出土人骨

右側頭骨から後頭骨にかけての部分が遺存する。外後頭隆起が大きいことから男性と考えられる。観察できるラムダ縫合は内板外板とも癒合していない。年齢は成人に達していた可能性が高い。

・6号土坑墓（桶墓）出土人骨

四肢骨と考えられる、長さ5mm未満の小骨片が十数片遺存しているだけである。年齢も、性別も不明である。

・11号土坑墓出土人骨

脳頭蓋の右半分と下顎が遺存している。右の側頭骨の乳様突起は小さく、女性である。歯は下顎の歯が遺存している。歯式は以下の通りである。咬耗は主にMartinの2度であり、壮年と判断される。

７６５４３２○　１○○

脳頭蓋は左半分が遺存していないが，前後径は長く、長頭であったはずである。

・15号土坑墓出土人骨

全身の骨が遺存しているが，保存状態はよくない。寛永通宝が副葬されていた。頭蓋は脳頭蓋の右半分が遺存している。右の側頭骨の乳様突起は大きく、男性である。年齢は頭蓋縫合の外板が癒合していないことから、壮年の可能性が高い。脳頭蓋は左半分が遺存していないが、前後径は長く、長頭であったはずである。

四肢骨は左右の大腿骨に柱状形成が認められ、激しい運動をしていたことがわかる。

３　おわりに

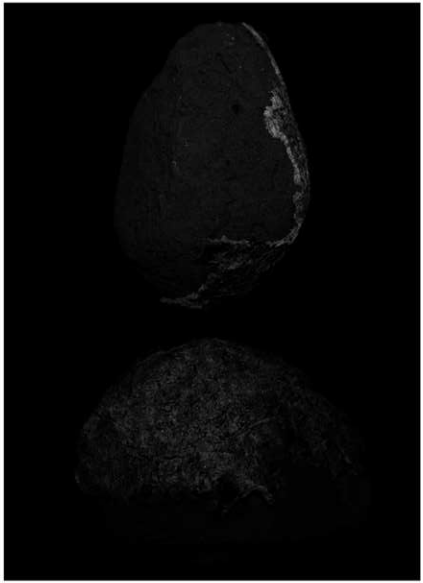
南九州から出土した中世～近世人の脳頭蓋は長頭を示す個体が多いが，南九州の現代人は短頭で，日本列島の中でも短頭傾向が著しいことで知られている。鹿児島県南さつま市上水流遺跡から出土した人骨も中世～近世人骨は長頭であった可能性が考えられる。南九州の近世人には長頭が一般的であり，短頭化は明治以降，短期間に進展した可能性がより強くなったという説を補強する資料となった。今後，中世から近代にかけての古人骨資料の出土が増加し，南九州における近代までの頭蓋形質の時代変化の実態が一層明らかになることを期待したい。

【参考文献】

Martin, R. & Knussmann, R (1988) *Anthropologie*. G. Fischer, Stuttgart

（竹中正巳）

図版55　15号土坑墓出土男性壮年人骨
（上：上面観　下：右側面観）



図版54　11号土坑墓出土女性壮年人骨
（上：上面観　下：右側面観）

観　察　表

表37　古墳時代住居内出土遺物観察表(1)

検図	住居番号	遺物番号	取上番号	器種	色調（外）	色調（内）	調整（外）	色調（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
10	1	1	一括	壺	暗褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		2	240 242 244 245 206-4	壺	暗褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		3	19 196 198 199 200 201 202 206 235	壺	暗褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		4	6	壺	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○			
		5	184 185	壺	茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		6	一括	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		7	66	壺	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		8	一括	壺	茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○			
		9	241 246 208-2 208-3 206-4 206-5 24-8	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		10	90 179	壺	茶褐色	黄茶褐色	不明	不明	○	○					
11		11	76 87 106	壺	茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		12	207	鉢	茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ミガキ	○	○					
		13	一括	鉢	黄茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		14	一括	鉢	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ミガキ	○	○					
		15	一括	鉢	茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		16	3	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		17	81	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		18	16	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		19	一括	高坏	白茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		20	7	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		21	一括	高坏	赤茶褐色	茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		22	234	高坏	淡黄茶褐色	淡黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		23	233	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		24	一括	高坏	橙茶茶褐色	橙茶茶褐色	ミガキ	不明	○	○					
		25	78	高坏	赤茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		26	74	甕	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ後ミガキ	○	○					
		27	一括	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		28	一括	甕	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		29	60	甕	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		30	190 209 215 230 240 242	甕	赤褐色	赤黄褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		31	24	手捏	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		32	一括	手捏	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		33	一括	手捏	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
13	2	1	52	壺	暗茶褐色	褐色	ハケメ	ナデ	○	○					
		2	6	壺	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		3	4	壺	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		4	15	壺					○	○					
		5	41 42	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		6	46	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		7	一括	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		8	23	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		9	一括	鉢	黄茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		10	11	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		11	44	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		12	30	手捏	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
16	3	1	14	壺	淡黄茶褐色	淡黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		2	一括	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		3	29 44	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○		○			
		4	一括	壺	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		5	27	壺	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		6	67	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		7	10	壺	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		8	6 24 26 30 46	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		9	一括	高坏	茶褐色	明茶褐色	ミガキ	ケズリ後ミガキ	○	○		○	○		
		10	3	坩	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		11	15 16 21	坩	赤褐色	黄茶褐色	ハケメ後ミガキ	ナデ	○	○					
		12	2 17 34 70	坩	赤褐色	赤茶褐色	ハケメ後ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		13	19	坩	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		14	45	手捏	赤茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		15	31 36 37 38 40 41 50 52 53 54 55	須恵器	灰褐色	灰褐色	―	―							
		16	62	須恵器	灰褐色	灰褐色	―	―	○	○					
19	4	1	27	壺	暗茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		2	36	壺	暗灰褐色	暗灰褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		3	57	壺	黄茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		4	一括	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		5	52	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ケズリ	○	○					
		6	39	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		7	30	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		8	38 51	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		9	42 45 46 47	坩	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		10	50	坩	赤茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		11	34	小型	淡黄茶褐色	淡灰茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		12	23	手捏	赤褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		13	8	手捏	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
23	5	1	923 1065 1142 1479 1728 1759 1760 1968 1980 2324 2329 2357 2376 2380 2587	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		2	935 969 1731 1762 2196 2322 2323 2629 2712	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
		3	670	壺	黄茶褐色	淡黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
		4	703 1426	壺	淡黄茶褐色	淡黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○		○	○		
		5	1192 1438 2127	壺	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					

表38　古墳時代住居内出土遺物観察表(2)

種類	住居番号	遺物番号	取上番号	器種	色調（外）	色調（内）	調整（外）	色調（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
24		6	2034 2079 2203 2204 2266 2494 2509 2518 2519	壺	黒褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		7	1063 1656 2342	壺	黒褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		8	401 1873	壺	暗茶褐色	淡黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○					
		9	663 1442 1485 1592 1593 1594 1824 1834	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		10	657	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		11	700	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		12	1001 1816	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		13	768	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		14	793	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		15	1824	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		
		16	1697	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		17	658	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		18	210 1584 1805 1883	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
		19	1456 1530	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		20	2008	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
25		21	21 159 181 579 1262 1280 1346 1560 1561 1567 1571 1841 1842 1861 1991 2109 2111 2114 2128 2184 2190 2684	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		22	2676 2920	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○				○	
		23	1865 1869	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		24	788 968 2432	壺	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○					
		25	2756	壺	茶褐色	灰茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○			○		
		26	417	壺	茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		27	1080 1130 2368 2370 2453 2525	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		28	784 984 1136 1295 1392 2321 2704 2720	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		29	152 668 669 1020 1029	鉢	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
26	5	30	267 924 929 1123 1267 1296 1602 1876 2015 2020 2088 2096 2097 2156 2178 2655 2700	鉢	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		31	772 773 1047 1086 1290 1291 1443 1544 1545 1815	鉢	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		32	2170 2171 2181 2335	鉢	黒褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		33	800 868	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ後ナデ	○	○		○			
		34	1408	鉢	赤茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		35	1556 1827 1829 2382	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		36	711	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		37	138 141 406 440 570 589 657 1044 1349	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					火受
		38	1200	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		39	767 1167 1767 1771 1786 1794 1794 2200 2207 2374 2377 2416 2417 2419 2741	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		40	272 2708	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		41	2514 2520 2709	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		42	一括	高坏	白茶褐色	白茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		43	1209	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		44	2085 2093 2224 2331	高坏	灰茶褐色	灰茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		45	875	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○		○	○		
		46	990	高坏	暗褐色	灰黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		47	1505 2117	高坏	赤褐色	茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○		○			
		48	2236 2315	高坏	に近い赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		49	2732	高坏	暗茶褐色	茶褐色	ケズリ後ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○			○		
		50	2588	高坏	赤褐色	明黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
27		51	419 464 590 601 651 786 792 1045 2045 2570 2624 2628	坩	明茶褐色	明茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		52	59 771 780 1081 1101 1281 1284 1286 1544 1589 1591 1604 1805 2172	坩	淡橙色	淡橙色	ミガキ	ナデ	○	○					
		53	184 720 721 972 973 974 975 976 977 978 979 1672 2227 2546 2548 2549	坩	明茶褐色	明茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		54	710	坩	灰褐色	灰褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		55	1433 1436 1437 2172 2187 2231 2243 2503	坩	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ミガキ	ナデ	○	○		○			
		56	1043 1587	坩	黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ミガキ	ケズリ後ナデ	○	○			○		
		57	948 951	手捏	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		58	246 1916	手捏	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
31	6	1	141 320 404 485 1047 1054 1144 1189 1195	壺	明茶褐色	明茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		2	463 477	壺	黒褐色	暗黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		3	1156	壺	茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		4	335 489 1059 1156	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		5	408 1051 1156	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		6	19 260 363 1072	壺	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		7	1045	壺	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○					

表39　古墳時代住居内出土遺物観察表(3)

検図	住居番号	遺物番号	取上番号	器種	色調（外）	色調（内）	調整（外）	色調（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
31		8	416	壺	茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○				○	
		9	125	壺	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○					
32		10	427	壺	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		11	107　128	壺	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		12	195　260　261　263 284　1009	壺	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○		○			
		13	260　374	壺	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○			
		14	233　247　1032	壺	暗茶褐色	反茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		15	31　24	壺	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		16	272　433　1003　1005 1008	壺	赤茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		17	383　1001　1002	壺	赤茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		18	1057	壺	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
33		19	163　165	壺	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		20	1007	壺	赤茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		21	49	壺	暗茶褐色	反茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		22	130	壺	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		23	379	壺	茶褐色	浅茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		24	74	壺	茶褐色	茶褐色	ナデ	ハケメ	○	○					
		25	1181　1196	壺	茶褐色	茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		26	116　173　294　295 1027　1065　1102　1104 1193	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○					
		27	37　176　447	壺	茶褐色	暗褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		28	305	壺	赤茶褐色	茶褐色	ケズリ後ナデ	ミガキ	○	○					
		29	402	壺	赤茶褐色	反茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
		30	194　410　1050　1060 1071　1134　1140	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○					
34		31	290　293　300　322 325	壺	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		32	1046　1145	壺	赤茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		33	81	壺	赤茶褐色	反茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		34	384	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		35	259	壺	茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		36	1073	壺	茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○			○		
		37	234　1033	壺	茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		38	307　329	壺	茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		39	406　1136	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		40	1116　1117　1118　1119 1120　1179　1197	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		41	97　98　120	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
		42	1214	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		43	153	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	6	44	一括	壺	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		45	182	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		46	1019　1091　1133　1178	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		47	1095　1154　1111	壺	黄茶褐色	反茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		48	339　375　418　1132 1185	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		49	393	壺	茶褐色	茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		50	1180	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
35		51	210	鉢	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○					
		52	286　287	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		53	49　121	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		54	336　340	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		55	2　3	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		56	395　1109　1201	鉢	黒褐色	反茶褐色	ハケメ後ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		57	1012　1130	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		58	一括	鉢	黒褐色	反茶褐色	ハケメ後ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		59	1121　1183	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		60	54	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	不明	不明	○	○					
		61	一括	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	不明	不明	○	○					
		62	1155　1191	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○			○		
		63	314　1190　1565	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ケズリ後ミガキ	○	○			○		
		64	1081	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		65	1010　1020	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○			○		
		66	240　312　453　1148 1898	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		67	431	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○			○		
		68	1068	高坏	赤褐色	赤茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		69	239　245　321	高坏	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
36		70	1182	高坏	浅黄茶褐色	浅黄茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		71	1211	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		72	1146	高坏	赤茶褐色	浅橙色	ミガキ	ケズリ後ナデ	○	○			○		
		73	1084	坩	反黄茶褐色	反黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
		74	1042　1206	坩	にぶい赤茶褐色	にぶい赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		75	1083　1102　1133	坩	反黄茶褐色	反黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		76	一括	坩	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		77	47　102	坩	赤茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ミガキ	ナデ	○	○			○	○	
		78	1093　1112　1138	坩	反黄茶褐色	反黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ナデ	○	○					
		79	1082	坩	反黄茶褐色	反黄茶褐色	ケズリ後ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		80	1212	手捏	反黄茶褐色	反黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		
		81		手捏	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		82	315	手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		83	1215	手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		84		手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		85		手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
38	7	1	4　9	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		2	1	壺	暗茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ナデ	ナデ	○	○			○		
		3	3	壺	赤茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○			○		
		4	一括	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		5		手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
42	8	1	一括	壺	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		

表40　古墳時代住居内出土遺物観察表(4)

検図	住居番号	遺物番号	取上番号	器種	色調（外）	色調（内）	調整（外）	色調（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
42		2	一括	壺	暗灰茶褐色	灰茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		3	4　26	壺	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		4	9	壺	赤茶褐色	黒褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		5	一括	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		6	35	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
		7	一括	壺	黄茶褐色	淡黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○		○			
		8	31	壺	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
		9	16	壺	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
		10	一括	壺	暗茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ミガキ	ナデ	○	○					
43	8	11	16	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		12	18	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		13	31　39	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		14	3	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		15	31	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		16	一括	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		17	7	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		18	20	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		19	一括	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		20	一括	高坏	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○		○	○		
		21	一括	高坏	黄茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		22	20	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ケズリ後ナデ	○	○					
		23	6	高坏	赤褐色	赤褐色	ミガキ・ナデ	ナデ	○	○					
44		24		高坏	灰茶褐色	灰茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		25	1　12	坩	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ後ミガキ	○	○					
		26	14	坩	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		27	30　50　52　53	坩	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		
		28	31	手捏	赤茶褐色	灰褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		29	32	手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		
		30	5	手捏	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		
46		1	71　91	壺	赤茶褐色	褐褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		2	7　19　25　33 40　44　49　67 89　102　106	壺	にぶい茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○			○	○	
47	9	3	48	壺	黄茶褐色	茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○			○	○	
		4	36　37　38　42 54	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		5	一括	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		6	41　46　56　57 58　59　60　61 62　63　66　68 69　70　73　76 77　85　93　100 101　102	高坏	赤褐色	明黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		7	16　52　53　64 78　79　81　86 95　103　104　105 106	高坏	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		8	72　74　80　82 84　88　92　97 98	高坏	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		9	94	高坏	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		10	34	高坏	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
		11	42	高坏	にぶい赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ケズリ後ナデ	○	○					
		12	一括	坩	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		13	5	手捏	黒褐色	黒褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		14	51	手捏	黒褐色	黒褐色	ナデ	ナデ	○	○					
50		1	36	壺	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		2	一括	壺	茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		3	一括	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		4	一括	壺	黄茶褐色	灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		5	一括	壺	黒褐色	黒褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		6	一括	壺	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○	○	
		7	34	壺	赤茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		8	一括	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○	○	
		9	一括	壺	黒褐色	黒褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
		10	39	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ナデ	ナデ	○	○		○	○	○	
		11	一括	壺	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○			○	○	
		12	9	壺	黄茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		13	54	壺	黄茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
51		14	21	壺					○	○					
		15	一括	壺	赤茶褐色	赤黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		16	11　13	壺	黄茶褐色	灰茶褐色	不明	不明	○	○					
		17	一括	壺	黄茶褐色	灰茶褐色	不明	不明	○	○					
52	10	18	一括	壺	黄茶褐色	灰茶褐色	不明	不明	○	○					
		19	一括	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		20	一括	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		21	一括	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
		22	一括	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		23	52	鉢	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○				○	
		24	一括	鉢	暗茶褐色	黒褐色	ハケメ後ミガキ	ナデ	○	○		○			
		25	22	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
		26	13	高坏	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		27	ベルト	高坏	暗茶褐色	茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		28	一括	高坏	褐褐色	黄褐褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○	○	○	○		
		29	37	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ケズリ後ナデ	○	○					
		30	25	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○			○		
		31	一括	高坏	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○		○	○		
		32	一括	高坏	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
		33	65	坩	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ・ナデ	○	○					
		34	一括	坩	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ミガキ	ミガキ・ナデ	○	○					
		35	一括	坩	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		36	一括	坩	茶褐色	茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○		○	○		
		37	一括	坩	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					

表41　古墳時代住居内出土遺物観察表(5)

挿図	住居番号	遺物番号	取上番号	器種	色調（外）	色調（内）	調整（外）	色調（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
52	10	38	一括	坩	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
		39	一括	手捏	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
		40	5	紡錘車	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○			○		
		41	1　4　10　15　20	須恵器	暗灰黄褐色	暗灰黄褐色	ナデ	ナデ	○						
54	11	1	12	坩	赤褐色	赤褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		2	23	坩	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
		3	24	高坏	赤褐色	明赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
55		4	4　6　7	壷	黒褐色	赤褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
		5	2	壷	黒褐色	赤褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		6	13　14	壷	赤茶褐色	黒褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
		7	17	壷	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○		○	○		
		8	22	鉢	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		9	1	高坏	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○			○		
		10	8	高坏	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○			○		

表42　古墳時代遺構内出土遺物観察表

挿図	遺構名称	遺物番号	取上番号	器種	色調（外）	色調（内）	調整（外）	色調（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
56	土坑	1	一括	壷	褐褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
		2	一括	坩	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
57	ピット1	1	一括	壷	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		2	一括	壷	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ・ウズリ	○	○					
		3	一括	壷	明黄茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○			○		
		4	一括	壷	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○		○	○	○	
		5	一括	壷	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○		○	○	○	
		6	一括	壷	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○		○	○	○	
		7	一括	壷	黒褐色	赤茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○		○	○	○	
		8	一括	壷?	明黄茶褐色	明黄茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○		○	○	○	
58	ピット2	1	一括	壷	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○			○		
		2	一括	壷	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○		○	○		
		3	一括	高坏	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○		○	○		

表43　古墳時代遺構内出土石器観察表

挿図	番号	遺構名称	種類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材
11	34	1号住居	石斧	11.5	7.0	5.4	540.0	砂岩
27	59	5号住居	敲石	7.6	5.7	3.8	160.0	砂岩
36	86	6号住居	敲石	16.8	5.3	4.6	520.0	頁岩
	87		敲石	14.2	6.4	4.4	460.0	頁岩
	88		敲石	15.7	4.4	3.1	350.0	頁岩
	89		磨石	15.5	11.7	3.2	870.0	砂岩
	90		磨石	30.9	8.1	8.3	3050.0	砂岩
39	6	7号住居	台石	18.3	15.3	10.0	3220.0	ホルンフェルス
	7		台石	22.6	14.8	8.6	4020.0	ホルンフェルス
44	31	8号住居	磨石	7.4	3.3	3.4	110.0	天草石
	32		磨石	13.8	4.7	3.5	380.0	ホルンフェルス
	33		敲石	11.8	6.8	5.7	630.0	ホルンフェルス
	34		敲石	13.1	6.4	5.0	480.0	ホルンフェルス
47	15	9号住居	敲石?	6.7	4.4	2.0	8.0	ホルンフェルス
53	42	10号住居	台石	21.3	9.6	6.4	2540.0	ホルンフェルス
55	11	11号住居	擦製石器未製品	4.6	2.5	0.6	9.6	頁岩
58	1	遺構間	敲石	11.2	7.7	5.3	700.0	ホルンフェルス
	2		敲石	11.9	4.0	3.4	270.0	ホルンフェルス

表44　遺構内出土石製品観察表

挿図	番号	遺構名称	種類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材
27	60	5号住居	管玉	2.1	0.5	0.5	0.7	平滑
	61	5号住居	管玉	2.0	0.5	0.5	0.6	緑泥片岩

表45　遺構内出土鉄製品観察表

挿図	番号	遺構名称	種類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
27	62	5号住居	鏃鏃	4.0	0.8	0.1	9.7	
44	35	8号住居	不明	2.8	1.6	0.4		
	36		不明	2.2	0.4	0.3		

表46　古墳時代包含層出土遺物観察表(1)

挿図	番号	器種	区1	区2	層	X	Y	Z	取上番号	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
65	1	壷	H	8	3	–	–	–	–	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
	2	壷	S	8	2a	76. 334	53. 975	2. 634	119306	灰黄茶褐色	灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	3	壷	B	4	3	241. 745	90. 480	1. 585	105318	灰黄茶褐色	灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	4	壷	U	7	3a	60. 300	69. 405	4. 766	31652	赤茶褐色	灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
	5	壷	P	8	3a'	106. 270	50. 996	3. 230	116549	黒褐色	灰黄茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○					
			P	8	3a'	106. 393	51. 979	3. 110	116553											
	6	壷	U	7	3a'	59. 929	69. 975	4. 877	24620	黄茶褐色	黄茶褐色	ヘラケズリ後ナデ	ナデ	○	○			○	○	
			U	7	3a'	60. 669	68. 960	5. 002	24638											
			U	7	3a'	59. 676	69. 313	4. 992	24721											
			U	7	3a'	59. 922	69. 386	4. 842	24722											
			U	7	3a'	60. 046	69. 560	4. 657	24723											
			U	7	3a'	60. 204	69. 616	4. 657	24724											
			U	7	3a'	60. 215	69. 480	4. 715	26901											
			U	6	–	60. 035	70. 048	4. 750	27005											
			U	6	3a	59. 894	70. 016	4. 829	31589											
			U	6	3a	59. 832	70. 024	4. 775	31590											
			U	7	3a'	60. 576	69. 426	4. 773	31623											
			U	7	3a'	60. 541	68. 964	4. 751	31627											
			U	7	3a'	60. 448	68. 937	4. 795	31628											
			U	7	3a'	60. 300	69. 405	4. 766	31652											
			U	7	3a'	60. 325	69. 560	4. 768	31653											
			U	7	3a'	60. 041	69. 787	4. 728	31655											
			U	7	3a'	60. 098	69. 510	4. 823	31656											
			U	7	3a'	60. 151	69. 797	4. 713	31703											
			U	7	3a'	59. 848	69. 711	4. 750	31705											
			U	7	3a'	59. 918	68. 872	4. 700	31706											
			U	7	3a'	60. 017	69. 774	4. 713	31722											
			U	7	3a'	60. 017	69. 774	4. 713	31722											
66	7	壷	H	6	3	190. 238	77. 647	0. 785	103467	赤茶褐色	赤茶褐色	ヘラナデ後ナデ	ヘラナデ後ナデ	○	○					
	8	壷	B	5	3	245. 741	69. 658	0. 580	105950	赤茶褐色	赤茶褐色	幅広ハケメ後ナデ	幅広ハケメ後ナデ	○	○					

表47　古墳時代包含層出土遺物観察表(2)

挿図	番号	部種	区1	区2	層	X	Y	Z	取上番号	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
66	9	壺	U	7	3a'	60.235	68.915	4.683	26906	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
			U	7	3a'	60.046	68.884	4.650	26933											
			U	7	3a'	60.102	69.135	4.728	31649											
			U	7	2a'	60.538	69.177	4.751	31700											
	10	壺	K	4	-	-	-	-	-	黄茶褐色	黄茶褐色	ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ	○	○			○		
67	11	壺	S	9	2	75.804	47.434	2.926	115055	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
			S	9	2	76.512	50.742	2.961	115113											
			S	9	3a	76.466	50.776	2.951	115446											
			S	9	3a	-	-	-	-											
	12	壺	B	5	3	245.477	88.732	0.265	106970	暗茶褐色	暗黄茶褐色	幅広ハケメ後ナデ	幅広ハケメ後ナデ	○	○			○		
			B	5	3	245.500	88.934	0.195	106130											
	13	壺	B	5	3	-	-	-	-	黄茶褐色	黄茶褐色	幅広ハケメ後ナデ	幅広ハケメ後ナデ	○	○			○		
	14	壺	V	9	3b	47.485	40.416	2.389	129783	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
	15	壺	U	8	3a'	54.996	59.057	2.460	107130	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ	○	○			○		
			N	8	2	-	-	2.837	111218											
	16	壺	U	7	3a	54.006	58.642	4.810	66835	暗茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			U	8	3a'	54.996	59.057	2.460	107130											
	17	壺	W	9	2a'	32.183	49.887	3.520	124859	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			W	9	2	-	-	-	-											
68	18	壺	U	9	3a	50.580	43.279	3.090	125839	暗茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	19	壺	R	9	3a	85.392	48.485	2.513	120847	暗茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○	○	
	20	壺	R	6	3b	80.527	69.084	4.772	30589	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
	21	壺	C	6	3	234.408	72.773	1.590	103754	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			B	5	3	240.198	83.710	1.580	104087											
69	22	壺	U	8	3a'	54.996	59.057	2.460	107130	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	23	壺	U	7	3a'	61.571	69.194	2.542	24644	暗茶褐色	灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			U	7	3a	61.635	69.579	2.562	24647											
	24	壺	V	7	3a	54.786	59.798	4.955	66930	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
			V	7	3a	54.907	59.782	4.970	66955											
	25	壺	U	6	3a'	63.531	74.599	2.402	24854	赤茶褐色	茶褐色	ヘラナデ	ハケメ後ミガキ	○	○					
			U	6	3a'	63.052	74.171	1.790	27032											
	26	壺	S	9	3a	73.158	45.419	2.650	129001	暗灰茶褐色	暗黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	27	壺	R	9	3a'	83.853	47.851	2.880	117770	暗灰茶褐色	暗灰茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			R	9	3a'	82.925	48.637	2.875	117775											
	28	壺	B	4	3	246.259	93.816	0.510	100982	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			B	4	3	246.299	94.021	-0.520	106068											
			B	4	3	246.418	94.012	-0.580	106090											
	29	壺	R	7	3a	89.774	64.983	4.953	30742	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			R	7	3a	104.458	85.123	1.480	50412											
	30	壺	T	8	2	60.747	50.728	3.047	114575	暗茶褐色	灰黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			T	8	2	60.957	50.732	3.039	114576											
	31	壺	U	8	3a'	55.257	58.032	2.480	107126	赤茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	32	壺	S	9	3a	71.799	44.171	2.563	126116	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
			S	9	3b	72.251	43.899	2.433	126210											
	33	壺	R	9	3b	82.746	45.925	1.883	126450	黄茶褐色	褐褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	34	壺	V	9	2a'	46.328	48.093	3.970	125029	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
70	35	壺	U	7	3a'	60.126	68.932	4.680	26905	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
			U	7	3a'	59.435	67.686	4.783	31638											
			U	7	3a'	58.604	69.166	4.646	31699											
			U	7	3a'	63.162	68.666	2.267	31710											
	36	壺	R	7	3a	87.101	64.675	5.280	25605	黄茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
			R	7	3a	91.311	62.978	5.384	28017											
	37	壺	K	5	3a'	88.020	80.392	4.668	31208	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
	38	壺	Q	7	3a	96.982	60.229	2.805	106613	黄茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
	39	壺	P	8	3b	101.141	50.657	2.068	119548	黄茶褐色	灰黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○	○	
	40	壺	V	8	2a'	40.091	51.641	3.057	125240	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○	○	
	41	壺	Q	8	3a	96.330	56.495	2.890	118665	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	42	壺	S	8	3a	76.434	53.207	2.680	119307	黄茶褐色	黄褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	43	壺	-	-	-	-	-	-	-	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
	44	壺	W	8	2a'	44.529	54.173	3.230	125349	黄茶褐色	暗赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
			V	8	3a'	44.429	54.150	3.224	125350											
	45	壺	U	3	3a'	57.865	69.362	4.947	24699	赤黄茶褐色	赤黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			U	3	3a'	57.903	68.470	4.972	24701											
	46	壺	Q	9	2	99.301	41.315	1.462	128641	赤黄茶褐色	赤黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		接合
	47	壺	Q	9	2	-	-	-	-	赤黄茶褐色	赤黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
	48	壺	N	6	3a'	100.367	53.041	2.482	119420	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○	○				
	49	壺	Q	9	2a'	92.079	48.594	3.020	116739	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	50	壺B	Q	8	-	94.023	52.331	2.780	116951	黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ハケメ	○	○					
			Q	8	3a	93.272	50.790	2.915	116956											
			Q	8	-	94.056	52.242	2.420	118813											
	51	壺B	Q	8	3a	110.565	50.653	3.080	116770	黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ハケメ	○	○			○	○	
	52	壺B	H	3	3b	185.700	102.545	0.158	22042	赤茶褐色	灰褐色	ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	53	壺	S	9	3a	76.742	47.706	2.823	120853	赤黄茶褐色	赤黄茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○		○			
			S	9	3a	76.879	47.760	2.950	125813											
	54	壺	P	8	3a	103.663	56.896	2.980	116980	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ハケメ	ナデ	○	○					
	55	壺	Q	8	3a	-	-	-	-	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
71	56	壺	O	8	3a'	108.995	51.703	3.180	116579	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			O	8	3a	109.706	51.777	3.075	116747											
			O	8	3a'	110.415	50.898	3.085	116767											
			O	8	3a'	110.629	50.669	3.130	116773											
			O	8	3a'	110.260	50.419	3.190	116774											
			O	8	3a'	110.400	50.519	2.630	116775											
			O	8	3a'	110.669	50.619	3.245	116777											
			O	8	3a'	110.819	50.654	3.105	116778											
			O	8	3a'	110.889	51.168	3.170	116783											
			O	8	3a	109.492	51.909	2.825	118731											
			O	8	3a	110.238	50.450	2.740	118753											
			O	8	3a'	110.382	50.438	2.740	118822											
			O	8	3a'	-	-	-	-											
	57	壺	O	8	3a	111.132	55.667	2.545	119424	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	58	壺	U	7	2a'	57.191	68.761	5.012	24618	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
	59	壺	R	8	3a'	86.317	54.552	2.818	115521	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					

表48　古墳時代包含層出土遺物観察表(3)

挿図	番号	器種	区1	区2	層	X	Y	Z	取上番号	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
71	60	壺	P	8	3a	109.933	51.211	3.170	116600	黄茶褐色	白黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○			○		
			P	8	3a	109.859	51.131	3.155	116670											
			Q	8	3a	109.991	51.128	3.185	116763											
			P	8	3a	90.642	53.160	2.970	116873											
	61	壺	V	9	3a'	49.340	46.505	3.223	125112	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	62	壺	S	6	3a	74.925	75.288	2.627	25291	白黄茶褐色 マーブル状	白黄茶褐色 マーブル状	ナデ	ナデ	○	○					
			T	7	3a'	74.440	69.237	2.842	27763											
			S	7	3a'	75.626	68.622	2.434	30205											
			U	6	3a	–	–	–	–											
	63	壺	T	7	3a'	73.518	65.177	2.715	28038	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
			S	8	2	71.310	51.963	2.993	114866											
			S	8	2	73.018	51.329	3.080	114879											
			S	8	2	72.180	52.484	3.079	114893											
	64	壺	B	4	3	242.591	92.808	1.605	105316	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○	○				
			B	4	3	243.556	92.402	1.140	105440											
	65	壺	R	7	3a	91.211	62.978	5.384	28017	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
	66	壺	U	6	3b	58.069	70.999	4.250	27057	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○		○	○	○	
	67	壺	Q	6	3a'	116.452	71.598	5.110	41551	黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ナデ	ナデ	○	○			○		
	68	壺	P	9	3a'	62.735	55.794	1.416	116320	黄茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ナデ	ナデ	○	○	○				
	69	壺	Q	8	3a'	91.855	52.655	2.940	116713	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○	○				
	70	壺	Q	8	3a	93.993	52.188	2.935	116952	黄茶褐色	黄茶褐色	ヘラナデ	ヘラナデ	○	○					
			Q	8	3a'	91.218	54.132	2.810	116965											
	71	壺	O	9	2	119.743	42.348	2.539	129625	暗黄茶褐色	暗黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○					
	72	壺	P	8	3a	106.398	55.214	3.035	116757	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○		○	○		
	73	壺	R	7	3b	93.804	67.924	4.859	30482	茶褐色	茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
	74	壺	U	9	2a'	58.259	47.953	3.018	120699	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○			○		
			U	9	3a'	58.437	47.992	2.962	125729											
	75	壺	S	8	3a'	74.412	57.883	3.458	106171	黄茶褐色	灰黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○		○	○		
			S	8	3a'	74.626	58.488	3.386	106174											
			S	8	3a'	74.725	58.972	2.665	106638											
72	76	鉢	Y	8	3a	74.694	58.784	2.510	107037	赤茶褐色	赤黄茶褐色	ハケメ	ハケメ	○	○					
			V	8	3a	74.118	59.312	2.615	107041											
	77	鉢	T	8	3a'	62.040	53.945	3.249	119310	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	78	鉢	S	8	3a'	74.671	56.417	3.486	106156	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	79	鉢	U	8	3b	50.746	53.670	2.951	130396	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	80	鉢	B	5	3	245.348	89.763	0.975	105693	赤茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
	81	鉢	T	9	3a'	60.861	43.053	3.857	125727	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	82	鉢	–	–	3a	84.812	47.616	2.820	118601	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	83	鉢	U	9	2a'	59.056	47.392	2.989	120697	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	84	鉢	S	9	2	76.634	42.215	1.703	127740	赤茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	85	鉢	T	7	3a	69.538	61.097	2.627	24913	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
			T	7	3a	69.427	60.993	2.554	24914											
	86	鉢	V	9	4	43.407	55.135	2.173	130684	黒褐色	茶褐色	幅広ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	87	鉢	Q	8	3a'	92.021	52.266	2.910	116711	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
73	88	鉢	N	8	3a	119.943	52.042	2.942	119601	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	89	鉢	V	8	2a'	41.241	51.601	2.961	125260	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	90	鉢	W	4	1	–	–	–	–	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
	91	鉢	N	7	2	128.735	61.551	2.804	111169	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○		○	○		
	92	鉢	Q	8	3a'	99.487	53.220	2.980	116872	赤茶褐色	赤茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○	○		○		
	93	鉢	X	8	3a'	53.881	58.780	2.590	106983	暗茶褐色	暗茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○		○			
			X	8	3a'	54.136	58.746	2.610	106984											
	94	鉢	P	9	2	–	–	–	–	赤茶褐色	黒褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
	95	鉢	U	7	2a'	60.032	67.008	4.833	31636	黄茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	○	○			○		
	96	鉢	R	7	3a	89.075	69.160	5.346	27808	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	97	鉢	U	8	2a'	51.425	52.306	3.905	125437	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	98	高坏	T	8	3a	67.925	58.203	2.445	106858	黄茶褐色	灰茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○			○		
			W	8	3a'	66.579	58.454	2.457	106131											
	99	高坏	W	8	3a	67.925	58.203	2.445	106858	赤	暗褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					転用の痕跡アリ
			W	8	3a'	67.169	58.065	2.480	106860											
	100	高坏	W	5	2	139.984	81.106	8.950	70540	赤	赤	ミガキ	ミガキ	○	○					
	101	高坏	V	9	2a'	48.610	47.761	3.192	125086	白茶褐色	白茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
	102	高坏	O	9	2	118.363	42.834	2.529	129626	白茶褐色	白茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
	103	高坏	U	6	3a	58.371	70.936	4.650	25541	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ	○	○					
			U	6	3a'	58.345	70.972	4.852	28082											
			T	9	2a'	60.836	42.751	3.837	125726											
			S	8	3a	72.240	58.433	2.767	106149											
	104	鉢	S	8	3a	72.276	58.449	2.747	106150	赤茶褐色	赤茶褐色	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	○	○					
			S	8	3a	72.125	58.015	3.446	106151											
	105	鉢	S	9	2	76.640	46.773	2.884	115067	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ハケメ後ナデ	○	○					
	106	高坏	P	7	3a	100.983	60.208	0.450	105626	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ミガキ	○	○		○			
	107	高坏	X	8	3a'	54.579	59.313	2.630	106973	赤	赤茶褐色	ミガキ	ハケメ後ケズリ	○	○					
			X	8	3a'	53.826	58.213	2.655	106999											
	108	高坏	T	8	3a	68.759	54.473	2.789	119263	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	109	高坏	U	8	3a	81.058	56.309	2.970	106217	暗茶褐色	灰茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	110	高坏	U	9	3a'	51.995	46.745	4.077	125527	赤	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	111	高坏	T	8	3a	105.765	64.403	-0.965	110263	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	112	高坏	S	9	2	73.295	46.970	2.949	114932	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ケズリ後ミガキ	○	○					
	113	高坏	S	9	2	70.873	49.170	2.863	115170	赤	赤黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	114	高坏	V	9	3a'	46.024	43.092	3.885	124999	赤	暗黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
			V	9	2	43.093	41.757	2.998	125632											
	115	高坏	O	8	2a'	112.514	56.969	3.046	119880	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	116	高坏	T	9	2	66.223	46.634	2.977	114836	黄茶褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	117	壺	Q	8	3a	99.104	53.238	2.950	116910	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ハケメ後ミガキ	○	○					
	118	壺	U	9	2a'	56.850	46.042	3.053	120685	赤茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	119	壺	B	5	3	241.765	81.572	0.150	105980	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	120	壺	Y	9	2a'	20.158	47.827	2.802	127201	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	121	壺	U	7	3a'	58.219	69.264	4.967	24712	赤茶褐色	暗褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	122	壺	U	6	3a'	58.151	70.766	4.260	27008	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○		○			
			U	6	3b	58.126	70.917	4.255	27058											
	123	壺	V	9	3a'	44.248	41.734	4.070	125022	赤	赤茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
			V	9	2a'	45.004	48.983	3.903	125601											
	124	壺	U	7	3a'	57.997	69.119	5.012	24709	赤	灰褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	125	壺	V	9	3a'	48.329	48.313	3.227	125074	赤褐色	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					

表49　古墳時代包含層出土遺物観察表(4)

掲図	番号	器種	区1	区2	層	X	Y	Z	取上番号	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	石英	長石	角閃石	雲母	小礫	他	備考
74	126	坩	東		-	-139.197	51.202	2.911	119433	暗黄茶褐色	暗黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○			○		
	127	坩	T		3a'	69.527	67.840	2.780	25009	赤	黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	128	坩	T		2	63.223	46.541	3.003	114755	淡茶褐色	白茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	129	坩	Y		3a'	15.734	47.239	2.571	132363	淡茶褐色	白茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	130	坩	S		3a	76.434	53.207	2.680	119307	暗黄茶褐色	暗褐色	ミガキ	ナデ	○	○					
	131	坩	S		3a'	71.933	59.003	2.772	106144	赤茶褐色	黄茶褐色	ハケメ後ミガキ	ナデ	○	○					
			S		3a'	71.998	58.514	2.767	106147											
			S		3a'	71.691	58.368	2.772	106148											
			S		3a'	72.125	58.015	3.446	106151											
			S		3a	72.480	57.629	3.491	106152											
			S		3a'	72.805	57.743	3.466	106153											
			S		3a'	73.643	58.298	3.471	106177											
			S		3a'	73.501	58.391	3.446	106178											
			S		3a'	73.501	58.391	3.446	106178											
			S		3a'	73.410	58.523	2.765	106641											
	132	坩	S		3a	74.154	44.761	2.590	126129	赤	白黄茶褐色	ミガキ	ハケメ	○	○					
	133	坩	U		3a	53.788	57.127	2.381	114436	赤	白黄茶褐色	ミガキ	ナデ	○	○		○			
	134	鉢形	S		3a'	74.750	56.725	2.735	106643	白黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ後ミガキ	ミガキ	○	○		○			
	135	鉢形	U		3a'	88.537	59.787	2.935	106271	赤	赤	ミガキ	ミガキ	○	○					
	136	鉢形	V		3a'	46.890	44.485	3.239	125139	赤	赤	ミガキ	ミガキ	○	○					
	137	鉢形	S		2a'	74.118	59.312	2.615	107041	赤茶褐色	赤茶褐色	ミガキ	ミガキ	○	○					
			S		3a	74.043	59.365	2.530	107193											
	138	鉢形	X		2a'	53.846	58.282	2.590	106997	赤茶褐色	赤茶褐色	ケズリ	ナデ	○	○					
			U		3a	53.690	57.635	2.545	107102											
	139	甲鉢	U		2	56.445	46.757	2.984	114881	黄茶褐色	黄茶褐色	ケズリ	ナデ	○	○					
	140	甲鉢	C'-G		2	-	-	-	-	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	141	甲鉢	S		3a'	77.214	72.342	2.722	25263	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	142	甲鉢	B		2	-	-	-	-	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	143	甲鉢	R		3a	85.351	48.584	2.492	120846	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	144	甲鉢	V		3a'	47.183	46.860	4.070	125039	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	145	甲鉢	S		3a	71.784	63.958	-0.831	127396	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	146	甲鉢	R		3a	90.739	65.898	5.227	25863	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	147	甲鉢	X		2	-	-	-	-	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	148	甲鉢	R		3a'	82.546	48.528	2.800	117764	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○		○			
	149	甲鉢	P		3a	104.118	50.011	3.030	116524	暗褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	150	甲鉢	U		3a'	55.561	45.233	3.139	120681	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	151	甲鉢	S		2	75.186	48.126	2.937	114952	白黄茶褐色	白黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	152	甲鉢	U		3a'	50.317	45.335	0.105	124824	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	153	甲鉢	X		2b	80.407	50.279	2.729	119532	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
	154	甲鉢	X		-	237.800	91.531	1.775	102674	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ	○	○					
75	155	須恵器	-		-	-	-	-	-	灰褐色	灰褐色									
	156	須恵器	-		-	-	-	-	-	白灰褐色	灰茶褐色									
	157	須恵器	-		-	-	-	-	-	灰褐色	灰茶褐色									
	158	須恵器	-		-	-	-	-	-	灰褐色	灰褐色									
	159	須恵器	-		-	-	-	-	-	灰褐色	灰褐色									

表50　古墳時代包含層出土石製品観察表

掲図	番号	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
27	60	勾玉	2.5	0.9	0.5	2.74	頁岩	
	61	勾玉	0.9	0.4	0.4	0.37	緑泥片岩	

表51　古代包含層出土遺物観察表

挿図	No.	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
76	1	B-5	-	Ⅱ下	土師器	坏	口縁部～底部	-	-	-	明赤褐	明赤褐	ミガキ	ナデ	赤色土器か、7～8C か？
	2	B-5	-	Ⅱ下	土師器	坏	口縁部～底部	-	-	-	黒褐	浅黄	強い横ナデ	-	外面にスス付着
	3	B-6	106338	Ⅱ	土師器	坏	口縁部～底部	6.2	-	-	浅黄	浅黄	-	-	104029, 106739, 106740と接合
	4	S-7	25314	Ⅲα	土師器	坏	口縁部～底部	-	8	-	浅黄	浅黄	-	-	内面見込みにヘラ書きあり。
	5	H-5	105212	Ⅱ	土師器	坏	底部	-	6.2	-	にぶい黄橙	にぶい橙	-	-	-
	6	V-8	125346	Ⅱ	黒色土器A類	坏	底部	-	7	-	浅黄橙	浅黄	-	ミガキ	-
	7	A-4	-	Ⅱ	土師器	椀	口縁部～底部	16	-	7.8	橙	橙	-	-	-
	8	A-3	-	Ⅱ	土師器	椀	口縁部～底部	-	8.4	-	灰白	にぶい橙	-	-	系粘質入。土がマーブル状。
	9	B-4	-	Ⅱ	土師器	椀	口縁部～底部	-	7.2	-	にぶい黄橙	黄橙	-	-	-
	10	A-3	-	Ⅱ	土師器	椀	口縁部	20.4	-	-	浅黄橙	橙	ナデ	ナデ	-
	11	A-6	-	Ⅱ	土師器	坏	口縁部	14.2	-	-	黄灰	にぶい黄橙	-	-	-
	12	K-8	105374	Ⅱ	土師器	坏	口縁部	-	-	-	にぶい黄橙	浅黄	-	-	120375と接合
	13	Q-7	106325	Ⅲα	黒色土器A類	椀	口縁部	18	-	-	灰白	黒	-	-	使用痕で摩滅
	14	B-5	-	Ⅱ下	土師器	坏	口縁部	17.8	-	-	褐灰	橙	-	-	-
	15	B-6	106731	Ⅱ	黒色土器A類	椀	口縁部	-	-	-	にぶい黄橙	黒	強い横ナデ	ミガキ, ナデ	106758, 106734, 106733と接合
	16	V-9	125153	Ⅲα	土師器	坏	底部	-	7.6	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	-	-	-
	17	Q-7	106349	Ⅲα	黒色土器A類	椀	底部	-	8.2	-	にぶい黄橙	褐灰	-	ミガキ	-
	18	S-8	106496	Ⅱ	黒色土器A類	椀	底部	-	8.4	-	暗灰黄	黒	強い横ナデ	ミガキ	110項か
	19	A-6	-	Ⅱ	土師器	椀	底部	-	9	-	にぶい橙	にぶい黄橙	-	-	-
	20	C-7	-	V	土師器	椀	底部	-	8.2	-	黒褐色	橙	-	-	やや赤い
	21	P-9	-	Ⅱ	黒色土器B類	椀	底部	-	7.8	-	灰黄	黒	-	ミガキ	110項か
79	22	B-6	-	Ⅱ	赤色土器	椀	底部	-	-	-	浅黄橙	橙	-	-	内赤
	23	P-8	106492	Ⅱ	土師器	椀	底部	-	-	-	橙	橙	-	-	-
	24	P-8	116533	Ⅲα	黒色土器A類	椀	底部	-	-	-	浅黄橙	黒	-	ミガキ	-
	25	T-7	106331	Ⅲα	黒色土器A類	椀	底部	-	6	-	浅黄橙	黄灰	-	ミガキ	ヘラ切り痕
	26	T-6	31052	Ⅲα	土師器	椀？鉢？	口縁部	19.6	-	-	浅黄橙	浅黄橙	-	-	-
	27	T-7	25018	Ⅲα	土師器	壺(鉢)	口縁部～胴部	19.8	-	-	明黄褐	橙	ハケメ	ケズリ, ナデ	唐～中世(鉢)
	28	-	-	表	須恵器	壺	口縁部	48.4	-	-	にぶい赤褐	暗灰文	-	-	すすりケ
	29	G-8	105192	Ⅱ	須恵器	壺・壺	胴部	-	-	-	浅黄	にぶい橙	-	-	転用硯か
	30	A-4	-	Ⅱ	須恵器	壺・壺	胴部	-	-	-	灰褐, にぶい橙	にぶい橙	-	-	-
	31	N-5	60338	Ⅱ	須恵器	壺・壺	胴部(肩部)	-	-	-	灰	灰	-	-	-
	32	S-7	25312	Ⅲα	須恵器	壺・壺	胴部	-	-	-	黄灰	灰黄褐	-	-	-
	33	S-9	127404	Ⅱ	須恵器	壺・壺	胴部	-	-	-	灰	灰黄褐	-	-	-
	34	N-7	111236	Ⅱ	須恵器	壺・壺	胴部	-	-	-	にぶい褐	灰黄褐	格子目タタキ	同心円タタキ	焼きひずみ。111239と接合
	35	A-7	-	Ⅱ	須恵器	壺	胴部	-	-	-	灰オリーブ	灰黄	ハケメ	同心円当て具	-
	36	B-4	-	Ⅱ	須恵器	壺	胴部	-	-	-	灰	灰	格子目タタキ	同心円タタキ	-
	37	N-9	-	Ⅲb	須恵器	壺	胴部	-	-	-	暗灰黄	灰黄褐	平行タタキ	同心円当て具	-
	38	S-8	115421	Ⅲα	須恵器	壺	胴部	-	-	-	灰褐	黄灰	-	-	-
	39	S-7	25319	Ⅲα	須恵器	壺	胴部	-	-	-	灰	灰黄褐	下部は横方向のタタキ上部は放射状のタタキ	同心円当て具	25322と接合
	40	T-9	-	Ⅲα	須恵器	壺	胴部	-	-	-	浅黄	にぶい黄橙	格子目タタキ	ケズリ, ナデ	-
	41	V-9	114655	Ⅱ	須恵器	壺	胴部	-	-	-	-	暗灰黄	平行タタキ	同心円当て具	14684と接合
	42	E-4	-	Ⅱ a	須恵器	壺	胴部	-	-	-	灰	褐灰	-	-	-
	43	E-5	103959	Ⅱ	須恵器	壺	胴部	-	-	-	にぶい褐	灰黄	平行タタキ	同心円タタキ, ケズリ, ハケメ	-
	44	B-4	104237	Ⅱ	須恵器	壺		-	-	-	にぶい橙	にぶい黄橙	格子目タタキ	ケズリ, 同心円当て具	-
80	45	T-5	-	表	須恵器	壺	胴部	-	-	-	灰褐	にぶい黄橙	長格子目タタキ	ハケメ？	-
	46	S-7	127856	Ⅱ	須恵器	壺	胴部	-	-	-	灰白	にぶい褐	-	-	-
	47	N-7	111241	Ⅱ	須恵器	壺	胴部	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄	-	-	-
	48	C-6	104122	Ⅱ	須恵器	壺	胴部	-	-	-	暗灰黄	灰	平行タタキ	-	-
	49	A-4	105724	Ⅱ	須恵器	壺・壺	胴部	-	-	-	浅黄橙	浅黄橙	-	-	-
	50	D-9	129633	Ⅱ	須恵器	壺	胴部	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	見込みにヘラケズリ	-	-
	51	C-5	-	Ⅲ	灰釉陶器	小型高台付皿	底部	-	5.4	-	灰	灰	-	-	東海系。10C以降か
	52	IJ-4-5	-	表	須恵器	壺		-	-	-	灰	灰	格子目タタキ	車輪文タタキ	-
	53	J-4	-	表	須恵器	壺	胴部	-	-	-	灰	灰	格子目タタキ	車輪文タタキ	-
	54	B-4	105314	Ⅱ a	須恵器	壺・瓶		12.3	-	29	にぶい赤褐	にぶい赤褐	-	-	-
	55	B-5	-	-	須恵器	壺		-	-	-	灰	灰	-	-	中世の可能性あり
	56	D-8	116779	Ⅲα	須恵器	壺・瓶	底部	-	8.6	-	にぶい褐	灰オリーブ	-	-	-
	57	J-8	-	表	須恵器	壺・瓶	胴部	-	-	-	灰	灰	-	-	-
	58	N-7	115549	Ⅱ	須恵器	壺・瓶	底部	-	10.9	-	灰白	にぶい黄橙	ナデ, 上部はタタキ	-	-

表52　中・近世遺構出土遺物観察表(1)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
105	1	P2716	瓦質土器	擂鉢	16.6	-	-	-	浅黄橙	にぶい赤褐	-	-	-
	2	P1316	瓦質土器	擂鉢	-	14.4	-	-	にぶい黄橙	灰黄褐	-	-	-
	3	P1534	肥前(陶器)	皿	15.4	6.8	4.95	-	-	-	-	-	古野唐津、17C初、茶器
	4	P2437	土師器	皿	8	6.8	2.3	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	5	P2729	土師器	皿	-	5.9	-	-	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	6	P1100	陶器	大皿	-	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	-	-	唐津か
108	7	竪穴2	土師器	皿	8.2	-	-	-	灰白, にぶい橙	灰白, にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	8		東播磨系須恵器	片口鉢	-	-	-	-	灰, 黄灰	黄灰	-	-	神出・魚住でない
	9		青磁	碗	-	-	-	-	灰	黄灰	-	同心円当て具	古瀬時代
	4		須恵器	壺	6.2	-	-	-	オリーブ黄	黄灰	-	-	古墳時代
112	3	7-1号炉状遺構	瓦質土器	椀	-	-	-	-	灰白	-	-	-	小野分類E群
	4			擂鉢	-	-	-	-	灰	灰	ナデ	ハケメ	-
113	4	9号炉状遺構	青花	椀	12.2	-	-	-	-	-	-	-	小野分類E群
	5	11号炉状遺構	須恵器	皿	-	5.2	-	-	-	-	-	-	高台脚部
	6	10号炉状遺構	輸入陶器	壺か鉢	-	9.4	-	-	浅黄	橙	-	-	胎土は黄褐色
114	7	16-2号炉状遺構	白磁	瓶巻	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8	17号炉状遺構	土師器	坏	-	-	-	-	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	-
119	1	4号土坑墓	土師器	皿	-	9.4	-	-	にぶい黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	-
	2		土師器	小皿	8.2	4.4	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	-
123	3	12号土坑墓	青磁	椀	-	-	-	-	-	-	-	-	龍泉窯系・蓮弁文
	1	12	擂鉢	擂鉢	-	-	-	-	暗灰黄	暗灰黄	-	-	-
	2		東播磨系須恵器	鉢	-	-	-	-	黄灰	灰	-	-	「冬至」か？関産
	3	13	土師器	皿	-	7.2	-	-	浅黄橙	浅黄橙, にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り
126	1	大型土坑①	青花	大皿	-	-	-	-	-	-	-	-	景德鎮
	2		青磁	椀	-	4	-	-	-	-	-	-	「冬至」か？関産
	3		青花	皿	-	5.6	-	-	-	-	-	-	景德鎮
	4		白磁	椀	-	4.6	-	-	灰黄	灰白	-	-	-
	5		土師器	坏	-	9.4	-	-	にぶい黄橙	灰白	ナデ	ナデ	削り出し高台、筒状タイプ。8～9C初
	6		青花	大皿	-	-	-	-	-	-	-	-	清代製。16～17C

表53　中・近世遺構出土遺物観察表(2)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
	7		白磁	皿	9.8	-	-	-	-	-	-	-	-
	8		青磁	皿	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	9		青磁	皿	9.4	3.6	2	-	-	-	-	-	-
	10		青磁	椀	14	-	-	-	-	-	-	-	-
	11		青磁	皿	12	-	-	-	-	-	-	-	14C、蓮弁か
	12		青磁	皿	-	6.4	-	-	-	-	-	-	-
	13		輸入陶器	壺か	-	7.6	-	-	にぶい黄橙	にぶい橙	-	-	華南
	14		肥前（陶器）	皿	-	4.6	-	-	-	-	-	-	-
126	15	大型土坑①	瓦質土器	羽釜	-	-	-	20.6	炭	黄炭	-	-	-
	16		瓦質土器	羽釜	-	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	-	-	-
	17		瓦質土器	釜	-	-	-	-	炭黄褐	炭黄褐	-	-	貝目、堂平Ⅱ
	18		瓦質土器	片口	-	-	-	-	炭黄褐	黒褐	-	-	堂平Ⅱ
	19		瓦質土器	擂鉢	-	-	-	-	灰、灰白	灰	-	-	-
	20		瓦質土器	擂鉢	-	-	-	-	灰白	灰白	-	-	-
	21		東播磨系須恵器	片口鉢	23.2	-	-	-	灰	灰	-	-	-
	22		須恵器	壺・瓶	-	13.4	-	-	にぶい橙	炭黄	タタキ	-	平瓶か、古代
	23		輸入陶器	壺・鉢	24.6	-	-	-	浅黄、にぶい赤褐	浅黄	-	-	福建・広東
	26		磁器	擂鉢	24	-	-	-	-	-	-	-	堂平Ⅱ
	27		瓦質土器	擂鉢	12.2	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	-	-	-
	28		瓦質土器	擂鉢	29.7	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	-	-	-
	29		東播磨系須恵器	片口鉢	31	-	-	-	黒、灰	炭黄	-	-	神出・魚住でない、マーブル胎土
	30		輸入陶器	壺	-	9.4	-	-	淡黄	淡黄	-	-	福建・広東、13C頃（京東ーE類）
	31		染付	椀	-	4.6	-	-	-	-	-	-	-
	32		青花	椀	-	-	-	-	-	-	-	-	景德鎮
	33		瓦質土器	坏か？	10	-	-	-	黄灰	黄灰	-	-	-
	34	大型土坑②	瓦質土器	羽釜	-	-	-	-	灰白	黒	-	-	スス付着
	35		土師器	三足皿	-	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	-
	36		土師器	皿	8.4	-	2.1	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	37		青磁	壺	25	-	-	-	-	-	-	-	-
	38		青磁	椀	16	-	4.5	-	-	-	-	-	-
127	39		青磁	椀	-	-	-	-	-	-	-	-	雷文、内面文様
	40		青磁	皿	10.4	-	2	-	-	-	-	-	-
	41		青磁	坏	9	-	3.1	-	-	-	-	-	-
	42		青磁	皿	-	5.4	-	-	-	-	-	-	-
	43		青磁	鉢・盤	-	7.6	-	-	-	-	-	-	春照窯
	45		炉壁	-	-	-	-	-	橙	にぶい橙	-	-	-
	46		土師器	皿	12	7.6	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	47		土師器	皿	8.2	-	-	-	にぶい黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	48		土師器	皿	7.6	5.4	-	-	浅黄橙	灰白	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	49		土師器	皿	8	6.2	-	-	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	スス付着、糸切り、中世
	50		青磁	椀	-	6.4	-	-	-	-	-	-	-
	51		青花	皿	-	5	-	-	-	-	-	-	漳州窯
	52		青磁	皿	12	-	-	-	-	-	-	-	龍
	53		磁器	壺	-	24.6	-	-	にぶい黄橙	-	-	-	福建・広東
	55	大型土坑③	瓦質土器	擂鉢	-	12	-	-	明黄褐	にぶい黄橙	-	-	-
	56		瓦質土器	擂鉢	-	-	-	-	炭黄	炭黄	-	-	-
	57		瓦質土器	擂鉢	-	-	-	-	灰	灰	-	-	-
	58		須恵器	壺	-	-	-	-	黄灰	黄灰	タタキ	布巻小石	-
	59		備前	擂鉢	34.4	-	-	-	橙	橙	-	-	-
	60		東播磨系須恵器	片口鉢	-	-	-	-	黒、灰	灰	-	-	C3・D類（兵庫津分類）　神出・魚住でない、14C前半。マーブル胎土
	61		フイゴ	羽口	-	-	-	-	灰白、炭黄	にぶい黄橙	-	-	鉄滓付着
	62		フイゴ	羽口	-	-	-	-	にぶい黄橙、炭黄	橙	-	-	鉄滓付着
	63		フイゴ	羽口	-	-	-	-	橙、暗灰	橙	-	-	鉄滓付着
	64		青磁	壺	25.6	-	-	-	-	-	-	-	内面型押し、鮫薄　炭オリーブ色
128	65		磁器	鉢・盤	-	-	-	-	にぶい暗	炭オリーブ、炭	-	-	口唇部に砂目
	69		土師器	坏	-	-	-	-	にぶい黄橙	炭黄	-	-	-
	70		磁器	壺	10.8	9	-	-	-	-	-	-	ツマミあり
	71		磁器	椀	-	4	-	-	-	-	-	-	龍門焼か、16C以降
	72		肥前（陶器）	椀	12	3.8	4	-	-	-	-	-	高台以外全面施釉。
	73		青花	椀？皿？	-	5.4	-	-	-	-	-	-	漳州窯
	74	大型土坑④	肥前（陶器）	鉢	15.6	-	-	-	-	-	-	-	-
	75		肥前（陶器）	鉢か椀	-	6	-	-	-	-	-	-	-
	76		白磁	坏	11	6.6	-	-	-	-	-	-	-
	77		青花	皿	10.4	5.2	2.7	-	-	-	-	-	漳州窯、16後～17初
	78		青磁	椀	13.8	-	-	-	-	-	-	-	-
	79		輸入陶器	壺？鉢？	-	6.4	-	-	にぶい橙	暗灰黄、にぶい橙	-	-	福建・広東
	80		磁器	壺	3.2	-	-	-	-	-	-	-	18C以降
	81		磁器	壺・盤	-	13.8	-	-	炭褐	灰白	-	-	堂平Ⅱ、底部貝目
	82		肥前系	天目	11	-	5.8	-	にぶい褐	黒褐	-	-	17C初、徳成不良
	83		磁器	徳利	6.8	-	-	-	灰オリーブ	灰	-	-	堂平Ⅱ類
	84		磁器	徳利	-	-	-	12	オリーブ灰	灰	-	-	堂平Ⅱ類
	85		磁器	徳利	-	8.6	-	-	灰オリーブ	灰オリーブ	-	-	堂平Ⅱ類
	86		瓦質土器	羽釜	13.6	-	-	-	黄灰	暗灰、黄灰	-	指ナデ	-
130	87		瓦質土器	羽釜	15	-	-	-	灰	灰	-	-	-
	88		瓦質土器	羽釜	-	-	-	22	灰	黒	-	-	イブシ、スス付着、スタンプ
	89		瓦質土器	羽釜	-	-	-	28	暗	にぶい黄橙	-	指押さえ	-
	90		土師器	ホウロク	-	-	3.4	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ・ユビオサエ	ナデ	フライパン型
	91		中世須恵器	壺	-	-	-	40	灰	灰	格子目タタキ	ナデ	俵万支か
	92	大型土坑⑤	中世須恵器	壺	-	27.4	-	-	灰	灰	格子目タタキ	ナデ	俵万支か
	93		備前	擂鉢	26.2	-	-	-	灰赤、明赤褐	明赤褐	-	-	-
	94		備前	徳利	30	-	-	-	灰白、明黄褐	橙	-	-	-
	95		須恵器	壺	14.2	-	-	-	にぶい橙	暗灰黄	平行タタキ	同心円当て具	中品か、古代
	96		土師器	皿	15.6	10.6	-	-	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	97		土師器	皿	13.6	7.4	2.6	-	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	98		須恵器	甕・壺	-	10.6	-	-	灰白	灰黄	平行タタキ	ナデ	-
	99		肥前（染付）	椀	11.6	4.2	5.7	-	-	-	-	-	伊万里
131	100		肥前（染付）	椀	11.7	-	-	-	-	-	-	-	伊万里
	101		肥前（染付）	椀	12	4.6	6	-	-	-	-	-	-
	102		白磁小壺蓋		-	7.4	-	-	灰	灰	-	-	南宋後半～元
	103		青花	皿	-	4.2	-	-	-	-	-	-	漳州窯
	104		肥前（陶器）	鉢	16	-	-	-	-	-	-	-	-
	105		フイゴ	羽口	-	-	-	5.8	灰白	にぶい黄橙	-	-	鉄滓付着

表54　中・近世遺構出土遺物観察表（3）

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
132	109	大型土坑⑥	青磁	皿	－	5	－	－	－	－	－	－	龍観泉・竜花窯。15後半
	110		青磁	椀	13.2	－	－	－	－	－	－	－	蓮弁文
	111		青磁	鉢	－	－	－	－	－	－	－	－	同安窯
	112		白磁	小壺の蓋	5.2	8	－	－	－	－	－	－	上部のみ施釉
	113		白磁	小皿	－	3.8	－	－	－	－	－	－	森田-D類
	114		青磁	碗花皿	12	8.2	－	－	－	－	－	－	施釉
	115		輸入陶器	肥手付き壺	－	－	－	－	黒	灰	－	－	華南か（タイの可能性もあり）
	116		瓦質土器	鍋	44.6	－	－	－	オリーブ黄	灰オリーブ	－	－	常口縁仕様
	117		輸入陶器	壺	－	4.6	－	－	褐灰	褐灰	－	－	福建・広東
133	118	大型土坑⑥	瓦質土器	擂鉢	大雲	－	－	－	暗赤灰に赤褐	にぶい赤褐	－	－	119と同一か
	119		瓦質土器	擂鉢	大雲	－	33	－	暗赤灰に赤褐	にぶい赤褐	－	－	118と同一か
135	120	大型土坑⑦	青磁	椀	14	－	－	－	－	－	－	－	無文
	121		青磁	椀	－	4.6	－	－	－	－	－	－	施釉
	122		土師器	皿	11.4	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	スス付着。糸切り、中世
	123		土師器	皿	10.6	8.4	2.6	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	124		土師器	皿	12.4	9	1.2	－	にぶい黄	にぶい橙	ナデ	ナデ	近世・清さん窯か
	125		青磁	椀	－	6	－	－	－	－	－	－	見込みにスタンプ
	126		肥前（染付）	皿	－	5.6	－	－	－	－	－	－	－
	127		土師器	坏	－	5.6	－	－	浅黄橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	ヘラ切り。古代
	128		擂鉢	擂鉢	24.6	－	－	－	灰、褐灰黄	褐灰黄	－	－	転土の縁ぎ目あり
	129		瓦質土器	擂鉢	32.2	14.6	11.6	－	灰、灰黄	灰黄	－	－	－
	130		中世須恵器	壺	－	－	－	－	灰	灰	格子目タタキ	ナデ・ケズリ	神刀文か
	131		擂鉢	壺	－	－	－	－	灰褐	褐灰	－	－	－
	132		瓦質土器	擂鉢	－	13.4	－	－	黄灰	灰	－	－	－
	133		中世須恵器	壺か？	－	－	－	－	灰	灰	－	－	ジグザグタタキ
139	1	土坑A-1	肥前（染付）	椀	14.2	－	－	－	－	－	－	－	－
	2		肥前	皿	14	3.8	－	－	－	－	－	－	－
	3		青磁	椀	－	4.6	－	－	－	－	－	－	龍泉窯系
	4		青花	椀	11.1	4.65	3	－	－	－	回転ケズリ	ロクロナデ	清朝製
	5		肥前（染付）	椀	－	5.1	－	－	－	－	－	－	－
	6		輸入陶器	四耳壺か	－	13.2	－	－	赤灰、橙	赤灰、赤褐	－	－	広東、鉄釉。鉄清さと接合。12C（C期）か
	7		肥前		－	4.2	－	－	－	－	－	－	－
	8	土坑A-2	瀬戸	皿	10	7	1.4	－	－	－	－	－	－
	9		青花	椀	－	4.1	－	－	－	－	－	－	清朝製。「福」
	10		輸入陶器	天目	12.1	3.85	5.9	－	－	－	－	－	－
	11	土坑A-3	肥前	皿	－	4.8	－	－	－	－	－	－	蛇の目釉剥ぎ
	12		肥前	皿	－	5	3.05	－	－	－	－	－	砂目。陶器清越窯。1600～1640年代
	13		肥前	皿	－	4.7	3.15	－	－	－	－	－	口唇・蛇の目釉剥ぎ
	14		肥前	椀	－	4.6	－	－	－	－	－	－	非結
	15		青磁	皿	－	6	－	－	－	－	－	－	基弥窯
	16		青磁	皿	－	7	－	－	－	－	－	－	－
	17		白磁	椀	14	－	－	－	－	－	－	－	－
	18		青磁	椀	17.2	－	－	－	－	－	－	－	口縁に凹み。蓮弁文
	19		青花	皿	－	6.3	－	－	－	－	－	－	景德鎮
	20		土師器	皿	9.2	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	21		肥前	小椀	－	3	－	－	－	－	－	－	1690～1730年代。宮崎年製
	22		青花	椀	－	4.7	－	－	－	－	－	－	清朝製
	23		肥前（染付）	椀	－	4.4	－	－	－	－	－	－	－
141	24	土坑A-4	肥前（染付）	椀	14.4	－	－	－	－	－	－	－	－
	25	土坑B	肥前（染付）	皿	－	4.8	－	－	－	－	－	－	畳付以外施釉。透明釉
	26		肥前（染付）	椀	－	5	－	－	－	－	－	－	波佐見。全面施釉。1630～1650年か
	27		陶器	片口か？	13.6	－	－	－	にぶい赤褐	にぶい赤褐	－	－	常平と類似。土が粗いので朝鮮の可能性もあり
	28		肥前（陶器）	小椀	11	－	－	－	－	－	－	－	－
	29		肥前（陶器）	椀	10.8	－	－	－	－	－	－	－	外面がニ次焼成で赤化
	30		青花	皿	－	7.7	－	－	－	－	－	－	景德鎮（1620年）
	31		肥前（染付）	大皿	－	9.4	－	－	－	－	－	－	畳付以外施釉。18C・伊万里
	32		肥前（染付）	大皿	－	12.2	－	－	－	－	－	－	施釉。透明釉
	33		青花	皿	16	9.2	3.2	－	－	－	－	－	景德鎮。畳付以外施釉。透明釉。16C中頃
	34		瓦質土器	擂鉢	－	－	－	－	灰オリーブ	灰	すりめ	－	－
142	35	土坑31	青磁	椀	16.35	5.2	6.5	－	－	－	－	－	宋・龍泉窯。13C 3/4。徳電泉見込圏線
	36	土坑99	肥前（染付）	椀	13	－	－	－	－	－	－	－	見込圏線
	37	土坑112	白磁	皿か椀	11	－	－	－	－	－	－	－	－
	38	土坑56	青花	椀	－	5.6	－	－	－	－	－	－	景德鎮。「長命富貴」。16中頃
	39	土坑122	白磁	皿	－	－	－	－	－	－	－	－	白磁梅沢類
	40	土坑99	白磁	皿	－	－	－	－	－	－	－	－	全面施釉
	41	土坑53	土師器	皿	－	8.4	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	42	土坑35	土師器	皿	－	7.2	－	－	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	43	土坑37	土師器	皿	－	7.6	－	－	にぶい赤褐、褐灰	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	44	土坑37	土師器	皿	9.2	8.8	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	－
	45	P158	輸入陶器	鉢か？	－	－	－	－	灰オリーブ	灰オリーブ、灰褐	－	－	福建・広東
151	46	中世ピット内	肥前（陶器）	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	非結
	1	ピット内	青磁	椀	－	5.8	－	－	－	－	－	－	－
	2		肥前（陶器）	鉢	－	－	－	19	－	－	－	－	内径18cm
	3		肥前（陶器）	椀	－	4.9	－	－	－	－	－	－	－
152	6	ピット	土師器	坏・皿	13	8.5	3.5	－	橙	橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	7	H4-46	土師器	小皿	9.4	7.2	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	－
	8	M9-74	土師器	小皿	9.2	6.2	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	ヘラ切り、古代
	9	K9-43	土師器	小皿	8	6.2	1.9	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	－
	10	K9-14	土師器	小皿	－	6.5	1.9	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り、中世
	11	Q9-52	黒色土器A類	椀	－	6.6	－	－	にぶい黄橙	褐灰	ナデ	ミガキ	古代
	12	M9-43	肥前	皿	13.9	－	－	－	－	－	－	－	全面施釉
	13	J9-19	瓦質土器	擂鉢	－	11.1	－	－	にぶい黄	にぶい黄	－	－	－
	14	M9-11	瓦質土器	羽釜	－	－	－	24.6	にぶい黄橙	にぶい橙	－	－	－
	15	K9-53	青磁	椀	15.6	－	－	－	－	－	－	－	蓮弁文
	16	K9-110	青磁	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	13C前半・龍文
	17	K9-75	青磁・信楽系	椀	12.6	－	－	－	－	－	－	－	線蓮弁
	18	M9-43	肥前（陶器）	皿	－	4	－	－	－	－	－	－	非結
	19	D3-2	肥前	椀	10	－	－	－	－	－	－	－	初期伊万里
	20	Q9-25	白磁	椀	15.6	－	－	－	－	－	－	－	12～13C。129652と接合。華南地方。白磁梅沢類

表55　中・近世遺構出土遺物観察表(4)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
152	21	Q9-25	白磁	椀	17	-	-	-	-	-	-	-	白磁椀Ⅳ類
	22	H4-37	輸入陶器	壺	-	-	-	-	-	-	-	-	晋江磁_窯
	23	K9-14	白磁	皿	-	4	-	-	-	-	-	-	新高台。森田-D類・15C
	24	B6-6	青磁	椀	-	9.6	-	-	-	-	-	-	14C前半。内面文様
	25	K9-15	青磁	-	15.2	-	-	-	-	-	-	-	-
153	1		土師器	坏	15.4	6.4	-	-	浅黄橙	橙	ナデ	ナデ	内面赤色顔料。7~8C か
	2		土師器	坏	-	8.6	-	-	灰白	灰白	ナデ	ナデ	-
	3		黒色土器A類	椀	-	5.4	-	-	灰黄	黒褐	ナデ	ミガキ	-
	4		土師器	椀	-	8.4	-	-	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	-
	5		土師器	椀	-	10.2	-	-	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	-
	6		土師器	皿	-	8.2	-	-	にぶい黄橙	橙	ナデ	ナデ	-
	7		土師器	皿	10.6	-	-	-	灰白	灰黄	ナデ	ナデ	-
	8		土師器	皿	8	6	-	-	にぶい黄橙	灰黄褐	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	9		土師器	皿	11.4	7	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	10		土師器	皿	-	7	-	-	黒褐	灰褐	ナデ	ナデ	金属が溶けたあと付着。糸切り
	11		土師器	皿	-	8	-	-	暗灰黄	暗灰黄	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	12		土師器	皿	-	5.8	-	-	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	13		土師器	皿	-	5.4	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	14		土師器	皿	16	10.2	-	-	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	15		土師器	鍋か	-	7.4	-	-	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	中世か近世。糸切り
	16		土師器	坏	-	14	-	-	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	-
	17		土師器	坏・鉢	-	13.4	-	-	にぶい黄橙	灰黄褐	ナデ	ナデ	-
	18		土師器	壺	15	17.3	-	-	明黄褐	にぶい橙	ナデ	ナデ	近世
	19		土師器	壺	-	-	-	8.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	近世
	20		瓦質土器	脚付鉢	-	11.8	-	-	黄灰	にぶい黄橙	-	-	火舎か
	21		土師器	脚付皿	12	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	-
154	22		瓦質土器	羽釜	14	-	-	-	灰	灰_灰黄褐	ナデ	ケズリ	33ｃｍ
	23		瓦質土器	羽釜	-	-	-	25	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ	ケズリ	-
	24		瓦質土器	羽釜	-	-	-	27.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ・指痕	ケズリ	-
	25		瓦質土器	羽釜	-	-	-	23.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ケズリ	-
	26		土師器	坏	22.4	17.6	-	-	灰黄	浅黄	ナデ	ナデ	糸切り
	27		土師器	こしき か	-	-	-	-	にぶい橙	灰黄	ナデ	ナデ	-
	28		土師器	ホウロク	-	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	-
	29		土師器	ホウロク	-	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	-
	30		土師器	ホウロク	-	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	丸天付属
155	31	塩壺	壺	壺	24.6	-	-	-	褐	にぶい赤褐	-	-	堂平Ⅰ b-朝鮮
	32	塩壺	壺	壺	26	-	-	-	褐	にぶい赤褐	-	-	堂平Ⅰ b-朝鮮
	33	塩壺	壺	壺	43.8	-	-	-	暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	-	-	堂平Ⅰ b-Ⅱ期
	34	塩壺	壺	壺	35	-	-	-	暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	-	-	堂平Ⅰ b-Ⅱ期
	35	塩壺	壺	壺	38	-	-	-	暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	-	-	堂平Ⅰ b-Ⅱ期
	36	塩壺	壺	壺	30	-	-	-	暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	-	-	堂平Ⅰ b-Ⅱ期
	37	塩壺	壺	壺	37	-	-	-	暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	-	-	堂平Ⅰ b-Ⅱ期
	38	塩壺	壺	壺	34	-	-	-	暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	-	-	堂平Ⅰ b-Ⅱ期
	39	塩壺	壺	壺	35	-	-	-	暗灰黄	灰	-	-	19C
	40	塩壺	壺	壺	35	-	-	-	黒褐	灰オリーブ	-	-	19C
156	41	塩壺	壺	壺	31	-	-	-	灰褐	黄灰	-	-	19C
	42	塩壺	壺	壺	34	-	-	-	-	-	-	-	19C
	43	塩壺	壺	壺	21	-	-	-	-	-	-	-	19C以降
	44	塩壺	壺	壺	35	-	-	-	-	-	-	-	19C以降
	45	塩壺	壺	壺	43	-	-	-	灰	灰褐	-	-	19C
	46	塩壺	壺	壺	27.6	-	-	-	-	-	-	-	19C
	47	塩壺	壺	壺	25	-	-	-	-	-	-	-	19C
	48	塩壺	壺	壺	28.6	-	-	-	-	-	-	-	19C
	49	塩壺	壺・壺	-	18.5	-	-	-	-	-	-	-	堂平Ⅱ
	50	塩壺	壺・壺	-	18.4	-	-	-	褐灰	-	-	-	堂平Ⅱ
	51	塩壺	壺・壺	-	14.2	-	-	-	-	-	-	-	堂平Ⅱ
	52	塩壺	壺・壺	-	9.2	-	-	-	-	-	-	-	堂平Ⅱ
	53	塩壺	壺・壺	-	10	-	-	-	暗灰黄	暗灰黄	-	-	堂平Ⅱ
	54	塩壺	壺・壺	-	23	-	-	-	-	-	-	-	19C
	55	塩壺	壺・壺	-	17.4	-	-	-	灰黄褐	灰黄	-	-	堂平Ⅱ
	56	塩壺	壺・壺	-	22.6	-	-	-	灰	灰	-	-	堂平Ⅱ
	57	塩壺	壺・壺	-	18.8	-	-	-	灰褐	灰黄褐	-	-	堂平Ⅱ
	58	塩壺	壺・壺	-	21	-	-	-	黄灰	暗灰黄	-	-	19C以降
	59	塩壺	壺・壺	-	13	-	-	-	にぶい黄	灰黄	-	-	堂平Ⅱ
	60	塩壺	壺・壺	-	20	-	-	-	オリーブ黒_浅黄	にぶい褐	-	-	19C以降
	61	塩壺	壺	-	-	-	25.8	-	灰オリーブ	灰オリーブ	-	-	堂平Ⅱ
	62	塩壺	壺	16	-	-	-	-	煤り返し	煤り返し	-	-	堂平Ⅱ
157	63	塩壺	壺	13	-	-	-	-	-	-	-	-	堂平Ⅱ
	64	塩壺	壺	-	-	-	19	-	にぶい黄	灰黄	-	-	堂平Ⅰa・朝鮮か？
	65	塩壺	壺	19	-	-	-	-	灰黄褐	煤り返し	-	-	堂平Ⅱ
	66	塩壺	壺	16	-	-	-	-	灰	灰オリーブ	-	-	堂平Ⅱ
	67	塩壺	壺	9.6	8.4	15	-	-	灰オリーブ	灰	-	-	堂平Ⅱ
	68	塩壺	壺	-	17	-	-	-	灰	灰黄褐	-	-	堂平Ⅱ
	69	塩壺	水注	-	-	-	-	-	灰	灰	-	-	堂平Ⅰ－Ⅱ
	70	塩壺	片口	25	16	11.2	-	-	灰褐	黄灰	-	-	堂平Ⅱ
158	71	塩壺	片口	24	-	-	-	-	灰	灰	-	-	堂平Ⅰab
	72	塩壺	片口	21	-	-	-	-	-	-	-	-	堂平Ⅰab
	73	塩壺	片口	22	-	-	-	-	暗灰黄	黄灰	-	-	堂平Ⅱ
	74	塩壺	片口	22	-	-	-	-	灰オリーブ	黄灰	-	-	堂平Ⅱ
	75	塩壺	蓋	40	-	-	-	-	灰黄褐	-	-	-	堂平Ⅱ
	76	塩壺	蓋	34	24.4	7	-	-	灰	黄灰	-	-	堂平Ⅱ
	77	塩壺	蓋	20	17	3.4	-	-	灰褐	褐灰	-	-	堂平Ⅱ
	78	塩壺	蓋	21	11.4	4.6	-	-	暗灰黄	暗灰黄	-	-	堂平Ⅱ
	79	塩壺	徳利	6	-	-	-	-	オリーブ黒	オリーブ黒	-	-	堂平Ⅱ
	80	塩壺	徳利	-	-	-	13	-	灰白	灰白	-	-	堂平Ⅱ
	81	塩壺	徳利	-	-	-	15	-	灰オリーブ	灰褐	-	-	堂平Ⅱ
	82	塩壺	サヤ鉢	16	16	-	-	-	黒褐	にぶい黒褐	-	-	堂平Ⅱ
	83	塩壺	瓶	-	5.4	-	-	-	褐	暗褐	-	-	19C以降
	84	塩壺	瓶	9	-	-	-	-	-	-	-	-	19C以降
159	85	塩壺	擂鉢	31.4	-	-	-	-	にぶい褐	褐灰	-	-	堂平Ⅱ
	86	塩壺	擂鉢	30	-	-	-	-	にぶい褐	褐灰	-	-	堂平Ⅱ
	87	塩壺	擂鉢	22.8	9	8	-	-	黒褐	黒褐	-	-	堂平Ⅱ
	88	塩壺	擂鉢	38	-	-	-	-	にぶい褐_灰黄	灰黄	-	-	堂平Ⅱ

表56　中・近世遺構出土遺物観察表(5)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	備考
159	89	大溝	瓦塔	瓦塔	37.4	－	－	－	－	－	－	－	堂平Ⅱ
	90		瓦塔	瓦塔	－	14	－	－	にぶい赤褐	にぶい赤褐	－	－	堂平Ⅱ
	91		瓦塔	瓦塔	－	15	－	－	－	－	－	－	堂平Ⅱ
	92		瓦塔	瓦塔	－	－	－	－	－	－	－	－	19Cは降
	93		須恵器	壺	17	－	－	－	にぶい黄褐	にぶい黄褐	－	－	古代
	94		須恵器	壺	－	－	－	18	褐灰	にぶい黄橙	－	－	古代
	95		須恵器	壺	18.2	－	－	－	黒褐	灰黄褐	－	－	古代
	96		須恵器	壺	15.6	－	－	－	にぶい褐	にぶい黄橙	－	－	古代
	97		須恵器	壺	－	－	－	11	灰黄褐	灰黄褐	－	－	古代
	98		須恵器	壺	－	－	－	－	にぶい赤褐	褐	－	－	古代
	99		須恵器	壺	－	－	－	－	にぶい赤褐	灰	－	－	古代
	100		須恵器	甕・壺	－	－	－	－	褐灰, 黄灰	灰黄	－	－	古代
	101		須恵器	壺	－	－	－	－	にぶい褐	にぶい褐	－	－	古代
	102		須恵器	甕	－	－	－	－	灰	黄灰	－	－	古代
	103		須恵器	壺・壺	－	－	－	－	褐灰	褐灰	－	－	古代
	104		須恵器	甕・壺	－	－	－	－	灰	灰	－	－	古代
	105		須恵器	甕・壺	－	－	－	－	褐灰	褐灰	ヘラケズリ, ナデ	同心円状の当て具痕	古墳時代の可能性あり
	106		須恵器	壺	－	6	－	－	にぶい赤褐	灰	－	－	古代・木須か
	107		須恵器	壺	－	5.8	－	－	灰	灰オリーブ	－	－	古代・木須か
	108		灰釉陶器	壺	6.2	－	－	－	－	－	－	－	美濃系, 古代
	109		須恵器	壺	－	－	－	－	にぶい褐	にぶい褐	－	－	古代
	110		須恵器	皿	5.6	－	－	－	灰	灰	－	－	古代
	111		須恵器	皿	11	－	－	－	灰	灰	－	－	古代
	112		鉄釉陶器	末広の碗手か	－	－	－	－	灰白	－	－	－	高麗か京系産, 10C頃
	113		中世須恵器	甕	42	－	－	－	灰黄	黄灰	ハケメ	ハケメ	中世
	114		中世須恵器	甕	17.8	－	－	－	灰白	黄灰	格子目タタキ	ナデ	中世・禅万丈か
	115		中世須恵器	甕	31.8	－	－	－	灰	灰	格子目タタキ	ナデ	中世・禅万丈か
	116		中世須恵器	甕	－	－	－	14	灰	灰	格子状タタキ, ナデ	平行タタキ後ナデ	中世・禅万丈か
	117		中世須恵器	甕	33	－	－	－	灰	灰	矢羽状タタキ	－	瀬戸と陸奥, 中世
	118		中世須恵器	甕	18.8	－	－	－	灰	灰	格子目タタキ	－	中世
	119		中世須恵器	甕	－	－	－	－	黒	灰	格子状タタキ	－	中世
	120		東播磨系須恵器	甕	－	－	－	－	にぶい褐	にぶい橙	格子目タタキ	ナデ	神出・魚住でない, 14C中
	121		東播磨系須恵器	甕	－	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	格子状タタキ, 櫛状切の矢印	マメツ, ハケメ	神出・魚住でない, 14C中
	122		中世須恵器	甕	－	－	－	－	灰	黄灰	格子目タタキ	－	中世・禅万丈か
	123		須恵器	甕か壺	－	－	－	－	黄灰	灰白	底部近くに格子目タタキ	ナデ	中世
161	124		須恵器	甕	－	35.8	－	－	灰	灰	正格子状タタキ	ハケメ	鎌倉と陸奥, 中世
	125		須恵器	甕	－	25.8	－	－	灰	灰	－	－	瀬戸と陸奥
	126		東播磨系須恵器	片口鉢	27.2	－	－	－	灰	灰	－	－	神出・魚住でない, 14C中
	127		東播磨系須恵器	片口鉢	－	11.5	－	－	灰	灰	－	－	神出・魚住でない, 14C中
	128		東播磨系須恵器	片口鉢	－	8.8	－	－	灰	灰	－	－	神出・魚住でない, 14C中
	129		瓦質土器	瓶類	25.4	－	－	－	黄灰	灰	－	－	－
	130		瓦質土器	瓶類	－	11.2	－	－	灰黄	灰黄褐	－	－	－
	131		瓦質土器	瓶類	12	－	－	－	灰白	灰	－	－	－
	132		瓦質土器	瓶類	33	17	13.4	－	灰	灰	－	－	－
	133		瓦質土器	瓶類	－	11	－	－	灰黄	灰黄	－	－	－
	134		瓦質土器	瓶類	29.6	13.7	－	－	灰黄	にぶい黄橙	－	－	－
162	135		瓦質土器	瓶類	15.4	－	－	－	灰	灰	－	－	－
	136		瓦質土器	瓶類	30	13.8	11.6	－	灰白	灰白	－	－	－
	137		瓦質土器	瓶類	－	11.6	－	－	灰白	灰白	－	－	－
	138		瓦質土器	瓶類	29.8	13.2	12	－	浅黄	浅黄	－	－	15C中頃か
	139		備前	瓶類	23	14	11.3	－	にぶい橙	にぶい橙, 褐灰	－	－	15C中頃か
	140		備前	瓶類	24.4	－	－	－	褐灰, にぶい黄橙	褐灰	－	－	15C中頃か
	141		備前	瓶類	29	14.6	10	－	にぶい赤褐, 暗灰黄	灰	－	－	瀬戸と陸奥
163	142		備前	瓶類	23	14	11.3	－	褐灰	褐灰	－	－	15C中頃か
	143		備前	瓶類	26.2	－	－	－	灰黄褐, 暗灰黄	暗灰黄	－	－	15C中頃か
	144		備前	瓶類	26.8	－	－	－	褐灰, にぶい橙	褐灰	－	－	15C中頃か
	145		東播磨系須恵器	片口鉢	－	－	－	－	灰	灰	－	－	被熱
	146		東播磨系須恵器	片口鉢	－	－	－	－	灰	灰白	－	－	被熱
	147		東播磨系須恵器	片口鉢	－	－	－	－	灰褐	－	－	－	鉢脚付属, 被熱か
	148		瓦質土器	火鉢	45	－	－	－	灰白	灰白	－	－	14Bと同一か
	149		瓦質土器	火鉢	－	－	－	30	にぶい黄橙	にぶい黄橙	－	－	14Bと同一か
	150		瓦質土器	火鉢	40	－	－	－	にぶい橙	にぶい橙	－	－	－
	151		瓦質土器	火鉢	37.6	－	－	－	褐灰	褐灰	－	－	－
	152		瓦質土器	火鉢	－	31.6	－	－	灰, にぶい黄褐	灰	種ナデ	－	大溝, SD-1他接合
	153		瓦質土器	火鉢	－	－	－	－	にぶい褐	にぶい褐	強いナデ, ハケメ	－	－
	154		瓦質土器	火鉢	－	－	－	－	灰	灰黄褐	－	－	－
	155		肥前(陶器)	椀	－	4.9	－	－	－	釉	－	コマメ	砂目痕
	156		肥前	皿	－	4.7	－	－	－	釉	－	コマメ	砂目痕
	157		陶器	椀	－	5.4	－	－	－	－	－	－	－
164	158		肥前	椀	10.6	5.6	7.6	－	－	－	－	－	京焼風（上質品）, 18C
	159		肥前	椀	12	－	－	－	－	－	－	－	－
	160		肥前(唐津)	天目	11.2	－	－	－	－	－	釉	釉	唐津天目
	161		肥前	天目	12.2	3.8	－	－	にぶい褐, 黒	黒	－	－	－
	162		肥前	天目	－	4	－	－	－	－	釉	釉	－
	163		肥前	天目	－	4.6	－	－	灰黄褐, 灰褐	灰褐	－	－	17C初頭
	164		肥前(唐津)	椀	－	4.4	－	－	－	－	－	－	－
	165		肥前(唐津)	小徳利	－	5.4	－	－	－	－	－	－	－
	166		肥前(唐津)	鉢	－	8.2	－	－	灰褐	黄褐	コマメ	コマメ	1920年代
	167		肥前(陶器)	皿	8.3	10.2	－	－	－	灰白	釉	－	－
	168		肥前(陶器)	仏具器	－	4.4	－	－	－	－	釉	釉	－
	169		肥前(陶器)	仏具器	－	4.4	－	－	灰白	灰白	釉	釉	釉
165	170		肥前(染付)	椀	18.2	7.1	8.5	－	－	－	－	－	111029, 111030と接合, 荒磯文
	171		常滑	椀	－	5.9	－	－	－	－	－	－	明末一清朝
	172		肥前	椀	13.8	－	－	－	－	－	－	－	くらわんか, 17後半
	173		三島唐津	火入れ	14.4	6.4	6.85	－	－	－	ケズリ, ロクロナデ	ロクロナデ	レンガ色の粘土, 16C前半
	174		二彩唐津	大皿？	－	8.9	－	－	－	－	ケズリ, ロクロナデ	ハケメ	土佐か一上後合, 17C後半
	175		陶器(鉄絵)	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	18, 19Cか
	176		肥前(染付)	瓶	－	－	－	－	－	－	－	ロクロナデ	－
	177		肥前	皿	－	6.9	－	－	－	－	－	－	－
166	178		肥前	大皿	－	9.5	7.2	－	－	－	－	－	1630～50年代, 太平録
	179		肥前	皿	13.8	4.6	－	－	褐	褐	－	－	－
	180		肥前	皿	13	4.6	－	－	褐	褐	－	－	－
	181		肥前	皿	11.2	4.2	－	－	－	－	－	－	－

表57　中・近世遺構出土遺物観察表(6)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
167	182		常滑焼	壺	-	-	-	-	-	黄灰	-	-	-
	183		瀬戸	壺	-	-	-	-	-	灰黄褐	-	-	-
	184		常滑焼	大甕	-	-	-	-	褐	灰	-	-	-
	185		肥前(磁器)	小皿	7.2	3	3.9	-	-	-	-	-	-
	186		肥前(染付)	小皿	6	2.4	4.2	-	-	-	-	-	-
	187		肥前(染付)	小皿	5.6	-	-	-	-	-	-	-	-
	188		肥前(色絵)	碗	-	4.3	-	-	-	-	-	-	色絵。17C
	189		肥前	碗	11	-	-	-	-	-	-	-	-
	190		肥前(染付)	皿	13.5	5	3.3	-	-	-	-	-	美濃手？肥前。1650～1670年代
	191		肥前(染付)	碗	-	4.4	-	-	-	-	-	-	-
	192		肥前(清津)	皿	13.8	5	3.1	-	-	-	-	-	古野産凍。17C初頭。底に目跡2。高台畳面に目跡1
	193		肥前(染付)	碗	11	-	-	-	-	-	-	-	-
	194		肥前(染付)	碗	-	5	-	-	-	-	-	-	-
	195		肥前(伊万里)か？	碗	-	4.6	-	-	-	-	-	-	初期伊万里？
	196		肥前(染付)	大皿	-	15.4	-	-	-	-	-	-	明末～清初
	197		青花	皿	15	7.7	3.4	-	-	-	-	-	景德鎮
	198		青花	皿	-	16	-	-	-	-	-	-	景德鎮
168	199		青花	皿	-	6.2	-	-	-	-	-	-	-
	200		青磁	碗花皿	11.8	-	2.4	-	-	-	-	-	施釉
	201		青磁	坏	-	-	-	7	-	-	-	-	陶少品（上地）。F期、坏皿-1類
	202		青磁	皿	-	5.2	-	-	-	-	-	-	-
	203		青磁	小壺	-	4.6	-	-	-	-	-	-	6期以降
	204		青磁	碗	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	205		青磁	壺	6.4	-	-	-	-	-	-	-	-
	206		青磁	小皿	8.2	4.2	-	-	-	-	-	-	-
	207		青磁	壺	11.9	-	-	-	-	-	-	-	-
	208		青磁	壺	7.8	-	-	-	-	-	-	-	-
	209		青磁	壺	22.8	-	-	-	-	-	-	-	-
	210		白磁	皿	-	8.2	-	-	-	-	-	-	-
	211		白磁	碗	14.4	-	-	-	-	-	-	-	白磁梅原類
	212		陶器	壺	13.6	-	-	-	淡黄	淡黄	-	-	-
	213		青白磁	皿	11.8	-	-	-	-	-	-	-	(C-)3類
	214		白磁	皿	16	-	-	-	-	-	-	-	福建かりとされる（手塚、亀井氏）。6期
	215		白磁	水注か壺	11.4	-	-	-	-	-	-	-	C-2類。壺底類
	216		白磁	瓶	6	-	-	-	-	-	-	-	-
	217		白磁	皿	11.2	-	3.15	-	-	-	-	-	1120247. 111077と接合
	218		白磁	皿	-	10.4	-	-	-	-	-	-	-
	219		白磁	碗	-	6	-	-	-	-	-	-	-
	220		白磁	碗	-	5.2	-	-	-	-	-	-	-
	221		白磁	皿か鉢	-	3	-	-	-	-	-	-	11C後半～12C前半（C期）
	222		白磁	皿	13.4	-	-	-	-	-	-	-	-
	223			碗	-	6.2	-	-	-	-	-	-	-
	224		白磁	碗	-	6.8	-	-	-	-	-	-	-
	225	大溝	白磁	碗	-	3.8	-	-	-	-	-	-	森田-9類。森村氏の関江上流域。鉢底台
	226		白磁	皿	-	5.2	3.05	-	-	-	-	-	14C
	227		白磁	皿	-	4.3	-	-	-	-	-	-	型作り
	228		青磁	碗花皿	-	5.2	-	-	-	-	-	-	16C
169	229		青磁	碗	13.8	5.1	7.75	-	-	-	-	-	線蓮弁
	230		青磁	碗	-	4.6	6.05	-	-	-	-	-	16C初頭。見込みスタンプ
	231		青磁	碗	12	5.8	5.8	-	-	-	-	-	雲文
	232		青磁	碗	-	5.8	-	-	-	-	-	-	重ね焼き痕・見込みスタンプ
	233		青磁	碗	15.4	-	-	-	-	-	-	-	-
	234		青磁	碗	14.2	5.2	-	-	-	-	-	-	-
	235		青磁	碗	14.4	-	-	-	-	-	-	-	線蓮弁と流雲文
	236		青磁	碗	-	5.8	-	-	-	-	-	-	施釉。
	237		青磁	碗	14	-	-	-	-	-	-	-	雲文・面花文
	238		同安窯	碗	-	5.2	-	-	-	-	-	-	12C後半
	239		青磁	碗	-	5.3	-	-	-	-	-	-	外面に蓮弁文、内面に花文
	240		青磁	碗	-	5.5	-	-	-	-	-	-	-
	241		青磁	皿	-	7.2	-	-	-	-	-	-	施釉
170	242		青磁	碗	-	4.8	-	-	-	-	-	-	唐文
	243		青花	皿	12.8	5.2	3.6	-	-	-	回転ケズリ	ロクロナデ	漳州窯(陶胎)
	244		青花	皿	9.8	4.8	3.5	-	-	-	ケズリ(底面)	ロクロナデ	くらわんか。17C後半
	245		青花	皿	9.4	2.3	2.75	-	-	-	-	-	景德鎮
	246		青花	碗	13	5	4.75	-	-	-	-	-	-
	247		青花	皿	-	4.7	-	-	-	-	-	-	呂宋産高台
	248		青花	碗	11.6	4.2	5.8	-	-	-	-	-	輸入（明末～清初）
	249		青花	皿	-	3.1	-	-	-	-	回転ケズリ	-	呂宋産高台
	250		青花	碗	-	4.15	-	-	-	-	-	-	景德鎮(陶胎)
	251		染付	皿	12.5	7	2.9	-	-	-	回転ケズリ	-	-
	252		青花	碗	13.4	-	-	-	-	-	-	-	漳州窯(陶胎)
	253		青花	皿	-	5	-	-	-	-	-	-	漳州窯
171	263		磁壺	壺	7	-	-	-	褐灰, 暗灰黄	暗灰黄	-	-	晋江磁_窯
	264		輸入陶器	鉢	34	-	-	-	暗灰黄 にぶい赤褐	灰褐 にぶい赤褐	-	-	福建・広東製。大型陶器
	265		青磁	壺	25.8	-	-	-	灰オリーブ	にぶい黄褐 にぶい褐	-	-	三宝壺か四耳壺
	266		陶器	壺	-	7.2	-	-	にぶい橙, 灰	灰褐	-	-	貝目跡。イモガシラ
	267		輸入陶器	壺・鉢	24	-	-	-	灰, 灰褐	灰白, 浅黄	-	-	-
	268		磁壺	鉢	-	14	-	-	にぶい赤褐	にぶい赤褐	-	-	晋江磁壺
	269		輸入陶器	鉢・壺	-	17	-	-	にぶい褐	にぶい褐	-	-	福建・広東
	270		輸入陶器	天目	10.8	3.8	6.1	-	褐, 黒褐, 灰黄	褐, 青黒	-	-	釉全二重がけ。15Cか。来日天目（敬雲窯）
	271		輸入陶器	天目	11.4	-	-	-	赤黒, 浅黄	赤黒	-	-	釉全二重がけ。15Cか。来日天目（敬雲窯）
	272		輸入陶器	壺	-	7.4	-	-	灰, 浅黄	灰	-	-	福建・広東
	273		輸入陶器	壺	-	7	-	-	-	-	-	-	福建・広東
	274		輸入陶器	壺	-	9.4	-	-	黄褐	にぶい黄	-	-	福建・広東
	275		輸入陶器	壺	52.1	-	-	-	灰褐, 暗灰黄	暗灰黄	-	工具によるタタキ痕, 同心円のタタキ痕	福建・広東製か
	276		輸入陶器	壺	52	25	-	-	灰黄, 灰褐	浅黄	-	-	-
	277		輸入陶器	壺	52	25	-	-	灰黄, 灰褐	浅黄	-	-	-

表58　中・近世遺構出土遺物観察表(7)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
171	278	大溝	輸入陶器	壺	-	35	-	-	炭黄	淡黄	-	同心円タタキ痕	福建・広東
	279		輸入陶器	壺(大型)	-	26	-	-	淡黄	淡黄	ケズリ	-	福建・広東
	280												
	281		輸入陶器	壺(大型)	34.2	-	-	-	淡黄	淡黄,炭褐	-	-	福建・広東（タイか？）
	282		輸入陶器	壺	13	-	-	-	黒褐	黒褐	-	同心円タタキ痕ナデ	口唇部貝目？磁華焼の可能性もあり
	283		輸入陶器	壺	13	-	-	-	褐炭	赤炭, にぶい橙	-	-	溝22集石と接合
	284		輸入陶器	壺	23.6	-	-	-	褐炭	にぶい赤褐, にぶい橙	-	-	福建・広東
	285		輸入陶器	壺？	54	-	-	-	炭白	炭白	-	-	福建・広東か？
	286		輸入陶器	長頸壺	55	-	-	-	-	-	-	-	ベトナム
	287		輸入陶器	長頸壺	-	-	-	19	-	-	-	-	ベトナム
	288		肥前	大皿	19.3	5.7	5.1	-	-	-	-	-	17C中～後半。二段手
172	289		肥前	徳利	-	-	-	-	-	-	-	-	17C後半・銅毛目徳利（小古田）
	290		瓦質土器	鍋	-	7	-	-	-	-	-	ハケメ	-
	291		染付	瓶	-	-	-	-	-	-	-	ロクロナデ	-
	292		瓦質土器	擂鉢	25.2	-	-	-	炭黄	黄炭	-	-	-
	293		瓦質土器	擂鉢	28.8	-	-	-	炭	炭	-	-	-
	294		瓦質土器	壺	29	-	-	-	炭黄	黄炭	-	-	-
	295		瓦質土器	火鉢	32	-	-	-	炭	炭	-	-	-
	296		瓦質土器	火鉢	31.6	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	-	-	-
	297		瓦質土器	火鉢か	31	-	-	-	褐炭	褐炭	-	-	-
	298		瓦質土器	火鉢か	-	24	-	-	褐炭	にぶい橙	-	-	-
	299	大溝石列	肥前か	椀	16	-	-	-	-	-	-	-	-
	300		青磁	椀	-	2.9	-	-	-	-	-	-	-
	301		青花	椀	-	6.6	-	-	-	-	-	-	景德鎮
	302		青花	椀	11.5	4.6	5.35	-	-	-	-	-	景德鎮
	303		白磁	椀	-	6.8	-	-	-	-	-	-	漳州窯
	304		青花	皿	12.5	7.1	2.7	-	-	-	-	-	景德鎮
	305		青花	皿	11.2	5.2	-	-	-	-	-	-	漳州窯
	306		青磁	皿	-	5.8	-	-	-	-	-	-	中国, 15C
	307		土師器	ホウロク	6	-	-	-	炭白	炭白	ナデ・ユビオサエ	ナデ・ユビオサエ	フライパン型
	308		瓦質土器	壺？	-	-	-	-	炭	炭	-	-	-
	309		瓦質土器	壺？	28	-	-	-	炭	炭	-	-	-
175	1	溝内集石1	中世須恵器	壺	33	-	-	-	炭黄	黄炭	ハケメ	-	産地不明
	2		中世須恵器	壺	-	-	-	-	にぶい黄橙	炭黄褐	-	-	東播磨系か
	3		中世須恵器	壺	-	-	-	-	褐炭	にぶい褐	-	-	-
	4		陶器	擂鉢	-	12	-	-	炭褐	炭黄褐	-	-	備前か？
	5		陶器(常滑)	壺	43	-	-	-	-	-	-	-	-
	6		瓦質土器	擂鉢	30	-	-	-	炭	炭	ハケメ	-	-
	7		中世須恵器	壺	-	-	-	-	黄炭	炭白	-	-	産地不明
	8		土師器	大皿	-	18	-	-	褐炭	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	-
	9		瓦質土器	擂鉢	-	9.6	-	-	炭黄	黄炭	-	-	-
	10		輸入陶器	壺	-	11.4	-	-	黄炭, にぶい橙	にぶい橙, 暗炭黄	-	-	華南か？
	11		中世須恵器	壺・壷	-	12	-	-	-	-	ハケメ	-	-
	12		輸入陶器	鉢	-	-	-	-	淡黄	炭褐, 淡黄	-	-	-
177	14	溝9	青磁	椀	-	6	-	-	-	-	-	-	「王福」か
	1		染付	椀	10.6	-	-	-	-	-	-	-	-
	2		肥前(陶器)	大皿	-	13	-	-	-	-	-	-	白木原窯。スタンプ文様。17C中頃
	3		肥前(磁器)	大皿	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4		白磁	皿	9	-	-	-	-	-	-	-	国産
	5		白磁	碗口	-	3	-	-	-	-	-	-	国産
	6		青花	皿か	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7		瓦質土器	火鉢	39.2	-	-	-	炭白	炭白	-	-	-
	8		フイゴ	羽口	-	-	-	-	炭白, 褐炭	にぶい橙	-	-	-
	9		瓦質	壺	-	-	-	-	炭褐	炭黄褐	-	-	貝目, 堂平Ⅱ
	10		陶器(常滑)	壺	-	17.4	-	-	にぶい赤褐	灰7.5Y	炭	-	-
	11		土師器	ホウロク	-	-	-	-	淡黄橙	淡黄橙	-	-	-
	12		瓦質	壺	-	12.6	-	-	-	-	-	-	堂平Ⅱ
178	13	溝10	須恵器	瓶	-	9.6	-	-	炭黄褐	炭黄	-	-	-
	14		陶器(瀬戸)	天目	12	-	-	-	にぶい赤褐, 暗褐	暗褐, にぶい赤褐	-	-	16C中頃
	15		肥前(赤絵)	椀	-	4.8	-	-	炭白	-	-	-	色絵(赤絵)
	16		青磁	小碗	9.2	-	-	-	-	-	-	-	-
	17		青磁	皿	-	6.8	-	-	-	-	-	-	-
	18		青花	皿	-	6.4	-	-	-	-	-	-	景德鎮, 五彩餅子, 16C中
	19		白磁	椀・皿	-	5	-	-	淡黄橙	淡黄橙	-	-	森田<1期, 16C
	20	溝12	土師器	坏	16.4	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	21	溝10	土師器	鍋	-	16.4	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ・横ケズリ	ナデ	やや歪み
	22	溝12	青花	椀	12.6	-	-	-	-	-	-	-	-
	23		青花	椀	13.6	-	-	-	-	-	-	-	-
179	25	溝13	須恵器	壺	-	-	-	-	黄炭	暗炭黄	平行タタキ	同心円当て具	古代
	26		青花	皿	-	2.7	-	-	-	-	-	-	春男説, 皮部勉到ず
	28	溝15	肥前(染付)	椀	11.2	-	-	-	-	-	-	-	大溝北側と接合。「福寿」
	29		肥前(陶器)	皿	-	4.4	-	-	-	-	-	-	内野山
	30		肥前	大皿	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	31		中世須恵器	鉢か？	-	-	-	-	褐炭	にぶい褐	-	-	-
	32		陶器(瀬戸)	擂鉢	-	-	-	-	炭褐, にぶい橙	炭褐	-	-	-
	33		瓦質土器	擂鉢	32	-	-	-	炭白, にぶい橙	炭白	-	-	-
	34		白磁	小皿	-	4.3	1.6	-	-	-	-	-	森田<9期, 鄭高台。森村氏の関江浜城跡
	35	溝15	肥前(染付)	椀	-	4.55	-	-	-	-	-	-	「年製」
	36		須恵器	壺？	-	-	-	4.2	にぶい赤褐	炭赤	-	-	長頸の壺？。T字のヘラ書き
	37		須恵器	壺	-	-	-	-	炭	炭白	格子目タタキ	車輪文	-
	38		東播磨系須恵器	片口鉢	-	7.2	-	-	炭	-	-	-	見込みにガラス質釉付着
	39		青磁	皿	-	6.2	-	-	炭白	-	-	-	中国？花火スタンプ
	40		輸入陶器	壺・甕	-	12	-	-	にぶい赤褐, 暗褐	褐炭	-	-	福建・広東
	41		陶器(瀬戸)	壺	16.2	-	-	-	黄炭	黄炭	-	-	-
	42		中世須恵器	壺	33	-	-	-	-	-	-	-	-
	44		中世須恵器	壺	33.2	-	-	-	-	-	-	-	大溝, 溝21小集石と接合
180	45	鉄溝16	瓦質	壺	34	-	-	-	黄炭	黄炭	-	-	18C以降。貝目
	46		瓦質	壺	34	-	-	-	黄炭	黄炭	-	-	18C以降。貝目
	47		瓦質	壺・甕	-	18	-	-	黄炭	炭黄	-	-	堂平Ⅱ期
	48		瓦質	擂鉢	-	12	-	-	-	-	-	-	堂平Ⅱ期
	49		陶器(瀬戸)	擂鉢	-	-	-	-	炭	黄炭	-	-	-
	50		瓦質土器	羽釜	-	-	-	-	炭黄褐	黄炭	-	-	-

表59　中・近世遺構出土遺物観察表(8)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
180	51		肥前(磁器)	皿	14	－	－	－	－	－	－	－	－
	52		肥前(陶器)	碗	－	4.6	－	－	－	－	－	－	－
	53		肥前(染付)	碗	－	4.35	－	－	－	－	－	－	－
	54		肥前(陶器)	皿	14.4	－	－	－	－	－	－	－	－
	55	溝16	肥前(陶器)	皿	－	5	－	－	－	－	－	－	－
	56		肥前(陶器)	鉢	11.8	－	－	－	－	－	－	－	－
181	58		青花	皿	13	6.4	－	－	－	－	－	－	見込総ノ目釉剥ぎ。16C、薄州窯
	59		青花	皿	10	2.4	2.85	－	－	－	－	－	基弊底高台・薄州窯
	80		青花	碗	13.2	－	－	－	－	－	－	－	薄州窯
	61	溝20	青花	碗	13.3	－	－	－	－	－	－	－	薄州窯
	62	溝16	青花	皿	9.2	－	－	－	－	－	－	－	薄州窯
	63		白磁	皿	－	4.5	－	－	－	－	－	－	中国製か
	64	溝20	陶器	壺・甕	－	28.4	－	－	浅黄	浅黄	－	－	大型、産地不明
	65	溝16	青磁	壺	－	－	－	－	黒褐	黒褐	－	－	130個分実―E類
182	66	溝17	青花	皿	12.6	6.4	2.45	－	－	－	－	－	景德鎮
	67		肥前	鉢	18.9	－	－	－	褐灰	灰黄	－	－	－
	68		青磁	皿	10.2	5.5	2.9	－	－	－	－	－	－
	69		土師器	こしき	－	－	－	－	にぶい橙	－	－	－	－
	70		須恵器	壺	－	－	－	－	ﾁﾘｰﾌﾞ灰	ﾁﾘｰﾌﾞ灰	－	－	口縁部
	71	溝19	青花	碗	12.8	4.6	4.3	－	－	回転ケズリ	－	－	薄州窯
	72	溝21	土師器	小皿	－	5.4	－	－	浅黄	にぶい黄橙	－	－	糸切り。中世
	74		肥前(陶器)	皿	－	4.4	－	－	－	－	－	－	－
	75		陶器(瀬戸)	擂鉢	24.4	13	－	－	灰黄, にぶい橙	暗灰黄	－	－	－
	76		陶器(瀬戸)	鉢	26	－	－	－	灰, 灰黄	灰	－	－	－
	77		瓦質土器	皿	21	－	－	－	黄灰	褐灰	－	－	－
	78		瓦質土器	鉢	28.2	－	－	－	灰白	灰白	－	－	筑後国府に同類あり。14C後半
	79		瓦質土器	羽釜	17.4	－	－	－	灰白	灰黄	－	－	－
	80		陶器(常滑)	壺	－	－	－	－	褐	褐灰	－	－	－
	81		中世須恵器	壺	－	－	－	－	黄灰	灰黄	格子目タタキ	ハケメ	－
	82		陶器	鉢	－	17	－	－	黒褐	暗赤褐	－	－	産地不明
183	84	溝22集E4	土師器	小皿	8.4	－	－	－	橙	橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	85		土師器	小皿	－	5.4	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	86		肥前(陶器)	皿	－	4.6	－	－	－	－	－	－	初期伊万里
	87	溝22集E3C	肥前(染付)	碗	11.6	－	－	－	－	－	－	－	－
	88	溝22集E3C	青磁	皿	13.8	－	－	－	－	－	－	－	－
	89		青磁	皿	－	12.6	－	－	－	－	－	－	－
	90		青磁	皿	－	5	－	－	－	－	－	－	－
	91		青磁	碗	－	5.5	－	－	－	－	－	－	－
	92	溝22集E3B	青磁	小碗	12.8	－	－	－	－	－	－	－	14C
	93	溝22集E3A	青磁	鉢	－	4.4	－	－	－	－	－	－	－
	94		輸入陶器	天目	－	－	－	－	－	－	－	－	磁鉄鉱
	95		白磁	皿	12.4	－	－	－	－	－	－	－	－
	96		青磁	花瓶・瓶	－	9	－	－	－	浅黄	－	－	－
	97		青磁	不明環瓶	－	－	－	－	－	－	－	－	外面のみ全面施釉
	98		磁比黒	壁	－	22	－	－	にぶい橙	－	－	－	曹江磁比黒
	99		東播磨系須恵器	片口鉢	27.6	－	－	－	灰	灰	－	－	神出・魚住でない
	100		中世須恵器	壺	33.8	－	－	－	灰白	灰白	－	－	神戸ないか
	101		瓦質土器	羽釜	16.4	－	－	－	灰	灰白	－	－	陽炎あり
	102		須恵器	壺	－	14.4	－	－	灰	灰	－	－	－
	103		陶器(常滑)	壺	－	－	－	－	－	灰褐	－	－	－
	104		瓦質土器	擂鉢	－	10.2	－	－	灰	灰	－	ハケメ	スリ目はない
	105		東播磨系須恵器	壺	－	－	－	－	灰	灰	格子目タタキ	ハケメ	大溝と接合。中世
	106		土師器	ホウロク	－	－	－	－	にぶい黄橙	浅黄橙	－	－	フライパン形
	107		東播磨系須恵器	片口鉢	23.2	－	－	－	灰	灰	－	－	神出・魚住でない
	108	溝22	白磁	碗	－	5.6	－	－	－	－	－	－	森田C類・16C
	109	溝22集E3A	中世須恵器	壺	－	－	－	－	灰	灰	山形タタキ	－	山形タタキ
184	110	溝23	青磁	碗	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	111		青磁	碗	－	7.2	－	－	－	－	－	－	施釉
	112		青磁	皿	－	8	－	－	－	－	－	－	－
	113		肥前(唐津)	皿	13.2	4.85	3.8	－	灰白	灰白	－	－	唐津・皮鯨。17C前
	114	溝24	青花	皿	13.8	4.7	3.6	－	－	－	－	－	景德鎮。景弊底高台
	115		青花	皿	－	4.9	－	－	－	－	－	－	薄州窯
	116		肥前	鉢口	7.6	3	－	－	－	－	－	－	－
	117		肥前	鉢口	7.6	3.05	－	－	－	－	－	－	－
	118		白磁	碗	－	4.4	－	－	－	－	－	－	－
	119		青花	碗	11.9	－	－	－	－	－	－	－	薄州窯
	120	溝24集E4	土師器	大皿	26	－	－	－	黒	にぶい橙	ナデ	ナデ	スス付着。糸切り。中世
	121		砂壁	壁	－	－	－	－	にぶい橙	－	－	－	－
	122		須恵器	碗	16.4	6.9	－	－	黄灰	黄灰	－	－	古代か？東播磨系ではない
	123		東播磨系須恵器	壺	－	－	－	－	黒	灰	－	－	神出・魚住でない
	124	溝24集E3B	瓦質土器	羽釜	－	－	－	－	浅黄	浅黄	－	－	－
	125		瓦質土器	擂鉢	－	14.8	－	－	灰	灰	－	－	－
	126	溝24	陶器(瀬戸)	擂鉢	34.8	－	－	－	にぶい黄橙	灰黄褐	－	－	福建・広東沿岸
	127		輸入陶器か	壺	11.8	－	－	－	褐灰	にぶい赤褐	－	－	産地不明
	128	溝24集E3C	陶器	鉢か	－	9	－	－	にぶい赤褐	灰黄褐	－	－	産地不明
	129		陶器	壺か	－	4.5	－	－	灰黄	褐灰	－	－	産地不明
185	132	溝25	白磁	壺	－	－	－	－	－	－	－	－	D―F類
	133	溝26	肥前(染付)	碗	13.6	－	－	－	－	－	－	－	－
	134		肥前(染付)	蓋	14.2	－	－	－	－	－	－	－	焼成やや不良（温元不良）
	135		肥前	皿	－	－	－	－	－	－	－	－	16C末―17C前半
	136		肥前(染付)	皿	－	5.3	－	－	－	－	－	－	－
	137		青花	碗	－	3.9	－	－	－	－	－	－	薄州窯(陶胎？)
	138		肥前(染付)	皿	13.2	5.3	3.2	－	－	－	－	－	－
	139		青花	碗？	－	5.4	－	－	－	－	－	－	薄州窯
	140		輸入陶器	壺	11	－	－	－	にぶい橙	にぶい橙	－	－	福建・広東
	141		瓦質土器	羽釜	－	－	－	22	黄灰	暗灰黄	－	－	－
	142		青磁	碗	16	－	－	－	－	－	－	－	－
	143		陶器	擂鉢	9.8	－	－	－	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	近世
186	144	溝28	土師器	皿・坏	16.2	－	－	－	灰白	灰白	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	145		土師器	皿・坏	－	9.2	－	－	にぶい黄	にぶい黄	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	146		土師器	皿・坏	－	7.6	－	－	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	147		土師器	小皿	－	5.4	－	－	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	148		肥前(陶器)	大皿	－	7.8	－	－	－	－	－	－	初期伊万里

表60　中・近世遺構出土遺物観察表(9)

挿図	No.	遺構	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	色調（外）	色調（内）	調整（外）	調整（内）	備考
186	149	溝39	肥前	碗	－	5	－	－	－	－	－	－	1690～1780年代
	150		肥前（染付）	碗	－	5.2	－	－	－	－	－	－	－
	151		肥前か		－	5	－	－	－	－	－	－	－
	152		常石	碗	－	5.15	－	－	－	－	－	－	貫徹銘
	153		肥前	天目	－	6	－	－	にぶい赤褐	暗褐	－	－	－
	154		陶器	鉢	－	－	－	－	黒褐	黒褐	－	－	産地不明
	155		常石	皿	9.4	5	－	－	－	－	－	－	貫徹銘
	156		常石	皿	－	2.6	－	－	－	－	－	－	貫徹銘
	157		青磁	蓋	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	159		陶器（黄褐）	壺	－	－	－	－	－	－	－	－	－
187	162	溝34	土師器	皿	－	11.6	－	－	にぶい橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	163		土師器	大皿	－	8.6	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	164		土師器	皿	－	4.5	－	－	浅黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	165		土師器	小皿	－	6.4	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	166		土師器	小皿	6.2	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	167		土師器	皿か	－	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	168		瓦質	碗	13.4	－	－	－	－	－	－	－	加治木・姶良系。16世紀
	169		瓦質	蓋	5	－	－	－	黒	にぶい橙	－	－	－
	170		肥前	碗	－	4.4	－	－	－	－	－	－	－
	171		肥前	碗	－	4.6	－	－	－	－	－	－	－
	172		肥前（磁束）	大皿	32	－	－	－	－	－	－	－	三島磁束。18世紀半
	173		肥前	皿	14	4.4	3.9	－	－	－	－	－	17C前半
	174		肥前（磁束）	碗	－	5.8	－	－	－	－	－	－	17C初頭
	175		肥前（色絵）	碗	－	4.4	－	－	－	－	－	－	色絵（赤絵）
	176		肥前（染付）	碗	－	4.8	－	－	－	－	－	－	－
	177		青磁	碗	17.2	－	－	－	－	－	－	－	外面に雲文
	178		青磁	皿	－	8	－	－	－	－	－	－	春日窯
	179		輸入陶器	鉢	－	－	－	－	灰白	浅黄	－	－	－
	180		肥前（染付）	皿	13	6	3.1	－	－	－	－	－	－
	181		常石	皿	20.9	－	－	－	－	－	－	－	貫徹銘？
188	182		陶器	擂鉢	－	9.5	－	－	にぶい黄橙	にぶい橙	－	－	近世
	183		輸入陶器	壺	－	－	－	－	にぶい黄	にぶい黄	－	－	産地不明
	184		輸入陶器	四耳壺	－	－	－	－	にぶい黄橙	灰	－	－	晋江磁社窯、四耳壺
	185		輸入陶器	壺	20.6	－	－	－	黒褐	灰	－	－	福建・広東
	186		中世須恵器	壺	－	24	－	－	灰、灰白	灰	－	－	産地不明
190	1	礎院遺構	土師器	坏	－	－	－	－	にぶい橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	古代～完形
	2		東播磨系須恵器	片口鉢	－	－	－	－	灰	灰	－	－	神出・魚住でない
192	1	集石⑤	肥前（伊万里）	皿	22.2	9.1	7	－	－	－	－	－	染付
	2	集石⑥	陶器	壺	20	－	－	－	－	－	－	－	－
	3		陶器	壺	15.6	－	－	－	－	－	－	－	－
	4		瓦質か	壺か	－	19	－	－	黄灰	暗灰	－	－	－
	5		陶器	壺・壷	－	12	－	－	－	－	－	－	－
	6	集石②　集石⑤	肥前（染付）	碗	11.4	4.9	6.8	－	－	－	－	－	波佐見か？
	7	集石⑤	肥前	碗	11	－	－	－	明褐	明褐	－	－	－
	8	集石⑤	肥前	碗	－	4.2	－	－	灰黄褐	にぶい黄褐	－	－	－
	9		白磁	碗	－	4.8	－	－	－	－	－	－	森田-C類 森E-2(16C)
	10	溝内集石1	陶器（磁束）	擂鉢	29.8	－	－	－	灰	暗黄褐	－	－	船土磁義跡
	11	集石②	陶器（磁束）	擂鉢	－	－	－	－	灰褐	暗褐	－	－	－
	12	集石④	中世須恵器	壺	30	－	－	－	灰白	灰白	－	－	産地不明
	13	集石②	陶器	壺か	－	－	－	－	褐灰	灰黄褐	－	－	産地不明
193	14	溝内集石1	常石	皿	10.8	5	2.75	－	－	－	回転ケズリ	－	藤男窯高台，薄刑窯
	15		肥前	碗	－	4.6	－	－	－	－	－	－	－
	17		青磁	皿	－	5.6	－	－	－	－	－	－	花文（スタンプ）
	18		肥前（陶器）	碗	－	4.2	－	－	－	－	－	－	－
	19		磁社窯	壺	－	－	－	－	灰、暗灰黄	灰オリーブ	－	－	晋江磁社窯
	20		土師器	皿	－	9.6	－	－	灰	灰	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	21		瓦質土器	壺	18	－	－	－	灰	灰	－	－	－
	22		瓦質土器	壺・甕？	－	－	－	－	灰、にぶい黄橙	にぶい橙	－	－	－
194	1	土器埋設遺構	土師器	坏	12	8	3.4	－	浅黄	浅黄	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	2		土師器	坏	12	－	－	－	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
197	1	焼土9	土師器	皿	11.6	－	－	－	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	2	焼土1	土師器	皿	－	10.6	－	－	灰黄褐	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	3		土師器	皿	9.7	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り。中世
	4		土師器	皿	－	11.8	－	－	にぶい黄橙	灰褐	ナデ	ナデ	糸切り。中世
207	1	大溝	青磁	大碗	－	9.0	－	－	－	－	－	－	－
	2		青磁	大碗	－	8.6	－	－	－	－	－	－	－
	3	大型土坑5	肥前（陶器）	擂鉢	－	－	－	－	－	－	ナデ	ナデ	スリメ
	4		肥前（陶器）	壺	－	3.8	3.6	－	－	－	ナデ	ナデ	糸切り

表61　中・近世遺構出土石製品観察表(1)

挿図	No.	出土区	層位	遺構	種別	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	重量 (g)	備考
196	1	1-7	－	大溝	石製品	茶臼	－	－	－	－	21.8	12	－	1,280	直径21.8cm。上部のみ器高11.3cm。
	2	－	－	溝内集石	石製品	茶臼	－	－	－	－	21	－	－	950	直径21cm
	3	W-5	－	溝9	石製品	石臼	－	－	－	－	29.6	7	－	2,050	直径29.6cm
	4	－	－	溝34	石製品	石臼	－	－	－	－	28.6	－	－	720	直径28.6cm
	5	－	－		石製品	茶臼	－	－	－	－	26	－	－	670	直径26cm
	6	－	－	大型土坑5	石製品	茶臼	－	－	－	－	20.4	－	－	100	直径20.4cm
	7	N-8	－	大型土坑3	石製品	茶臼	－	－	－	－	17	－	－	65	直径17cm
	8	GP-4	－	大型土坑5	石製品	茶臼	－	－	－	－	42.2	－	－	140	直径42.2cm
	9	－	－		石製品	茶臼	－	－	－	－	18.2	－	－	490	直径18.2cm
	10	GP-5	－		石製品	茶臼	－	－	－	－	－	－	－	95	－
	11	1-7	－	大溝	石製品	石鉢	－	－	－	－	32.8	13.5	－	1,440	直径32.8cm
	12	PG-5	－	大型土坑3	石製品	石鉢	－	－	－	－	27.6	8	－	1,440	直径27.6cm
	13	D-2	－	ピット内	石塔	石臼か？	－	－	－	－	－	8	－	1,800	－
	14	IJ-4・5	－	溝29	石塔	石臼か？	－	－	－	－	－	－	－	5,500	－
	15	1-8	－	大溝	摩丸石製品	－	－	－	－	－	－	－	－	1,200	石場の可能性あり
	16	－	－	溝24	石塔	五輪塔	－	25	28	17	－	－	－	8,900	地輪の未製品利用か
	17	W-4	－	大型土坑5	石塔	五輪塔	－	21	17.5	17	－	－	－	5,100	空風輪

表62　中・近世遺構出土石製品観察表(2)

挿図	No.	出土区	層位	遺構	種別	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	直径 (cm)	器高 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	備考
199	1	－	－	溝34集石A	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	35	－	－	700	少字耳
	2	T-6	Ⅲa'	－	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	－	－	31.4	580	羽釜
	3	Q-5	－	大型土坑①'	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	22.6	－	－	233	羽釜
	4	C-7	Ⅱ	－	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	23	－	－	110	羽釜
	5	Q-5	－	大型土坑①'	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	－	－	－	80	羽釜
	6	K-4	Ⅲa	－	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	－	－	－	90	スス付着, 羽釜
	7	A-6	Ⅱ	－	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	－	－	－	65	羽釜
	8	－	－	大型土坑①	滑石製品	パレン状石製品	滑石	5	7.5	1	－	－	－	60	滑石二次加工
	9	A-6	Ⅱ	－	滑石製品	パレン状石製品	滑石	6	8.4	2	－	－	－	100	滑石二次加工
	10	B-4	Ⅰ	－	滑石製品	パレン状石製品	滑石	5.5	7	1	－	－	－	45	滑石二次加工
	11	D-6	－	溝28	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	－	－	－	110	－
	12	A-5	Ⅱ	－	滑石製品	石鍋	滑石	－	－	－	－	－	－	45	－
	13	D-9	Ⅲa'	－	滑石製品	重りの錘	滑石	6	4.6	1.95	－	－	－	102	滑石製石鍋転用品・穿孔
	14	F0-3	－	7号土坑墓	滑石製品	石鍋	滑石	2.1	1.65	1.35	－	－	－	5	－
	15	B-5	Ⅱ	－	滑石製品	石鍋	滑石	3.5	1.8	1.5	－	－	－	15	－
	16	A-6	Ⅰ	－	滑石製品	石鍋	滑石	2.4	1.3	0.6	－	－	－	4	－
	17	D-2	Ⅲb	－	滑石製品	石鍋	滑石	2.75	1.15	1.15	－	－	－	4	穿孔径0.3～0.4

表63　中・近世遺構出土土製品・石器・ガラス製品観察表

挿図	No.	遺構	種別	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考2
111	1	2号炉状遺構	土製品	土錘	－	4.1	－	－	－	－
123	4	t2	軽石製品	－	軽石	11.9	11	9.6	236.1	石塊か
	5	t1	軽石製品	－	軽石	4.7	3.4	3	9.5	縄文石器
127	54	大型土坑③	石器	打製石斧	真岩Ⅱ	－	－	－	－	－
128	66		軽石製品	－	軽石	7.40	6.10	1.20	19.90	板状に整形
131	105	大型土坑⑤	土製品	土製品	－	6.4	2	2	－	レンガの可能性あり
136	134	大型土坑①	石器	磨製石斧	真岩	－	－	－	－	縄文石器
	135		石器	磨製石斧	安山岩	12.30	5.50	3.10	281.40	縄文石器
	136		石器	打製石斧	真岩Ⅱ	15.20	6.60	2.60	284.00	縄文石器
	137		石器	磨製石斧	真岩	(12.10)	4.75	3.15	286.00	縄文石器
	138	大型土坑⑥	石器	砥石	砂岩	15	9.5	2.7	520	－
	139		軽石製品	－	軽石	11.1	8.45	6	113.5	植木鉢？
	140		石器	磨製石斧	真岩Ⅱ	(15.05)	(2.90)	(1.70)	107.10	縄文石器
	141	大型土坑⑦	石器	磨製石斧	真岩Ⅱ	10.60	4.60	3.00	246.60	縄文石器
	142		石器	磨製石斧	真岩	14.50	5.35	2.20	180.20	縄文石器
	143	大型土坑④	軽石製品	－	軽石	4.9	4	2	7.4	－
141	35	土坑98	軽石製品	－	軽石	39	21	6	16.2	－
148	47	土坑63	石器	敲石	砂岩	4.2	2.4	2.2	42	縄文石器
152	26	A'5-9	土製品	土錘	－	4.45	1.05	1	4.3	－
170	254	大溝	土製品	土錘	－	4.3	2.2	2.3	－	－
	255		土製品	土錘	－	4.6	1.25	1.15	4.9	指痕明瞭
	258		石製品	鉄錆果	－	－	－	0.5	22	表面硬質
	261		ガラス製品	ガラス玉	－	－	－	－	－	－
173	309	大溝石列	石製品	硯	－	－	－	－	－	－
175	13	溝内集石1	石器	打製石斧	真岩Ⅴ	12.1	5.6	1.3	106.2	縄文石器
	15		石器	磨製	真岩Ⅱ	3.7	10.2	1.5	85.5	縄文石器
179	41	溝15	石器	砥石	真岩Ⅴ	(6.40)	3.70	1.05	30.90	－
	44		石器	打製石斧	真岩Ⅰ	(12.00)	6.55	1.50	132.00	縄文石器
180	57	溝16	軽石製品	－	軽石	3.6	3	1.7	14.6	－
182	73	溝21	石器	磨製石斧	真岩Ⅱ	9.2	4	2	－	縄文石器
184	130	溝24	石器	砥石	砂岩	10.9	8.6	3.1	420	－
	131		土製品	土錘	－	3.2	1.9	1.9	8.1	－
186	158	溝28	軽石製品	－	軽石	11.7	6.1	4	301.2	－
188	187	溝34	石器	磨石	砂岩	4.8	4.3	2.2	71.2	縄文石器
	188		軽石製品	－	軽石	6.8	3.7	1.4	－	－
192	14	集石2	軽石製品	－	軽石	102	7.8	4.6	109.4	－
193	23	横内集石1	石器	打製石斧	真岩Ⅱ	10.10	6.05	1.65	84.30	縄文石器
197	5	焼土1	軽石製品	－	軽石	13.70	12.80	8.40	289.00	－
	7		石製品	石錘	滑石	2.20	1.75	1.30	6.00	－

表64　中・近世遺構出土金属製品観察表

挿図	No.	遺構	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
119	4	13号土坑墓	銅製品	1.9	1.1	0.6	1.1	－
	5			2	0.8	0.6	0.9	－
	6			4	0.9	0.5	1.19	－
	7			4.1	0.9	0.8	2	－
	8			3.5	0.9	0.5	0.93	－
	9			3.7	0.8	0.4	0.86	－
	10			2.9	0.7	0.5	0.89	－
	11			3.2	0.7	0.3	0.91	－
	12			3.1	0.7	0.7	1.1	－
	13			2.7	1	0.6	0.93	－
	14			2.7	0.7	0.6	0.82	－
	15			3.1	0.75	0.9	1.69	－
	16			1.6	0.75	0.5	0.52	－
	17			1.5	1.2	0.35	0.69	－
	18			1.8	1.7	0.5	1.5	－
	19			1.6	1.1	0.4	1.35	－
	20	14号土坑墓		4.3	0.75	0.6	1.65	－
	21			3.7	0.8	0.9	1.75	－
	22			2.4	0.7	0.8	1.09	－
	23			2.4	0.8	0.6	1.18	－
	24	1号土坑墓		12.5	2.3	0.5	19.92	ヘラ, 刀部はない
	25	14号土坑墓		2.8	0.8	13	1.57	－
	26			4.1	0.1	0.6	1.55	－

挿図	No.	遺構	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
119	27	18号土坑墓	鉄製品	2.6	2.2	1	13.92	－
126	24	大型土坑①	鉄製品	6.5	1.4	0.7	6.84	－
	25		銅製品	7.3	1	0.65	21.83	銅
127	44	大型土坑②		4.4	3	0.5	6.7	ノミロ式盛刀（短刀）
128	67	大型土坑③		2.1	1.9	0.7	2.27	古銭に酒ず
131	107	大型土坑⑤		6.8	3.8	0.9	22.58	持鋏
	108			8.2	1.4	0.5	10.43	－
148	48	土坑内		3.1	0.8	0.5	－	釘
	2	ピット		12.6	2	0.65	74.73	穿孔
152	27	K9-5		4.3	2.8	0.8	8.38	持鋏鋏
	28	M7-29		7.3	1.3	0.6	5.62	刀子
	29	M9-15		2.2	1.9	0.4	1.32	小札
	30	K9-51		2.3	0.5	0.4	2.45	－
	31	M7-36	銅製品	2.3	0.5	0.4	0.51	－
170	256	大溝	鉄製品	3.2	0.3	0.3	0.53	針？
	257		銅製品	6.9	0.35	0.4	2.45	針？
	259		鉄製品	4.3	1.3	0.2	3.33	釘か？
	260		銅製品	－	－	－	－	金箔・鋲金具
182	83	溝21	鉄製品	7.3	1.4	0.8	8.8	－
186	160	溝28		2.8	1.2	0.4	7.18	－
	161			9.1	2	0.6	－	穿孔
197	6	焼土1		9.6	1.3	0.6	14.31	－

写真図版

1号住3

1号住9

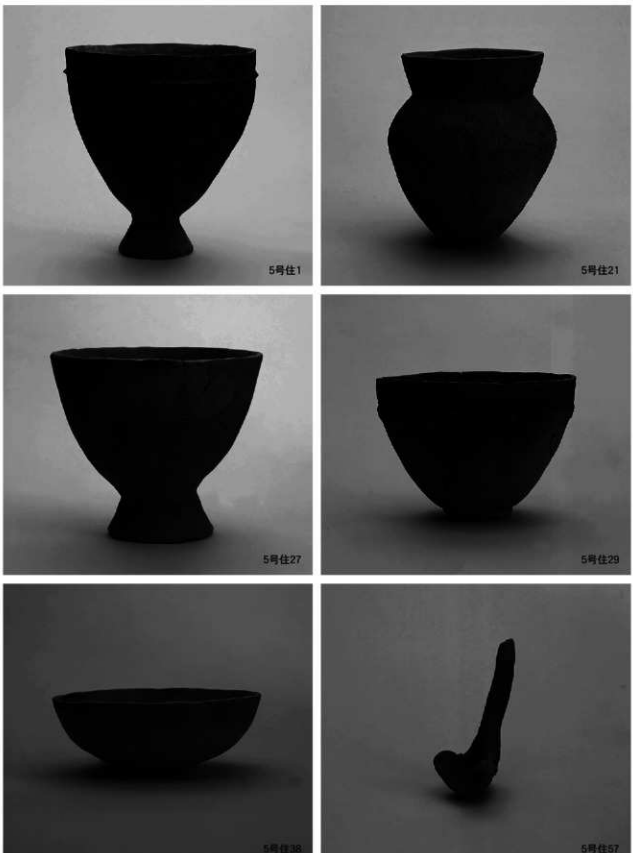
1号住30

3号住15

4号住9

4号住11

古墳時代住居跡出土土器①



古墳時代住居跡出土土器②

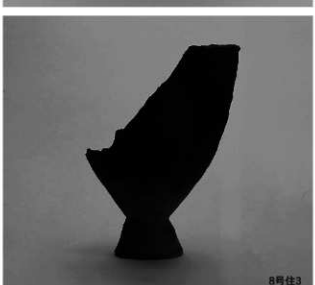
6号住5

6号住26

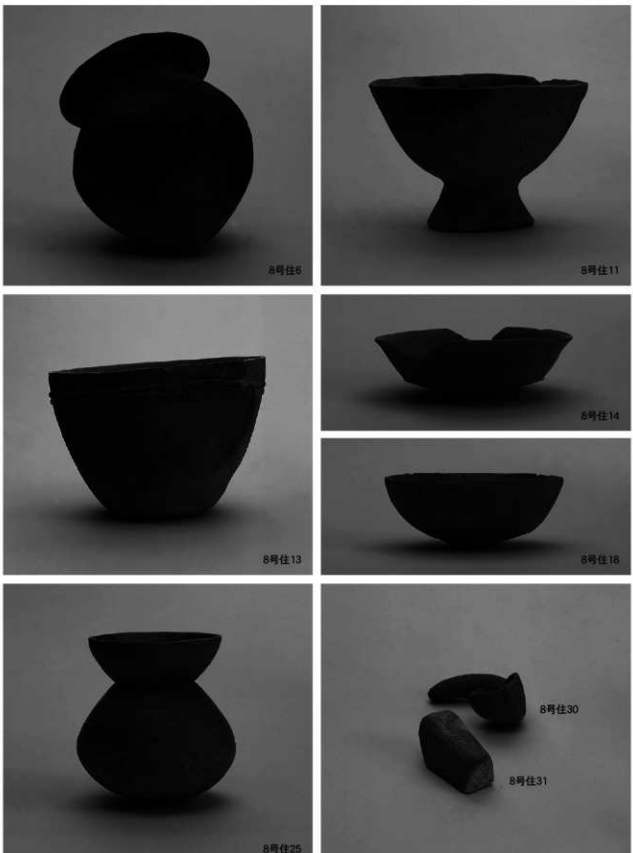
6号住18

6号住73

6号住89

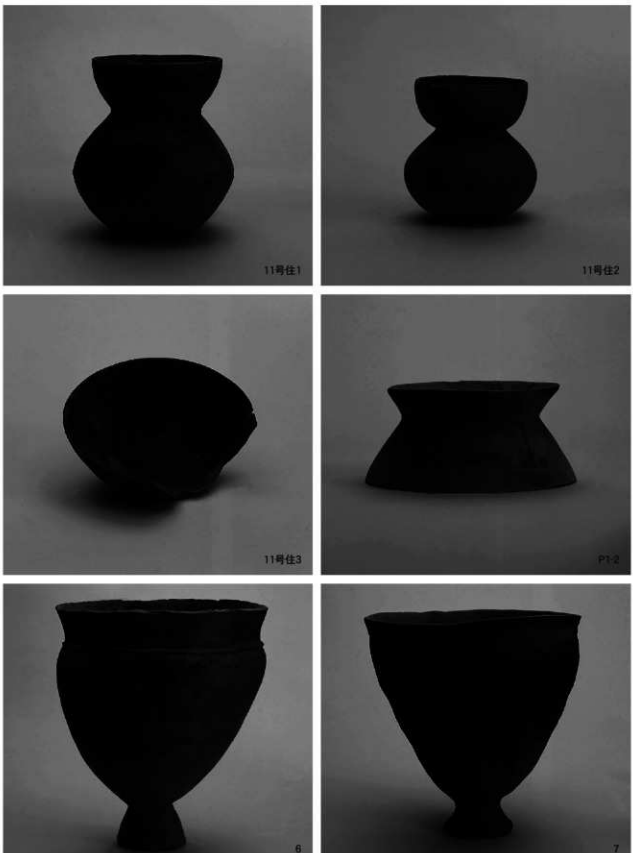

8号住3

古墳時代住居跡出土土器③

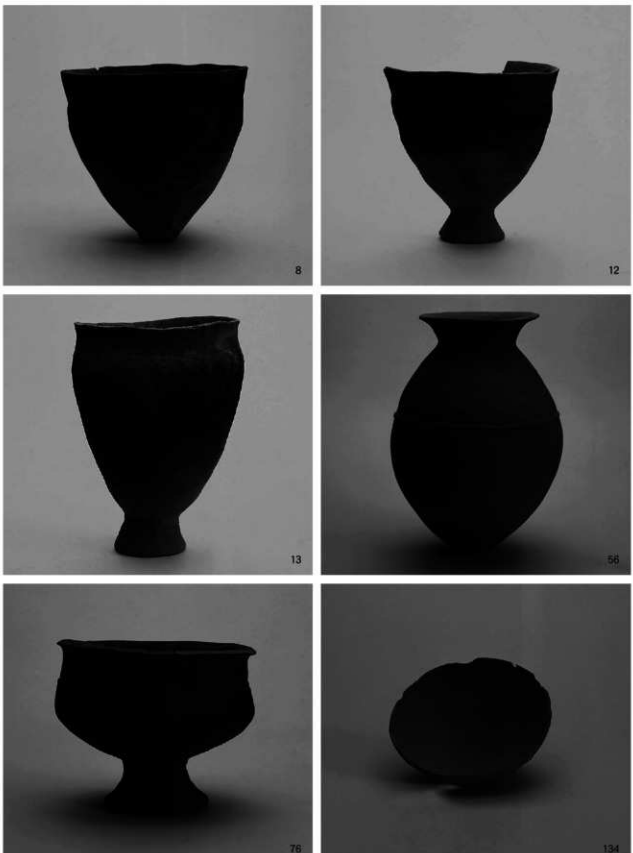


古墳時代住居跡出土土器④

古墳時代住居跡出土土器⑤



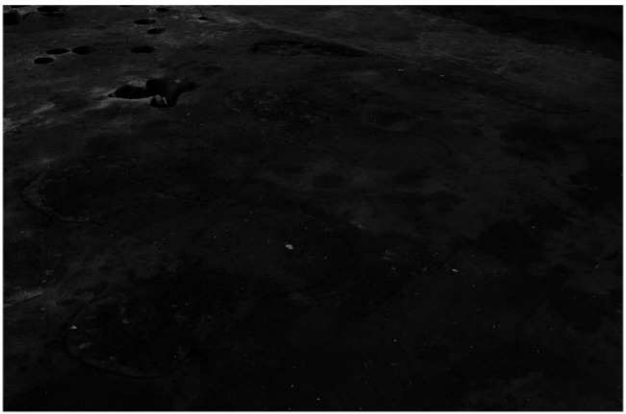
古墳時代住居跡出土土器⑥及びその他の土器①



古墳時代のその他の土器②

竪穴建物1号検出状況

竪穴建物2号検出状況

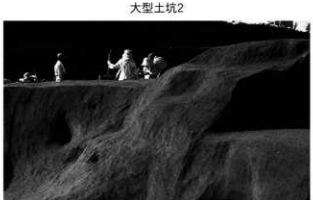


左から炉状遺構16号・15号・14号・13号・古道1（南西側からみる）

大型土坑1

大型土坑2

大型土坑3

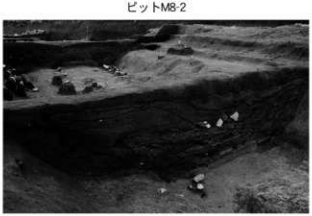


大型土坑3の階段状部分

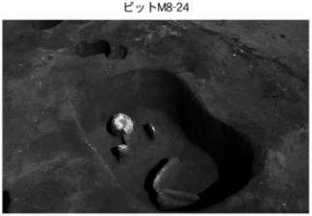
炉状遺構・大型土坑検出状況

ピットM8-2

ピットM8-24



大溝の断面



11号土坑墓

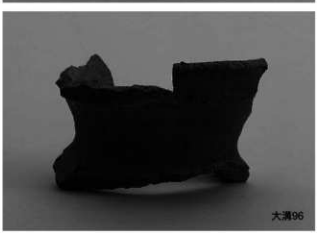
15号土坑墓

ピット・大溝・土坑墓 検出状況

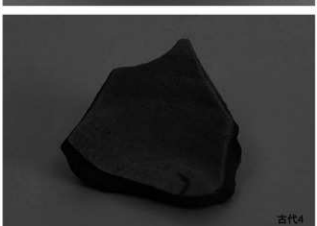
古代2

溝122

祭横1


大溝96

古代3


古代4

古代9

大溝93

古代包含層遺物・中近世遺構内出土遺物①

土師器埋設

大溝229

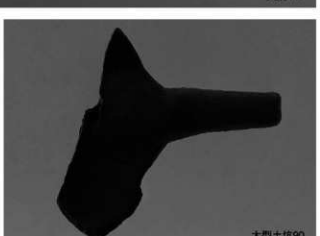
溝97

溝43

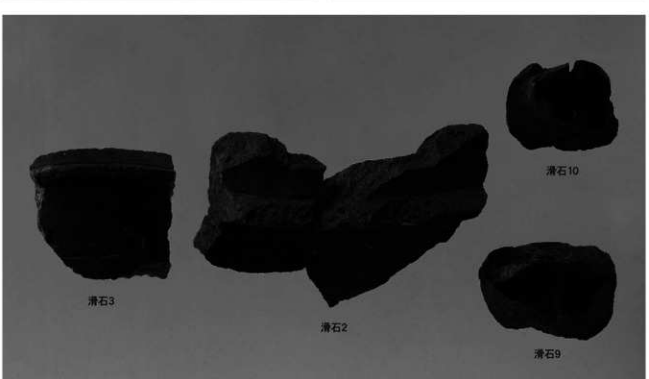
溝103

大溝117

大型土坑86


大型土坑90

中・近世遺構内出土遺物②



中・近世遺構内出土遺物③

大型土坑119

大溝148

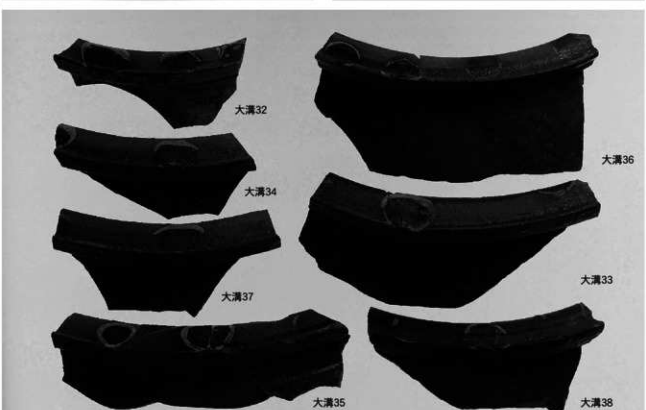
大溝149

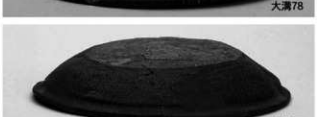
大溝308

大溝152

土坑6

中・近世遺構内出土遺物④





中・近世遺構内出土遺物⑤

大溝79

大型土坑85

大溝67

大溝70

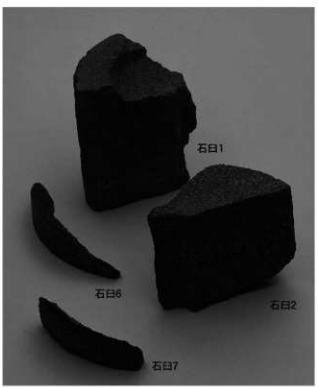
大溝82

大溝83

大溝289

集石6

中・近世遺構内出土遺物⑥



中・近世遺構内出土遺物⑦・上水流遺跡の整理作業員と担当職員

あとがき

本報告書は古墳時代から近世編についてのものであるが，編集を終えてみて改めてその内容の豊富さに圧倒された。古墳時代と中近世ではともに集落があり，かつ重要な遺構・遺物が確認されている。調査中から「これはすごい」という声が内外から何度も聞こえてはいたが，まさかこのような河川沿いにこれだけの遺構・遺物が存在し，また重要なものがこれほど多く含まれていることなど予想だにしえなかった。

これらの遺構・遺物の中には，適切な評価を与えることができたとは言い難いものもある。この反省は，他の万之瀬川関連遺跡へ生かしていくことをしたい。また，今後も継続的に本遺跡について深めていきたい。　(U)

調査に関わった方々

発掘作業員

阿久根勝美　阿久根香子　鯵坂他賀子　有薗千代子　有村末彦　有元キミエ　安藤つゆ子　池畑眞理子　石原逵義　石間伏広志　今村孝蔵　今村延良　今村孝　今村道子　井料満弥　井料信子　井出ヶ原洋子　今門謙　上大田五月子　上薗建藏　上薗光子　上埜操　内田ノブ子　大山健一　大坪満雄　尾辻ちひろ　柊マリ子　加治屋ミヤ子　片平サクラ　上久保エミ子　神野アキ子　神野勝徳　神野智子　狩集まゆみ　川崎和美　川治国治　川井健次　川村義博　川原テミ　川路ハナ子　川原嘉一　柿園ヨリ子　勝里美　木落よし子　久保田敏子　久保次男　古城信雄　小牧繁臣　小森利文　小峯成　五反スミ子　坂上良光　坂下ヨシ子　坂元愛子　坂口スミ子　坂野タヅ子　鮫島文夫　鮫島マリ子　鮫島カツエ　鮫島キミエ　下大薗サキ　下大薗ヒサエ　下薗操　芝原弘光　十田國子　城倉正勝　白間謙章　新徳三郎　清木場ミチ子　下野利男　諏訪薗茂夫　諏訪薗トミエ　諏訪薗幸夫　園田貞子　立石みずき　田添洋子　橋薗隆雄　鶴東イツエ　津原勝久　寺内桃代　寺師マユミ　堂薗アサエ　堂薗萬屋子　年永敦子　年永輝雄　鳥越のり子　田中七サエ　中禮アヤ子　中禮四夫　中江イツ子　中島豊文　中山みほ子　中野明浩　中間正信　西前和子　二宮久志　二宮ふみ子　西田ユミ子　野入高美　長谷川すみ子　畠中茂孝　畠中良節　八田久二　原口久治　原口徴子　原口シヅ子　原口マサ子　原口操子　原園ヒロ子　花牟礼イツ子　花立晃　東福子　日吉順男　平田和哉　東小園ヨシ子　平山美恵子　久永マリ子　福島リウ子　福水キヨ子　福水健一　古市昭子　藤田政久　藤田正美　前田トシ子　前田裕見子　前原タマ子　前野政治　松下武見　前田みえ子　牧勝雄　松山影行　前野ヨシ子　南道子　南良子　宮下麻貴子　宮脇イチ子　宮内敏郎　南ヨシ子　南ヨツエ　宮里サツ子　森川伸子　森勉　森田幸子　森田裕一　宿利哲夫　山口正人　山口順子　矢崎則夫　横田利男　吉留美紀子　吉留ミチ子

整理作業員

浅山順子　有川ひとみ　有村貴子　池田真弓　石井涼子　石坂きくえ　市薗厚子　石坂啓子　井出上福代　今村智子　稲留文子　今西ゆかり　植山ひろみ　海老原弘子　大田雅子　大保裕子　大村彌紀　小倉ひろ子　小田原美保　落合由美子　乙幡佳子　柏木節子　柏木和子　柏原千鶴　加藤明子　川野高子　上赤世津子　北道成子　郷田千秋　古賀野美智子　小薗久美子　後藤ひろみ　木島恵美　小中由美子　細田保子　榮素子　迫間洋子　佐土原恵　鮫嶋みどり　重久ひとみ　下入佐正子　新徳より子　末川章吾　末川七々恵　末原智子　杉本夏美　瀬戸口俊子　竹ノ内礼子　田中美佐枝　田ノ上舞美　田實美穂　田代御美　立山佳代子　田淵一子　垂門加世　鶴みつ子　寺田美幸　土井明子　中川七ヒロミ　中川原聡子　水井菊子　長澤みどり　永田和子　永田ひとみ　長友みゆき　中村敏江　西清子　西浩司　西川明美　西川貴浩　西園礼子　西田のり子　野辺由美子　原田ゆかり　橋口まゆみ　橋口晶子　東国原ゆかり　福園とし子　福留良映　藤田みどり　古里智恵子　別府祐子　松平ひとみ　松下奈津美　松村郁美　真野さゆり　丸山みゆき　宮坂多美子　宮原紀代　毛井恵子　持田好子　森山優子　八女代祐子　山下貴子　山元順子　吉岡美喜　徳田有希乃　永濱功治　永山修一　中村直子　西田茂　西園勝彦　新田栄治　野岡日男　橋口拓也　橋口亘　橋本達也　林匡　韓盛旭　東和幸　日高勝博　日高奉文　日高正人　廣栄次　福水修一　福水裕曽　福島吾意子　藤井大祐　藤尾慎一郎　本田道輝　前迫亮一　馬籠亮道　松田朝由　真邊彩　宮下貴浩　宮地聡一郎　村上恭通　桃崎佑輔　森内秀造　八木澤一郎　柳原敏昭　山中一郎　山元宏子　横手浩二郎　吉岡康弘　羅善華　渡辺芳郎　和田ゐみ子

なお，上記のほか発掘調査から報告書作成に至るまで以下の多くの方々の御指導・御教示・御協力をいただいた。

赤塚志保　網田龍生　石田和哉　泉拓良　板倉佳代子　岩永勇亮　池田榮史　上田耕　上東克彦　大野薫　岡田章一　甲斐康大　加藤武司　川上岩男　川口雅之　河瀬正利　切通雅子　久保智康　久保弘幸　栗林文夫　黒住耐二　桑波田武志　倉元良文　黒田恭正　児玉健一郎　坂口英毅　相美伊久雄　佐藤亜聖　佐藤真人　新里貴之　新留美香　住田雅和　関一之　高倉洋彰　竹下国光　立神勇志　丹治康明　土橋陽子　鶴田静森　樋泉居二　堂込秀人

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（121）
中小河川改修事業（万之瀬川）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅲ）

上水流遺跡 2

古墳時代から近世編

発行年月　平成20年3月
発　　行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318
鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号
☎（0995）48-5811
印 刷 所　（株）プリンティング三州
〒892-0871
鹿児島市吉野町5501-4
☎（099）244-3334

鹿児島県